証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定

（2026 年度）

2026 年 10 月

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
ディスクロージャー研究会

ディスクロージャー研究会委員

座　　長	許斐　潤	野村證券
座長代理	伊藤 敏憲	伊藤ﾘｻｰﾁ･ｱﾝﾄﾞ･ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞﾘｰ
	五十崎 義将	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	内田 陽祐	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	鈴木 孝彦	明治安田生命保険
	津田 和徳	大和証券
	森田 正司	岡三証券
	渡辺 英克	みずほ証券

（五十音順）

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	川嶋 宏樹	SMBC 日興証券
食　　品	守田　誠	野村證券
化 学 ・ 繊 維	渡部 貴人	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
トイレタリー･化粧品	広住 勝朗	大和証券
医　薬　品	山口 秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
鉄鋼・非鉄金属	山口　敦	SMBC 日興証券
機　　械	田井 宏介	大和証券
電気・精密機器	佐渡 拓実	大和証券
自動車･同部品･タイヤ	箱守 英治	大和証券
エ ネ ル ギ ー	新家 法昌	みずほ証券
運　　輸	姫野 良太	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
通信・インターネット	増野 大作	野村證券
商　　社	成田 康浩	野村證券
小　売　業	小場 啓司	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
銀　　行	高宮　健	野村證券
保険・証券･その他金融	村木 正雄	SMBC 日興証券
ITｻｰﾋﾞｽ・ソフトウェア	上野　真	大和証券
広告･ﾒﾃﾞｨｱ･ｴﾝﾀﾃｲﾝﾒﾝﾄ	前田 栄二	SMBC 日興証券
新 興 市 場 銘 柄	古島 次郎	大和証券
個人投資家向け情報提供	林 健太郎	野村證券

目　　次

はじめに …… 2

ディスクロージャー優良企業 …… 4

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業 …… 6

ディスクロージャーの改善が著しい企業 …… 6

概　　括 …… 7

各 専 門 部 会 報 告

建設・住宅・不動産 …… 13

食　　品 …… 20

化 学 ・ 繊 維 …… 27

トイレタリー・化粧品 …… 35

医　薬　品 …… 43

鉄鋼・非鉄金属 …… 50

機　　械 …… 56

電気・精密機器 …… 64

自動車・同部品・タイヤ …… 75

エ ネ ル ギ ー …… 82

運　　輸 …… 91

通信・インターネット …… 99

商　　社 …… 106

小　売　業 …… 112

銀　　行 …… 119

保険・証券・その他金融 …… 127

ITサービス・ソフトウェア …… 134

広告・メディア・エンタテインメント …… 141

新 興 市 場 銘 柄 …… 149

個人投資家向け情報提供 …… 156

は　じ　め　に

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の促進・向上を目的として、1995 年度より「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」制度を実施しておりますが、このたび 2026 年度（第 32 回）の選定結果がまとまりました。

本制度の特色は、企業と日頃接している現役の証券アナリストが評価を行っていること、そして、開示書類の発行者である企業と利用者である証券アナリストとの双方向の直接対話に基づく評価であることの二点にあります。

本年度は、業種別では 18 業種を評価対象とし、経営戦略と整合した人的資本に関する開示や、キャピタルアロケーションに基づく現預金使途の明確化など、企業価値の源泉を可視化する情報開示を重視しました。また、資本コストや株価を意識した経営の推進、社外取締役と投資家との建設的な対話機会の創出など、中長期的な企業価値の向上に資する開示姿勢を適切に評価できるよう、質問項目および配点を設定し、評価を実施しました。

その結果、18 業種のうち、半数の 9 業種で受賞企業が入れ替わり、3 業種で初受賞企業、6 業種で返り咲きの受賞企業が選定されました。一昨年、昨年と多くの業種で順位の変動が見られましたが、その傾向が本年度も続いております。

また、2005 年度から実施している新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供に関する優良企業選定は、新興市場銘柄では 3 社（うち 2 社は初受賞）、個人投資家向け情報提供では 3 社が優良企業として選定されました。

詳細につきましては、後掲の各専門部会報告書をご覧ください。

本制度は本年度で第 32 回を迎えました。制度開始当初は延べ約 200 名の証券アナリストの参加によりスタートしましたが、本年度は延べ 500 名を超える方々にご参加いただいております（各業種報告書に氏名等を掲載）。関係者の皆様方のご協力に改めて感謝申し上げます。

なお、本年度は、本制度の対象になっていない中小型株等上場企業の情報開示等の支援を目的として、「中小型株等上場企業向けの業種別のディスクロージャーガイドライン及び好事例」を試行的に作成し、本報告書の附属資料として添付しております。

当研究会では、これまでも企業開示制度や企業を取り巻く環境の変化に応じて評価項目の見直しを行うなど、制度の充実と改善に努めてまいりました。今後も本優良企業選定制度等を通じて企業情報開示の促進・向上に寄与してまいりますので、関係各方面の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ディスクロージャー優良企業

業種ごとに各々第１位の評価を受けた企業、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供において各々上位３位の評価を受けた企業に、表彰盾を贈呈することとしました。

〔業種別〕

建設・住宅・不動産	三菱地所	（7回目）
食品	味の素	（3回連続5回目）
化学・繊維	三井化学	（6回連続10回目）
トイレタリー・化粧品	花王	（2回連続4回目）
医薬品	アステラス製薬	（8回目）
鉄鋼・非鉄金属	ＵＡＣＪ	（3回連続3回目）
機械	小松製作所	（14回目）
電気・精密機器	ミネベアミツミ	（初受賞）
自動車・同部品・タイヤ	横浜ゴム	（初受賞）
エネルギー	ＩＮＰＥＸ	（2回目）
運輸	東日本旅客鉄道	（9回目）
通信・インターネット	ソフトバンク	（3回連続3回目）
商社	伊藤忠商事	（3回目）
小売業	アシックス	（2回連続2回目）
銀行	三井住友フィナンシャルグループ	（3回連続7回目）
保険・証券・その他金融	東京海上ホールディングス	（3回連続8回目）
IT サービス・ソフトウェア	野村総合研究所	（10回連続18回目）
広告･メディア･エンタテインメント	バンダイナムコホールディングス	（初受賞）

ディスクロージャー
2026年度 優良企業
Disclosure
SAAJ 日本証券アナリスト協会

Disclosure
2026 Award for Excellence in Corporate Disclosure
– Industries –
SAAJ The Securities Analysts Association of Japan

〔新興市場銘柄〕

ＢｕｙＳｅｌｌ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓ	（２回連続３回目）
Ｆｉｎａｔｅｘｔ ホールディングス	（初　受　賞）
Ｈ　ｅ　ａ　ｒ　ｔ　ｓ　ｅ　ｅ　ｄ	（初　受　賞）

〔個人投資家向け情報提供〕

味　の　素	（５　回　目）
ソ　フ　ト　バ　ン　ク	（２回連続２回目）
三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	（２回連続６回目）

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において直近3回連続して第2位または第3位の評価を受けた次の5社に、高水準のディスクロージャーを連続維持している企業として称賛状を贈呈することとしました。

食品	アサヒグループホールディングス
化学・繊維	旭化成
化学・繊維	日産化学
機械	ダイキン工業
保険・証券・その他金融	第一ライフグループ

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいと評価された次の 6 社に、称賛状を贈呈することとしました。

化学・繊維	デンカ
機械	ダイフク
電気・精密機器	TDK
電気・精密機器	三菱電機
自動車・同部品・タイヤ	いすゞ自動車
広告・メディア・エンタテインメント	エイチ・アイ・エス

概　　括

ディスクロージャー研究会
座 長　許　斐　　潤

１．評価対象

(1)　業種別については、東証プライム市場の上場株式時価総額上位企業を中心として、建設･住宅･不動産（19 社）、食品（20 社）、化学･繊維（20 社）、トイレタリー・化粧品（8 社）、医薬品（22 社）、鉄鋼･非鉄金属（15 社）、機械（19 社）、電気･精密機器（23 社）、自動車･同部品･タイヤ（20 社）、エネルギー（21 社）、運輸（18 社）、通信･インターネット（10 社）、商社（7 社）、小売業（22 社）、銀行（13 社）、保険･証券・その他金融（9 社）、IT サービス・ソフトウェア（9 社）、広告･メディア･エンタテインメント（24 社）の 18 業種合計 299 社を評価対象とした。

(2)　新興市場銘柄については、グロース、ネクスト、Q-Board およびアンビシャスの 4 つの市場に上場している企業（他市場への変更申請または変更予定を公表しているものを除く。）の中から、時価総額が上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定数以上の 29 社（継続評価企業 11 社、再評価企業（2 年以上前に評価対象としたことがある企業）5 社、新規評価企業 13 社）を評価対象とした。なお、29 社はすべてグロース市場に上場している企業であった。

(3)　個人投資家向け情報提供については、本年度の各業種（18 業種）および新興市場銘柄についての選定結果において上位 1 割（評価対象企業の数を 10 で割った数（小数点第 1 位を切上げ））に入った企業のうち、2025 年 7 月から 2026 年 6 月までの間において、「個人投資家向け会社説明会」を実施した 30 社を評価対象とした。

(4)　評価対象は、原則として 2025 年 7 月から 2026 年 6 月までの間における企業のディスクロージャーである。

２．評価方法等

(1) 業種別の評価については、次のとおり。

①　評価基準は、(a) 経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス、(b) 説明会、インタビュー、説明資料等における開示、(c) フェア・ディスクロージャー、(d) ESG に関連する情報の開示、(e) 各業種の状況に即した自主的な情報開示、の 5 つの評価分野から構成されている。各分野の配点については、ディスクロージャー研究会（以下、「当研究会」という）が定める評価分野別の配点枠の範囲内で、当研究会の下に設置された業種別の各専門部会が設定した（下表参照。5 分野合計で 100 点満点）。

評　価　分　野	配 点 枠
(a)　経営陣の IR 姿勢等	15 点 ～ 50 点
(b)　説明会等	10 点 ～ 40 点
(c)　フェア・ディスクロージャー	5 点 ～ 25 点
(d)　ESG 関連	15 点 ～ 40 点
(e)　自主的情報開示	5 点 ～ 20 点

②　本年度は、5 つの評価分野のうち、「経営陣の IR 姿勢等」や「ESG 関連」の開示内容を中心に見直した。具体的には経営戦略と整合した人的資本に関する開示や、キャピタルアロケーションに基づく現預金使途の明確化など、企業価値の源泉を可視化する情報開示を重視した。また、資本コストや株価を意識した経営の推進、社外取締役と投資家との建設的な対話機会の創出など、中長期的な企業価値の向上に資する開示姿勢を適切に評価できるよう、質問項目および配点を設定し、評価を実施した。

③　各専門部会で決定された上記評価基準に基づき、証券アナリスト経験年数 3 年以上かつ当該業種担当概ね 2 年以上のアナリストで、評価期間中に評価対象企業への接触が 4 回以上あった者（自主申告）、延べ 463 名が評価を行った。

(2)　新興市場銘柄については、上記(1)①の(a)から(e)までの 5 つの評価分野について、13 の評価項目およびそれぞれの配点を設定した。この評価基準に基づき、評価対象期間中に評価対象企業への接触があった 44 名のアナリストが評価を行った。

(3)　個人投資家向け情報提供については、①個人投資家向け会社説明会の開催等、②ウェブサイトにおける開示等、③各種説明会資料、④事業報告書等の内容、の 4 つの評価分野について 15 の評価項目を設定した。この評価項目のうち、5 項目については、各評価対象企業に対しアンケート調査を実施し、その回答に基づき評点を付した。残りの 10 項目については、証券会社等において、個人投資家向けの情報提供に携わっている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員 14 名が、主に、個人投資家に提供される説明資料やウェブサイトでの開示において、個人投資家の理解に資するような情報提供ができているかなどの観点から評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。

(4)　上記(1)から(3)までの評価結果を基に、各専門部会（20 部会、計 143 名の委員）において慎重に分析・検討を行い、それぞれ報告書を取りまとめた。当研究会は、これらの報告書を踏まえて、「優良企業」24 社を選定した。なお、本年度の「優良企業」においては、5 社が初受賞となり、7 社が返り咲きの受賞となった。また、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」5 社、および「ディスクロージャーの改善が著しい企業」6 社も選定した。

３．評価結果の概要

評価結果の詳細は、後掲の「各専門部会報告」に示しているが、その概要は次のとおりである。

(1)　業種別における総合評価平均点は、次表のとおりとなった。ちなみに、全評価対象企業 299 社の総合評価平均点を算出すると、73.1 点（昨年度 71.9 点）であった。（注 1）

業　　種	総合評価平均点（昨年度）
建設・住宅・不動産	79.1 点　（79.7 点）
食 品	64.3 点　（63.1 点）
化学･繊維	74.1 点　（74.6 点）
トイレタリー・化粧品	72.4 点　（70.0 点）
医薬品	72.8 点　（73.1 点）
鉄鋼･非鉄金属	73.2 点　（76.7 点）
機 械　※	73.6 点　（70.2 点）
電気･精密機器	76.7 点　（74.1 点）
自動車･同部品･タイヤ	67.2 点　（66.1 点）
エネルギー	67.7 点　（66.3 点）
運 輸	70.1 点　（68.2 点）
通信･インターネット	75.8 点　（71.2 点）
商 社	84.6 点　（83.0 点）
小売業	71.4 点　（70.5 点）
銀 行	81.6 点　（79.1 点）
保険・証券・その他金融	72.4 点　（73.2 点）
IT サービス・ソフトウェア	70.0 点　（69.8 点）
広告･メディア･エンタテインメント	69.6 点　（64.6 点）

※　機械は昨年度休止のため、括弧内の数字は 2024 年度の総合評価平均点。

①　本年度の評価結果を概観すると、18 業種のうち 9 業種において優良企業の初受賞または返り咲きの受賞となっている。一昨年、昨年を通じて 2 年間で 14 業種において優良企業の入れ替わりがあるなど、多くの業種で順位に変動が見られたが、本年度もその傾向が続いている。

本年度における総合評価の上位企業は総じて、5 つの評価分野でそれぞれ高い評価を受けているが、特に「経営陣の IR 姿勢等」および「ESG 関連」において最上位の評価を受けているものが多い。以下では、「経営陣の IR 姿勢等」、「ESG 関連」の評価分野についての特徴を述べる。

② 「経営陣の IR 姿勢等」においては、経営トップ自らが積極的に IR 活動に関与し、経営方針や成長戦略、資本政策、企業価値向上に向けた取組みなどについて、自らの言葉で明確かつ分かりやすく説明している企業が高く評価された。また、投資家・アナリストとの対話を重視し、その期待や懸念に真摯に向き合うとともに、資本市場から得られた意見や知見を経営や経営計画、情報開示の改善に活かそうとする姿勢を示している企業も高い評価を得ている。IR 部門については、十分な情報集積や専門性の高い人材の配置、経営陣との緊密な連携に加え、投資家等との質の高いコミュニケーションや建設的なディスカッションを実現していること、また IR Day や事業説明会、工場見学会等を通じて自社への理解を深める有益な情報提供を積極的に行っている企業が高く評価された。

一方で、社外取締役に関連する項目（業種によっては「ESG 関連」に設問されている）については、社外取締役とのミーティングや IR Day 等を通じて投資家等との対話機会を設ける企業が高く評価され、改善がみられる業種もあったものの、多くの業種では依然として低い評価にとどまっている。投資家等が企業価値向上やガバナンスの実効性を的確に評価する上で、社外取締役との対話の重要性は一層高まっており、各企業にはさらなる対話機会の充実や情報発信の強化など、積極的な取組みを期待したい。

③ 「ESG 関連」においては、業種間で評価項目の内容や配点が異なるため単純に比較できないが、18 業種のうち平均得点率の高い業種（商社、銀行等）と、低い業種（食品、IT サービス・ソフトウェア等）との較差がやや拡大している。評価実施アナリストの意見を見ると、ESG を経営戦略や中長期ビジョンと一体的に位置付け、企業価値向上との関連性を分かりやすく説明している企業が高く評価された。特に、ROE 等の経営指標や資本政策、キャピタルアロケーションに関する考え方を明確に示すとともに、その進捗や成果について継続的に情報発信している企業や社外取締役との対話機会の提供を含むガバナンス情報の発信を積極的に行う企業への評価が高かった。また、気候変動対応や人的資本、マテリアリティに関する KPI・目標値の設定と進捗開示、統合報告書や説明会等を通じた定量・定性両面での情報開示の充実を進めた企業も高く評価されている。

人的資本に関する開示については、従業員エンゲージメントやダイバーシティ、人材戦略に関する定量・定性情報の開示が進展し、評価を高める要因となった。また、資本コストや株価を意識した経営に関する開示については、東京証券取引所の要請後 3 年間が経過し、目標指標や株主還元方針、財務規律を具体的に示す企業が高く評価される一方、企業間で取組みや開示内容に差がみられた。

ESG などの非財務情報は、中長期的な企業価値の創造・向上を評価する上で重要性が一層高まっている。各企業においては、環境・社会・ガバナンスに関する取組みや人的資本への投資、資本政策との関係性を、定量的な目標や進捗状況とともに分かりやすく開示し、市場との建設的な対話をさらに深めていくことを期待したい。

（注 1）業種ごとの総合評価平均点、昨年度比較、全評価対象企業の評価平均点は、概況を伝えるために敢えて算出したものであるが、業種間で評価項目の内容や配点が異なることに留意する必要がある。また、業種ごとの昨年度平均点との比較も、評価項目の増減や内容・配点の見直し、評価対象企業の変更などがあるため、数値の増減だけでディスクロージャーの改善や後退を論じることは難しい。

(2) 新興市場銘柄（29 社）の評価平均点は 71.1 点（昨年度 65.8 点）であった。（注 2）

優良企業 3 社は、初受賞が 2 社、連続受賞が 1 社であった。

昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善した。なお、「ESG 関連」の 3 項目の平均得点率は、いずれも 60%台前半以下となり低い水準であった。特に、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制についての十分な説明」に関する項目は、全 13 項目中最も低い得点率（59%）となり、評価対象企業間の較差（40%台～70%台）も大きかった。

評価実施アナリストの意見を見ると、説明会等において経営トップや CFO が自ら登壇し、事業の方向性や成長戦略、財務状況などについて丁寧かつ具体的に説明している企業が高く評価されている。また、中長期的な成長見通しや KPI、業績計画の根拠を分かりやすく示すことに加え、自社の弱点やリスク、低収益事業など

のネガティブな情報についても積極的に開示し、高い透明性を確保している企業を評価する声が多く寄せられた。IR 部門については、経営陣と十分な情報共有を行い、その考え方を的確に投資家へ伝えるとともに、投資家の意見や市場の視点を経営陣へ橋渡しできる体制を評価する声があった。また、月次開示や施設見学会など決算説明会以外の情報発信に積極的に取り組む企業も評価されている。

なお、「ESG 関連」の項目については、全体として評価水準に改善の余地がみられる。その中で、資本政策や株主還元策、キャッシュの使途、財務バランスなどについて十分な説明を行っている企業や、人的資本、ガバナンス、サステナビリティに関する情報を積極的に開示している企業は高く評価された。

（注 2）本年度の評価対象企業 29 社には新規評価企業や再評価企業が含まれているため、数値の昨年度からの変化に厳密な意味はない。

(3) 個人投資家向け情報提供部門（30 社）の評価平均点は 79.1 点（昨年度同点）であった（注 3）。

優良企業 3 社は、連続受賞が 2 社、返り咲き受賞が 1 社であった。このうち 2 社は、業種別優良企業とのダブル受賞となった。

評価期間における個人投資家向け会社説明会の開催件数は、4 回以上実施する企業が 15 社に増え、また、リアルおオンラインの併用により実施する企業が 20 社に増えるなど、投資家対応に力を入れている企業が更に増えてきていることがうかがえる。

評価実施アナリストの意見を見ると、「個人投資家向け会社説明会」の開催等においては、経営トップ自らが会社の事業内容や成長戦略、中長期ビジョンなどを分かりやすく説明していることに加え、動画配信やアーカイブの活用によって投資家が必要な情報にアクセスしやすい環境を整備していることが高く評価された。また、具体的な事例や図表を用いながら企業の強みや特徴を理解しやすく伝えている企業に対する評価も高かった。

「ウェブサイトにおける開示等」においては、事業内容や経営戦略、財務情報、ESG 情報などが体系的かつ分かりやすく整理されていることに加え、利用者の視点に立った画面構成や検索性の向上に取り組んでいることが評価された。また、社外取締役との対話や人的資本、サステナビリティに関する取組みを企業価値との関連性を含めて説明していることを評価する声も多く寄せられた。

「説明会資料」および「事業報告書等」においては、経営目標や成長戦略、事業の強みや課題、業績の変動要因などについて、図表やグラフ、イラスト等を効果的に活用しながら、一般投資家にも理解しやすく説明している企業が高く評価された。特に、ESG や人的資本、資本政策などの重要テーマについて、具体的な取組みや KPI を示しながら分かりやすく情報提供していることが評価されている。

（注 3）本年度の評価対象企業 30 社の中には、新規評価企業が含まれているため、数値の昨年度からの変化に厳密な意味はない。

(4) 上記の優良企業のほか、業種別では、第 2 位または第 3 位を 3 年連続で獲得した「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」5 社、および各専門部会において「ディスクロージャーの改善が著しい企業」と認められた 6 社を称賛企業として選定した。これらの企業においては、経営トップをはじめとする経営陣や IR 部門が株式市場の声に真摯に耳を傾け、情報開示の向上に努めている姿勢がうかがわれる。そのような経営トップ等の積極的な取組みに対し、深く敬意を表したい。なお、今回選定に至らなかった企業の中にも、直近において顕著な改善を示している企業が昨年に続いて増加している。今後も引き続き、IR 活動およびディスクロージャーのさらなる向上に取り組まれることを期待したい。

(5) 総じて見ると、企業のディスクロージャーに対する取組姿勢や開示内容は年々向上しており、経営トップ自らが積極的にメッセージを発信し、株式市場の意見に耳を傾け、それらを経営に反映させる企業も従来に比べて増加している。一方で、アナリストや投資家の間では、社外取締役を含む経営陣との対話機会のさらなる充実を求める声も多く聞かれる。このような状況を踏まえ、当研究会としては、引き続き評価結果や評価を担当したアナリストの意見を企業へ直接フィードバックするなど、今後も企業との建設的かつ双方向の対話を通じて、ディスクロージャーの一層の向上に取り組んでまいりたい。

最後に、本年度の評価作業には、各専門部会委員に加え、多数の経験豊富な証券アナリストが参加し、全 20 部門において延べ 521 名から評価が寄せられた。多忙な業務の合間を縫いながら、企業のディスクロージャーの促

進・向上を目指し、真摯な姿勢で精力的に評価作業に従事いただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。また、証券アナリストが所属する金融機関等のご理解とご協力にも厚く御礼申し上げる。さらに、本評価制度の意義をご理解いただき、本年度の評価作業にご協力いただいた企業の皆様に対しても、深く感謝申し上げる。

以　上

【各専門部会報告】

20 部会

（注１）社名は 2026 年 10 月 8 日現在の登記社名とした。

（注２）評価実施アナリストの所属会社名は、原則として評価実施時点(2026 年 6 月)における会社名とした。

建設･住宅･不動産

１．評価対象企業（19 社）

【建設】（4 社）

大成建設、大林組、清水建設、鹿島建設

【住宅・不動産】（12 社）

長谷工コーポレーション、大東建託、住友林業（新規）、大和ハウス工業、積水ハウス、野村不動産ホールディングス、オープンハウスグループ、東急不動産ホールディングス、三井不動産、三菱地所、東京建物、住友不動産

【住宅設備】（3 社）

TOTO、LIXIL、リンナイ

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法等

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	3	29
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	13
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	3	23
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	10
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 28 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

(1) **総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、新規に企業を加えたほか、**自主的情報開示**を中心に項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列に比較できないが、本年度の総合評価平均点は 79.1 点（昨年度 79.7 点）、総合評価点の標準偏差は 4.4 点（昨年度 5.6 点）であった。

② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、建設（4 社）：80.3 点（昨年度 81.4 点）、住宅･不動産（12 社）：79.8 点（昨年度 80.7 点）、住宅設備（3 社）：74.9 点（昨年度 74.0 点）となった。個社で見ると、住友不動産（＋7.9 点）の総合評価点が大きく改善した。

③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 78%（昨年度同率）、**説明会等**が 80%（昨年度同率）、**フェア･ディスクロージャー**が 89%（昨年度 88%）、**ESG 関連**が 78%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が 68%（昨年度 74%）となった。

④ 評価項目を見ると、全 12 項目のうち、次の 6 項目は、平均得点率で 80%以上となり、高水準であった（**経営陣の IR 姿勢等**(1. (2))、**説明会等**(2. (2) (3))、**フェア･ディスクロージャー**(3. (1) (2))、**ESG 関連**(4. (2))。

項目番号は「2026 年度の具体的評価項目および配点」（後掲）を参照のこと）。

1. (2) 「IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができますか」（平均得点率 80%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台 10 社・80%台 9 社）
2. (2) 「部門別・会社別に受注、売上利益の実績と見通しは十分に開示されていますか。また、資産・負債・キャッシュフローの状況が十分に説明されていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 81%〕）（得点率：70%台 6 社・80%台 12 社・90%台 1 社）
2. (3) 「四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか（四半期ごと開催：2 点、3 回開催：1 点、その他：0 点」（平均得点率 95%〔昨年度 89%〕）（得点率：0%1 社・100%18 社）
3. (1) 「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 88%〔昨年度 87%〕）（得点率：80%台 15 社・90%台 4 社）
3. (2) 「決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか」（平均得点率 90%〔昨年度 89%〕）（得点率：80%台 10 社・90%台 9 社））
4. (2) 「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」（平均得点率 81%〔昨年度 79%〕）（得点率：70%台 7 社・80%台 12 社）

⑤ **ESG 関連**の 3 項目のうち上記④4. (2) を除く 2 項目（4. (1) (3)）は、次のとおりとなった。

4. (1) 「非財務情報（人的資本を含む ESG 情報、社外取締役の関与、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 79%〔昨年度 78%〕）（得点率：60%台 1 社・70%台 9 社・80%台 9 社）
4. (3) 「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか」平均得点率 76%〔昨年度 77%〕）（得点率：60%台 3 社・70%台 10 社・80%台 6 社）

(2) 上位３企業の評価概要

<u>第 1 位　三菱地所 （ディスクロージャー優良企業〔7 回目〕総合評価点 87.8 点〔昨年度比＋4.7 点〕、昨年度第 6 位）</u>

① 同社は、**説明会等**（得点率〈以下省略〉89%）、**ESG 関連**（86%）が第 1 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（88%）、**自主的情報開示**が第 3 位（84%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 6 位（90%）となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価（同得点第 1 位）となった。また、「経営陣の IR 姿勢」も第 2 位（昨年度第 6 位）となり、87%の得点率であった。これらに関連して、CEO が年 2 回の経営説明会に登壇し、IR Day やトップミーティングを定期的に開催するなど、経営陣が IR 活動に積極的に関与していることに加え、四半期決算や各種説明会において明確なメッセージを発信し、企業価値向上への強い意欲を示している点を評価する声が寄せられた。また、ROE 向上に向けた強いコミットメントや、資産売却・自己資本コントロールを通じて着実に成果を上げていることに加え、従来以上に踏み込んだ企業価値向上施策が投資家からの評価向上につながっている点を評価する声があった。このほか、足元の業績や業績見通しにとどまらず、市場参加者が関心を持つ事項についても丁寧に説明し、投資家の理解を深める IR 活動を実践していることや、IR 部門に十分な情報が集積されている点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」も共に最も高い評価（同得点第 1 位を含む）となった。これらに関連して、説明会資料において、伝えたいポイントが分かりやすく整理されていることに加え、部門別の動向が明瞭に示されており、投資家が事業状況を理解しやすい情報開示を評価する声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は同得点第 3 位となり、94%の得点率であった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 8 位となった。これに関連して、IR Day の開催を通じて公平な情報開示に取り組んでいることに加え、説明会資料やデ

ータ集が充実しており、定量情報を含めた適切かつ十分な情報開示が行われている点を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」および「コーポレートガバナンス・コード」が、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、共に最も高い評価（同得点第 1 位を含む）となった。また、「非財務情報（人的資本を含む ESG 情報、社外取締役の関与、統合報告書等）の開示」も第 2 位となった。これらに関連して、ROE 改善を中心とした開示・説明や、明瞭な資本政策の説明を通じて企業価値向上への取組を分かりやすく発信していることに加え、IR Day における社外取締役のセッション開催を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**においては、「事業説明会・テーマ別説明会・新製品説明会等（非対面も含む）を積極的かつ公平に実施していること。また、その内容が有益であること」が最も高い評価となった。また、「現場見学会や工場見学会（非対面も含む）を積極的かつ公平に実施していること。また、その内容が有益であること」が同得点第 7 位となった。充実していたイベントとして、IR Day を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　長谷エコーポレーション　（総合評価点 86.7 点〔昨年度比－0.4 点〕、昨年度第 1 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（89%）、**説明会等**（88%）、**自主的情報開示**（85%）が第 2 位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 2 位（92%）、**ESG 関連**が同得点第 5 位（80%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」および「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価（同得点第 1 位を含む）となった。これに関連して、経営トップが四半期ごとにアナリスト取材やミーティングに自ら参加するなど、IR 活動に積極的に関与していることに加え、投資家との意見交換の機会を継続的に設け、投資家からの質問にも真摯に対応している姿勢を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」も同得点第 1 位となった。また、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は同得点第 3 位となった。なお、受注時粗利率の公表を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となったほか、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は同得点第 10 位となった。共に 85%以上の得点率であった。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」の得点率が昨年度の比べ大きく下がりが第 4 位（昨年度第 1 位）に、一方で「非財務情報（人的資本を含む ESG 情報、社外取締役の関与、統合報告書等）の開示」は得点率が昨年度に比べ大きく改善し同得点第 8 位（昨年度同得点第 12 位）となった。また、「コーポレートガバナンス・コード」の得点率は変わらず同得点第 13 位（昨年度同得点第 10 位）となった。これらに関連して、中期経営計画説明会を通じて、ESG に関連する取組みについて情報発信が行われている点を評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「現場見学会や工場見学会（非対面も含む）を積極的かつ公平に実施していること。また、その内容が有益であること」が第 3 位となった。また、「事業説明会・テーマ別説明会・新製品説明会等（非対面も含む）を積極的かつ公平に実施していること。また、その内容が有益であること」は第 4 位となった。充実していたイベントとして、かすみがうら PCa（プレキャストコンクリート）工場見学会やマンション市場説明会を挙げる声があった。

第 3 位　三井不動産　（総合評価点 84.8 点〔昨年度比－0.3 点〕、昨年度第 2 位）

① 同社は、**ESG 関連**が第 2 位（83%）、**経営陣の IR 姿勢等**（85%）、**説明会等**（86%）が第 3 位、**自主的情報開示**が第 5 位（80%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 7 位（89%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第 3 位、「経営陣の IR 姿勢」が第 4 位となった。これらに関連して、CEO が経営説明会やスモールミーティングに継続的に登壇し、投資家との対話機会を積極的に設けていることを評価する声が寄せられた。また、企業価値向上に向けた経営陣の意思や取組みが明確であり、その内容を投資家へ分かりやすく発信していることを評価する声があった。このほか、足元の業績や見通しだけでなく、市場参加者が関心を持つ論点についても丁寧に説明し、IR 活動を行っているとの声が寄せられた。

IR 部門の機能については、IR 部門に十分な情報が集約されており、適切な情報提供体制が構築されていることを評価する声があった。

③　**説明会等**においては、「四半期情報開示」が満点となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は第3位、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は同得点第3位となった。これらに関連して、プレゼンテーション資料や説明会資料が分かりやすく、特に社長説明時の資料の完成度が高いことに加え、部門別動向まで把握できる充実した開示内容を評価する声が寄せられた。また、賃料増額改定効果の発現時期まで説明するなど、業績に影響を与える要因について具体的な情報開示を行っていることを評価する声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は同得点第5位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第8位となった。共に85%以上の得点率であった。これらに関連して、説明会資料やデータ集が充実しており、十分かつ適切な情報開示が行われていることを評価する声が寄せられた。また、定量的な情報開示については特段の問題がなく、必要な情報が適切に開示されていることを評価する声があった。

⑤　**ESG 関連**においては、「コーポレートガバナンス・コード」が同得点第1位となった。また、「目標とする経営指標等」が同得点第2位、「非財務情報（人的資本を含むESG情報、社外取締役の関与、統合報告書等）の開示」は同得点第5位となった。これらに関連して、キャピタルアロケーションや資本政策の方針が明確であり、株主・投資家に対して分かりやすく示されていることを評価する声が寄せられた。なお、社外取締役の考えや役割について理解を深められるよう、社外取締役によるパネルディスカッションなどの対話機会の充実を望む声があった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「現場見学会や工場見学会（非対面も含む）を積極的かつ公平に実施していること。また、その内容が有益であること」が同得点第4位となった。また、「事業説明会・テーマ別説明会・新製品説明会等（非対面も含む）を積極的かつ公平に実施していること。また、その内容が有益であること」は第6位となった。充実していたイベントとして、LaLa arena TOKYO-BAY 施設見学会などを挙げる声が寄せられた。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（建設・住宅・不動産）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目2（配点 25点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目3（配点 29点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 13点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 23点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8802　三菱地所	87.8	22.0	2	25.9	1	11.7	6	19.8	1	8.4	3	6
2	1808　長谷工コーポレーション	86.7	22.2	1	25.6	2	11.9	2	18.5	5	8.5	2	1
3	8801　三井不動産	84.8	21.2	3	24.9	3	11.6	7	19.1	2	8.0	5	2
4	1802　大林組	82.8	20.3	5	23.8	7	11.4	13	18.7	4	8.6	1	3
5	3231　野村不動産ホールディングス	80.6	19.6	6	23.2	10	11.9	2	18.1	8	7.8	6	7
6	1801　大成建設	80.4	21.1	4	23.0	11	11.1	17	17.8	11	7.4	7	12
7	1812　鹿島建設	80.3	19.4	8	24.6	5	11.5	10	18.1	8	6.7	11	9
8	1878　大東建託	80.2	19.4	8	24.8	4	11.6	7	18.2	7	6.2	13	4
9	1928　積水ハウス	79.9	19.3	10	22.7	12	12.0	1	19.0	3	6.9	10	5
10	8804　東京建物	79.4	19.6	6	24.1	6	11.5	10	18.5	5	5.7	14	10
11	1803　清水建設	77.9	18.9	12	22.7	12	11.2	15	17.8	11	7.3	8	11
12	3289　東急不動産ホールディングス	77.5	18.8	13	21.6	18	11.3	14	17.6	14	8.2	4	13
13	5938　LIXIL	77.2	19.0	11	22.0	17	11.9	2	17.8	11	6.5	12	15
14	1925　大和ハウス工業	76.6	18.6	14	22.5	14	11.8	5	18.0	10	5.7	14	8
15	1911　住友林業	75.5	17.8	18	23.4	8	11.6	7	17.5	15	5.2	16	－
16	5947　リンナイ	74.0	18.4	15	22.4	16	11.5	10	16.8	18	4.9	18	14
17	8830　住友不動産	73.4	18.2	16	23.4	8	10.9	19	16.9	17	4.0	19	18
18	3288　オープンハウスグループ	73.2	17.9	17	22.5	14	11.1	17	16.7	19	5.0	17	16
19	5332　TOTO	73.1	17.3	19	20.2	19	11.2	15	17.2	16	7.2	9	17
	評価対象企業評価平均点	79.07	19.42		23.33		11.53		18.04		6.75		

2026年度の具体的評価項目および配点（建設・住宅・不動産）
【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のIR姿勢		
・経営陣が企業価値や株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**	
(2)IR部門の機能		
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	**10**	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（29点）	**配点**	**委員のみ**
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・短信および説明会資料等において、実績および計画（前提条件等を含む）を明記のうえ、理解を深めるような十分な説明がなされていますか。また、質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。	**15**	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示		
・部門別（注1）・会社別に受注、売上利益の実績と見通し（注2）は十分に開示されていますか。また、資産・負債・キャッシュフローの状況が十分に説明されていますか。	**12**	
(3)四半期情報開示		
・四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催していますか。［四半期ごと開催：2点、3回開催：1点、その他：0点］	**2**	●
3．フェア・ディスクロージャー（13点）	**配点**	**委員のみ**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（注3）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	**8**	
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供		
・決算説明会・電話会議の参加機会、決算説明会資料や期中のデータが公平に提供されていますか。	**5**	
4．ESGに関連する情報の開示（23点）	**配点**	**委員のみ**
(1)非財務情報の開示		
・非財務情報（人的資本を含むESG情報、社外取締役の関与、統合報告書等）の開示のみならず説明に積極的に取り組んでいますか。	**10**	
(2)コーポレートガバナンス・コード		
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	**4**	
(3)目標とする経営指標等		
・中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか。	**9**	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	**配点**	**委員のみ**
①現場見学会や工場見学会（非対面も含む）を積極的かつ公平に実施していますか。 また、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間）【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	**5**	
②事業説明会・テーマ別説明会・新製品説明会等（非対面も含む）を積極的かつ公平に実施していますか。 また、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間）【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	**5**	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

(注1)「部門別」については、業態により‥【ゼネコン】:国内・海外および官・民・土・建・その他、【住宅】:戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他、【不 動 産】:分譲・賃貸・建設・委託業務・その他、【住宅設備】:製品別・その他‥と読み替えて下さい。

(注2)「受注、売上利益の実績と見通し」については、【不動産・住宅設備】については売上利益の実績と見通し‥と読み替えて下さい。

(注3)「投資家にとって重要と判断される事項」とは、東証のTDnetへの登録を含む次のような事項です。例えば‥疫病、受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等。

建設･住宅･不動産専門部会委員

部　会　長	川嶋　宏樹	SMBC 日興証券
部会長代理	竹川　克彦	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	寺岡　秀明	大和証券
	橋本　嘉寛	みずほ証券
	福島　大輔	野村證券
	望月　政広	CLSA 証券
	山口　啓朗	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（28 名）

姉川　俊幸	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	中川　義裕	みずほ証券
板倉　充知	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	橋本　嘉寛	みずほ証券
入沢　健	立花証券	福島　大輔	野村證券
小澤　公樹	SBI 証券	二見　哲史	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
川嶋　宏樹	SMBC 日興証券	細貝　広孝	QUICK
栗原　英明	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ･ﾗﾎﾞ	増宮　守	大和証券
古島　次郎	大和証券	三木　正士	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
坂田　喜彦	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	望月　政広	CLSA 証券
澤野　徳彦	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ	八木　亮	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
白崎　辰五	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	八掛　達格	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
竹川　克彦	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	柳本　和紀	三菱 UFJ 信託銀行
田澤　淳一	SMBC 日興証券	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
竹間　雅子	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山口　啓朗	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
寺岡　秀明	大和証券	松崎　亘	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

食　品

1．評価対象企業（20 社）

ニッスイ、日清製粉グループ本社、山崎製パン、カルビー、森永乳業、ヤクルト本社、明治ホールディングス、日本ハム、アサヒグループホールディングス、キリンホールディングス、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス、サントリービバレッジ＆フード（注）**、不二製油、キッコーマン、味の素、キユーピー、ニチレイ、東洋水産、日清食品ホールディングス、日本たばこ産業**

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）サントリー食品インターナショナルが商号を変更した（2026 年 4 月）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	18
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	8
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	3	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	8
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 19 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**および**ESG 関連**の項目内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.3 点（昨年度 63.1 点）となった。総合評価点の標準偏差は 10.4 点（昨年度 11.2 点）であった。

②　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 64%（昨年度 60%）、**説明会等**が 72%（昨年度 68%）、**フェア･ディスクロージャー**が 81%（昨年度同率）、**ESG 関連**が 58%（昨年度 62%）、**自主的情報開示**が 58%（昨年度 54%）となった。

③　評価項目について見ると、全 12 項目のうち、次の**フェア･ディスクロージャー**の中の 2 項目(a)・(b)の平均得点率が 80%以上となり、高水準であった。

(a)「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 82%〔昨年度 79%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台 6 社・80%台 10 社・90%台 4 社）

(b)「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率 80%〔昨年度 83%〕）（得点率：50%台 1 社・70%台 6 社・80%台 10 社・90%台 3 社）

④ 一方、次の 2 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目(a)、**自主的情報開示**の中の 1 項目(b)）は、平均得点率が 40%台以下となり、低水準となった。いずれの項目においても、評価対象企業間の得点率の差が大きい状況が見られており、下位評価企業の改善努力を求めたい。

(a)「社外取締役と株式市場の間の理解を深めることの重要性を認識していますか。また、そうした取組みを実行していますか」（平均得点率 35%〔昨年度 30%〕）（得点率：10%台以下 9 社・20%台 3 社・30%台 2 社・40%台 1 社・60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 1 社・90%台 1 社）

(b)「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか」（平均得点率 49%〔昨年度 48%〕）（得点率：10%台 4 社・20%台 2 社・30%台 2 社・40%台 2 社・50%台 2 社・60%台 3 社・70%台 3 社・80%台 1 社・90%台 1 社）

(2) **上位３企業の評価概要**

第 1 位　味 の 素 （ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 5 回目〕、

総合評価点 83.8 点〔昨年度比－1.5 点〕）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉85%）、**フェア･ディスクロージャー**（93%）、**ESG 関連**（84%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 2 位（81%）、**説明会等**が同得点第 4 位（78%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となったほか、「社外取締役との対話」は第 3 位、「IR 部門の機能」が第 6 位となった結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営陣が自ら経営方針を決定し、投資家と直接対話を行う積極的な IR 姿勢を評価する声が寄せられた。ROE や ROIC などの指標目標を事業の方向性とともに示し、資本効率を重視した経営を実践しているとの声があった。また、企業価値向上に向けた経営陣の強い意識に加え、具体的な方向性や施策が明確に示されているとの声や、マネジメントが IR 活動を積極的に活用し、投資家との対話を重視しているとの声が寄せられた。IR 部門については、決算取材の場において、IR 部門と事業環境に関する有益な情報交換や建設的なディスカッションが行えることを評価する声や、IR 担当者の高い専門性と対応力を評価する声があった。また、IR 部門に十分かつ正確な情報が集積されており、質の高い対話が実現しているとの声も寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビュー等における開示」が第 3 位となった。これに関連して、説明会やインタビューにおける質疑応答では、投資家の求めに最大限寄り添った丁寧かつ誠実な対応がなされているとの声があった。一方、「説明資料等における開示」は同得点第 11 位（昨年度同得点第 3 位）となり、昨年度に比べて得点率が下がった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第 1 位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 3 位となり、共に 90%以上の得点率であった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、3 項目全てが最も高い評価となり、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、従業員エンゲージメントスコアの向上を重点 KPI の 1 つに設定し、定期的に開示している点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**においては、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」が最も高い評価となった。有益なイベントとして、関東工場（冷凍食品）見学会や電子材料説明会を挙げる声が寄せられた。また、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」は同得点第 6 位となり、これらの結果、この分野において第 2 位となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　アサヒグループホールディングス（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 77.7 点〔昨年度比－4.6 点〕、昨年度第 2 位〔－昨年度第 2 位〕）

① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位（83%）、**説明会等**（81%）、**ESG 関連**（74%）が第 2 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（75%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（89%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第 3 位（昨年度第 2 位）、「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 4 位（昨年度第 2 位）、「社外取締役との対話」は第 8 位（昨年度第 4 位）となり、昨年度に比べて 3 項目全ての得点率が下がった。これらに関連して、経営陣が自ら経営方針を決定し、投資家と直接対話を行うなど、IR 活動に主体的に取り組んでいることを評価する声が寄せられた。また、サイバー攻撃という事案はあったものの、IR 活動全体の水準の高さを評価する声があった。なお、システム障害の影響も踏まえ、マネジメントと株式市場との対話や認識の共有について、さらなる改善を望む声もあった。IR 部門の機能については、IR 取材に役員が直接対応するなど、経営陣と IR 部門が連携しながら投資家との対話に取り組んでいることを評価する声や、投資家のニーズに真摯に向き合い、有益かつ建設的なディスカッションが行えることを評価する声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビュー等における開示」は同得点第 1 位となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。これに関連して、説明会やインタビューにおいては、定量面・定性面の双方から充実した説明や質疑応答が行われていることを評価する声が寄せられた。一方、「説明会資料等における開示」は同得点第 4 位（昨年度第 1 位）となり、昨年度に比べて順位が後退した。これに関連して、地域別・国別の業績動向に関する開示について、特に欧州事業の状況がより詳細に把握できる情報提供の充実を望む声があった。また、システム障害に伴う開示遅延についてはやむを得ないとの理解が示される一方、早期の情報開示体制の正常化を望む声が寄せられた。このほか、開示情報について、欧州企業との比較において見劣りするとの指摘があり、分析に必要な定量情報のさらなる充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 3 位、「リモートツールによる情報提供」は第 4 位となり、共に 85%以上の高得点率であった。これらの結果、この分野において同得点第 3 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」（第 3 位）が 85%以上の高得点率であった。一方、「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、定性・定量の両面で進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」（第 2 位）および「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コストの開示等）、あるべきバランスシート（政策保有、現預金を投資等に有効活用できているかの検証）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」（同得点第 2 位）は、昨年度に比べて得点率が大きく下がった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」が最も高い評価となったほか、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」も第 2 位となり、この分野において第 1 位となった。

同社は、3 回連続して第 2 位の評価を受けたので、**「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」**に選定した。

第 3 位　キリンホールディングス（総合評価点 76.1 点〔昨年度比＋3.0 点〕、昨年度第 3 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（82%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 2 位（91%）、**ESG 関連**が第 3 位（71%）、**経営陣の IR 姿勢等**（75%）、**自主的情報開示**（73%）が第 4 位となった。昨年度に比べて、5 分野のうち **ESG 関連**を除く 4 分野において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位、「IR 部門の機能」が同得点第 4 位、「社外取締役との対話」が第 7 位となった。これらに関連して、企業価値向上や ESG の重要性に対する経営陣の高い意識を評価する声が寄せられた。経営陣が自ら経営方針を決定し、投資家と直接対話を行っていることを評価する声や、マネジメントが IR 活動を積極的に活用し、投資家との対話を経営に活かそうとする姿勢の変化を評価する声もあった。IR 部門の機能については、事業領域や展開地域が幅広いにもかかわらず、IR 部門に十

分かつ正確な情報が集積されており、情報の粒度に不満を感じることなく対話できる点を評価する声が寄せられた。また、投資家のニーズに真摯に向き合い、有益かつ建設的なディスカッションが行えることを評価する声もあった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビュー等における開示」が同得点第 1 位（昨年度同得点第 4 位）となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。これに関連して、説明会やインタビューにおいて、定量面・定性面の双方から充実した説明や質疑応答が行われていることを評価する声が寄せられた。「説明会資料等における開示」は第 3 位であった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が第 2 位、「リモートツールによる情報提供」は第 3 位となり、共に 90%以上の高得点率であった。これらの結果、この分野において第 2 位となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報や Scope3 を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること」が第 2 位となった。「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、定性・定量の両面で進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していること」は第 5 位（昨年度第 3 位）となり、昨年度に比べて得点率が大きく下がった。「中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コストの開示等）、あるべきバランスシート（政策保有、現預金を投資等に有効活用できているかの検証）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていること」は第 5 位であった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していること。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等」が第 4 位、「有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していること」は同得点第 6 位であった。有益なイベントとして、R&D day を挙げる声があった。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（食品）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 34点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 18点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 8点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 32点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	2802　味の素	83.8	28.9	1	14.0	4	7.4	1	27.0	1	6.5	2	1
2	2502　アサヒグループホールディングス	77.7	25.6	3	14.6	2	7.1	3	23.8	2	6.6	1	2
3	2503　キリンホールディングス	76.1	25.5	4	14.8	1	7.3	2	22.7	3	5.8	4	3
4	2264　森永乳業	73.3	28.2	2	13.9	6	6.6	7	20.1	4	4.5	10	3
5	1332　ニッスイ	70.7	24.9	5	14.1	3	6.1	17	19.4	8	6.2	3	7
6	2282　日本ハム	70.2	24.7	6	13.9	6	6.3	14	19.6	6	5.7	6	8
7	2871　ニチレイ	68.5	24.4	7	13.4	9	6.5	9	19.5	7	4.7	9	6
8	2269　明治ホールディングス	67.9	23.3	8	12.8	13	6.4	12	20.0	5	5.4	8	13
9	2229　カルビー	66.3	21.6	10	12.9	12	6.8	6	19.2	9	5.8	4	12
10	2897　日清食品ホールディングス	66.0	21.4	12	13.4	9	6.5	9	19.1	10	5.6	7	5
11	2914　日本たばこ産業	65.1	22.5	9	14.0	4	7.1	3	18.0	14	3.5	15	9
12	2809　キユーピー	63.8	21.6	10	13.6	8	6.5	9	18.5	11	3.6	13	10
13	2607　不二製油	61.5	20.8	13	11.8	15	6.2	15	18.3	13	4.4	11	11
14	2579　コカ･コーラ　ボトラーズジャパンホールディングス	60.7	19.9	14	11.6	16	7.0	5	18.4	12	3.8	12	15
15	2801　キッコーマン	55.2	18.4	15	11.2	18	6.4	12	16.2	15	3.0	19	18
16	2267　ヤクルト本社	54.1	16.0	18	12.6	14	6.6	7	15.8	16	3.1	18	16
17	2002　日清製粉グループ本社	53.7	17.7	16	11.6	16	6.2	15	14.6	17	3.6	13	14
18	2875　東洋水産	52.6	16.9	17	13.2	11	5.8	19	13.2	19	3.5	15	17
19	2587　サントリービバレッジ＆フード	47.1	14.1	20	10.4	19	6.0	18	13.9	18	2.7	20	19
20	2212　山崎製パン	44.3	14.8	19	10.4	19	5.2	20	10.7	20	3.2	17	20
	評価対象企業評価平均点	64.26	21.71		12.97		6.48		18.50		4.60		

2026年度の具体的評価項目および配点（食品）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（34点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣は、株価や資本コストを意識したIR活動を実施していますか。経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。また、経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**20**
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間の理解を深めることの重要性を認識していますか。また、そうした取組みを実行していますか。	**4**
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調や不祥事の有無にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（18点）	**配点**
(1)説明会、インタビュー等における開示	
・説明会、インタビュー等において、会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(2)説明資料等における開示	
・説明会資料等において、決算の実績および業績の見通しについて、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**8**
3．フェア・ディスクロージャー（8点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、日英両言語でタイムリーに提供していますか。	**4**
(2)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。	**4**
4．ESGに関連する情報の開示（32点）	**配点**
①非財務情報（ESG情報やScope3を含めた気候変動問題等）に関して、中長期的な改善目標など定性・定量両面での開示、及び統合報告書や説明会等を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか。	**8**
②人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、定性・定量の両面で進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	**12**
③中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策、資本政策（資本コストの開示等）、あるべきバランスシート（政策保有、現預金を投資等に有効活用できているかの検証）、株主還元策について、開示資料に記載のうえ十分説明されていますか。	**12**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	**配点**
①携わっている業態または業界の分析上有益な情報をタイムリー、かつ積極的に開示していますか。例えば、ファクトブック、ウェブサイト等。	**4**
②有益な工場見学会や主要事業に関する説明会等を、オンラインを含めて有用な形で開催していますか。【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	**4**

食品専門部会委員

部　会　長	守田　　誠	野村證券
部会長代理	角山　智信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	鎌田　　聡	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	ﾏｲｹﾙ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽ	ﾃｨｰ・ﾛｳ・ﾌﾟﾗｲｽ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ
	藤原　悟史	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	二見　哲史	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
	李　　想	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（19 名）

伊原　嶺	UBS 証券	角山　智信	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
奥下　諒	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
長田　佳三	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	畑澤　巧	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鎌田　聡	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	福井　悠香	第一生命保険
高　英詞	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	藤原　悟史	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
佐々木　聡	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	二見　哲史	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
佐治　広	みずほ証券	松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
ﾏｲｹﾙ ｼﾞｪｲｺﾌﾞｽ	ﾃｨｰ・ﾛｳ・ﾌﾟﾗｲｽ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ	守田　誠	野村證券
篠崎　智明	QUICK	李　想	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
田畑　剛	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

化学・繊維

1．評価対象企業（20 社）

クラレ、旭化成、レゾナック・ホールディングス、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ、信越化学工業、日本酸素ホールディングス、日本触媒（新規）、カネカ、三菱瓦斯化学、三井化学、三菱ケミカルグループ、ダイセル、積水化学工業、UBE、日本ペイントホールディングス、帝人、東レ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	31
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	4	21
③フェア・ディスクロージャー	**フェア・ディスクロージャー**	2	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	3	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	13
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 28 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、新規に企業を加えたほか、一部の項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 74.1 点（昨年度 74.6 点）、総合評価点の標準偏差は 8.7 点（昨年度 7.2 点）となった。

② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74%（昨年度 73%）、**説明会等**が 73%（昨年度 74%）、**フェア・ディスクロージャー**が 86%（昨年度 87%）、**ESG 関連**が 74%（昨年度 76%）、**自主的情報開示**が 72%（昨年度 71%）となった。

③ 評価項目（全 15 項目）について見ると、平均得点率が 80%以上となったのは、次の**説明会等**の中の 1 項目(a)および**フェア・ディスクロージャー**の 2 項目(b)(c)であった。

(a)「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか」（平均得点率 82%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 5 社・80%台 5 社・90%台 6 社・100% 1 社）

(b)「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 84%〔昨年度 82%〕）（得点率：70%

台 3 社・80%台 14 社・90%台 3 社）

(c) 「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率 90%〔昨年度 94%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 1 社・80%台 2 社・90%台 15 社）

④ **ESG 関連**の 3 項目は、次のとおりとなり、平均得点率は昨年度に比べてほぼ同水準となった。

(a) 「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか」（平均得点率 76%〔昨年度 78%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 4 社・70%台 9 社・80%台 6 社）

(b) 「社会（S）に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」（平均得点率 73%〔昨年度 75%〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 6 社・70%台 10 社・80%台 3 社）

(c) 「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか」（平均得点率 74%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 4 社・70%台 12 社・80%台 2 社・90%台 1 社）

(2) **上位３企業の評価概要**

<u>第 1 位　三井化学（ディスクロージャー優良企業〔6 回連続 10 回目〕、総合評価点 87.6 点〔昨年度比＋0.3 点〕）</u>

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉90%）、**ESG 関連**（86%）が第 1 位、**説明会等**が第 2 位（88%）、**フェア･ディスクロージャー**（94%）、**自主的情報開示**（83%）が同得点第 2 位となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が最も高い評価となった。これらに関連して、経営陣による IR 活動への積極的な関与や、社長・CFO との対話機会の充実、構造改革を含む経営方針や中長期ビジョンの継続的かつ明確な情報発信に加え、新経営体制への期待や全社的に IR へ取り組む姿勢を評価する声が寄せられた。また、ESG を中期経営計画と一体的に位置付け、関連説明会の開催や Blue Value／Rose Value 指標、環境配慮製品比率、従業員エンゲージメントなどの定量的な情報開示を積極的に進めることで、ESG への取組を投資家に分かりやすく伝えている点を評価する声があった。「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」は第 2 位となった。また、「会社にとって都合の悪い情報（不祥事含む）、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していること」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、トップマネジメントと IR 部門の距離が近く、投資家に理解してもらうための姿勢のもとで十分かつ継続性のある情報開示が行われているほか、定量情報も充実しており、業績変動要因や長期戦略などについて有意義で質の高いディスカッションができる点や、IR イベントを積極的に開催している点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（2 項目計）が最も高い評価となった。また、「四半期情報開示」は同得点第 2 位に、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、製品別・子会社別データなど詳細な開示が充実しているほか、決算説明会に加えて経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向から中長期の方向性まで丁寧に説明する姿勢を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「速やかな情報提供」が同得点第 1 位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、資料の見やすさに加え、質疑応答の要旨集や英文資料も適時かつ分かりやすく開示されていることを評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「環境（E）に関連する項目」および「社会（S）に関連する項目」が共に最も高い評価となったほか、「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が第 2 位となった。これらに関連して、長期経営計画「VISION 2030」の策定を通じてマテリアリティを見直し、事業活動とサステナビリティを一体的に位置付けるとともに、非財務目標の定量化や KPI の設定、進捗・実績の継続的な開示に加え、資本政策や財務戦略についても明確に示している点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書

において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 2 位となった。「工場見学、ESG 説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」も第 3 位となった。充実していたイベントとして、名古屋工場見学会や事業説明会を挙げる声があった。また、統合報告書の内容を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　旭化成　（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 85.8 点〔昨年度比＋3.8 点〕、昨年度第 3 位〔一昨年度第 3 位〕）

① 同社は、**フェア･ディスクロージャー**（96%）、**自主的情報開示**（85%）が第 1 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（87%）、**説明会等**（86%）、**ESG 関連**（83%）が第 3 位となった。昨年度に比べて、**経営陣の IR 姿勢等**の得点率が大きく改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値や株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、経営方針に対する社長の明確な説明や、CEO・CFO を含む経営陣の積極的な IR 活動と充実した対話に加え、自社のバリュエーション課題を分析し、市場との対話を通じて改善を図ろうとする姿勢など、企業価値向上に向けた意識の高さを評価する声が寄せられた。「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、統合報告書やトップミーティング、関連説明会などを通じて知的財産を含む ESG に関する説明の充実を図るとともに、E・S・G それぞれの重要性を認識し積極的な情報発信を行っている点や、中期経営計画と連動した取組内容を分かりやすく示している点を評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能、基本スタンス」（2 項目計）が同得点第 3 位となった。これらに関連して、十分な情報開示に加え、各セグメント・製品に関する情報や Data sheet の発行など開示内容が充実・改善しており、トップマネジメントと IR 部門の距離の近さや社内の風通しの良さを背景に、必要な情報について円滑なコミュニケーションと適切な議論が可能であること、また不明点へのフォローアップや情報開示の継続性への配慮がなされている点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（2 項目計）が第 3 位となったほか、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」は同得点第 3 位に、「四半期情報開示」は同得点第 5 位となった。これらに関連して、ファクトシートの充実や IR 担当者の高い説明力により、事業内容や業績への理解が深まる開示が行われている点を評価する声が寄せられた。なお、説明会資料における情報量の更なる充実や、海外住宅事業およびヘルスケア事業のリスク、シナジー、事業戦略に関する開示の拡充を期待する声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は最も高い評価となったほか、「速やかな情報提供」も同得点第 1 位となり、この分野の第 1 位となった。これらに関連して、決算説明会の要旨を質疑応答も含めて日英両言語で遅滞なく提供し、英訳のクオリティも高いことに加え、買収や大型投資などの重要な意思決定の直後にはハイブリッド形式で説明会を開催するなど、迅速かつ公平な情報開示を重視する姿勢を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「環境（E）に関連する項目」および「社会（S）に関連する項目」が共に第 2 位となったほか、「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が第 3 位となった。これらに関連して、無形資産と企業価値の関係について熱心に説明しているほか、GRI サステナビリティ・レポーティング・スタンダードを参照した情報開示の標準化を進め、事業を通じた環境・社会への貢献や事業活動に伴う負荷低減に関する定量目標の設定、環境関連データをはじめとする ESG 関連データの積極的な開示を行っている点を評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」が最も高い評価となった。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 2 位となった。充実していたイベントとして、重点成長事業説明会を挙げる声が多く寄せら

れた。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、**「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」**に選定した。

第 3 位　日産化学（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 85.2 点〔昨年度比＋1.7 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（91%）、**ESG 関連**が第 2 位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 2 位（94%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（85%）、**自主的情報開示**が第 7 位（76%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**を除く 4 項目において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、実績・見通しに関する数値開示や説明会資料の内容が充実しているほか、セグメント別・製品別の詳細な情報提供、データ開示の継続性への配慮、さらには投資家の関心事項を踏まえた情報開示姿勢を評価する声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が第 4 位となった。これらに関連して、CFO を中心に経営陣が決算説明会や IR 取材へ継続的に関与し、開示内容の充実や IR に対する高い意識がうかがえる点を評価する声が寄せられた。なお、持続的な成長のための研究開発力強化、新製品売上やパイプラインに関する開示の強化を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」および「四半期情報開示」がいずれも最も高い評価となったほか、「インタビューにおける補足説明が十分であること」も同得点第 2 位となり、この分野の第 1 位となった。これらに関連して、定量情報や補足資料、会社概要資料などの開示内容が非常に充実しているほか、IR 担当者の説明力が高く、取材を通じて有用な情報が得られる点を評価する声があった。なお、新製品売上や動物薬原体の状況に関する開示のさらなる充実を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「速やかな情報提供」が同得点第 1 位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、IR 全資料の英文対応を評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が最も高い評価となり、90%以上の得点率であった。これに関連して、ROE 向上や株主還元に関する方針が一貫しており、資本政策や株主還元策について分かりやすく開示している点を評価する声があった。また、「環境（E）に関連する項目」および「社会（S）に関連する項目」は共に第 5 位となった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 6 位となった。「工場見学、ESG 説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」は同得点第 7 位となった。充実していたイベントとして、農業化学品説明会を挙げる声が多く寄せられた。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、**「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」**に選定した。

(3)　**上記以外の企業についての特記事項**

○ **デンカ　（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 76.7 点〔昨年度比＋3.0 点、一昨年度比＋8.7 点〕、第 6 位〔昨年度第 11 位、一昨年度第 15 位〕）**

① 同社は、**説明会等**が第 4 位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 5 位（88%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（77%）、**ESG 関連**が第 11 位（73%）、**自主的情報開示**が第 15 位（69%）となった。昨年度に比べて、**自主的情報開示**を除く 4 分野において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」（2 項目計）は得点率が大きく改善し、同

得点第 3 位（昨年度同得点第 4 位）となった。これに関連して、情報開示が充実しているほか、IR 部門が投資家の理解促進を意識した情報提供や情報収集に努め、説明力にも優れており、売上高や利益の方向性について有益なディスカッションができる点や、セグメント別・製品別の詳細な情報開示を評価する声が寄せられた。なお、米 DPE、AI および電力インフラ関連製品に関する情報提供のさらなる充実を望む声があった。また、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）は第 11 位（昨年度第 17 位）になり、共に昨年度に比べて得点率が大きく改善した。これらに関連して、社長が年 2 回の説明会やセルサイド向けスモールミーティングに参加するなど、経営陣が IR 活動に積極的に関与し、経営の目指す方向性を分かりやすく発信している点を評価する声が寄せられた。なお、経営層による積極的な IR への関与の継続・定着を望む声もあった。

③　**説明会等**においては、「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」が第 2 位、「四半期情報開示」は同得点第 2 位となった。「説明会、インタビューにおける開示」2 項目のうち「決算説明会における会社側の説明が十分であること」は第 4 位（昨年度同得点第 7 位）となり、得点率が大きく改善した。これらに関連して、IR 部門の説明力の高さに加え、インタビューや取材を通じて得られる情報の有用性を評価する声が寄せられた。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 4 位（昨年度同得点第 12 位）となり、得点率が大きく改善した。「速やかな情報提供」は 90%以上の得点率となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が同得点第 9 位（昨年度同得点第 17 位）、「環境（E）に関連する項目」が第 11 位（昨年度同得点第 16 位）となり、共に昨年度に比べて得点率が改善した。

⑥　**自主的情報開示**の「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 10 位（昨年度第 17 位）となり、得点率が改善した。充実していたイベントとして、糸魚川青海工場見学会を挙げる声が寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以　上

2026年度 ディスクロージャー評価比較総括表 （化学・繊維）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 31点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 21点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 13点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183　三井化学	87.6	27.8	1	18.5	2	4.7	2	25.8	1	10.8	2	1
2	3407　旭化成	85.8	26.9	2	18.1	3	4.8	1	24.9	3	11.1	1	3
3	4021　日産化学	85.2	26.5	3	19.1	1	4.7	2	25.0	2	9.9	6	2
4	4005　住友化学	81.5	25.4	4	16.9	5	4.5	4	23.9	4	10.8	2	4
5	3402　東レ	78.2	24.5	5	16.1	7	4.4	5	23.1	6	10.1	4	8
6	4061　デンカ	76.7	24.0	6	17.5	4	4.4	5	21.8	11	9.0	15	11
6	4204　積水化学工業	76.7	23.2	9	16.5	6	4.3	10	23.6	5	9.1	11	5
8	4188　三菱ケミカルグループ	75.7	23.4	8	15.0	10	4.4	5	22.9	7	10.0	5	6
9	4208　ＵＢＥ	74.1	23.6	7	14.6	12	4.2	11	22.5	8	9.2	10	7
10	4182　三菱瓦斯化学	73.2	22.1	12	15.5	8	4.2	11	22.1	9	9.3	8	9
11	4004　レゾナック・ホールディングス	73.1	22.9	10	15.0	10	4.1	15	22.0	10	9.1	11	10
12	4612　日本ペイントホールディングス	71.9	22.5	11	14.6	12	4.4	5	20.5	16	9.9	6	17
13	4042　東ソー	71.3	21.7	14	15.1	9	4.1	15	21.3	13	9.1	11	12
14	3401　帝人	71.1	22.1	12	14.1	14	4.1	15	21.7	12	9.1	11	15
15	3405　クラレ	69.7	21.3	15	14.0	15	4.2	11	20.9	14	9.3	8	14
16	4091　日本酸素ホールディングス	65.2	19.8	16	12.9	16	4.2	11	20.0	17	8.3	17	19
17	4063　信越化学工業	64.8	19.8	16	12.2	18	4.4	5	19.9	18	8.5	16	16
18	4202　ダイセル	63.3	17.9	19	12.6	17	4.0	18	20.9	14	7.9	18	12
19	4114　日本触媒	60.4	18.4	18	12.2	18	3.4	20	18.8	19	7.6	19	－
20	4118　カネカ	53.8	15.9	20	10.1	20	3.5	19	16.9	20	7.4	20	20
	評価対象企業評価平均点	74.08	22.88		15.31		4.32		22.18		9.39		

2026年度の具体的評価項目および配点（化学・繊維）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（31点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値や株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**11**
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**7**
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**9**
②会社にとって都合の悪い情報（不祥事含む）、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	**4**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（21点）	**配点**
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	**7**
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	**7**
(2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	**5**
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	**2**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	**3**
(2)速やかな情報提供	
・状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**2**
4．ESGに関連する情報の開示（30点）	**配点**
①環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか。	**10**
②社会（S）に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	**10**
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。	**10**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（13点）	**配点**
①工場見学、ESG説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。［過去1年間を目安に評価］ 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	**8**
②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。 【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	**5**

化学･繊維専門部会委員

部　会　長	渡部　貴人	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
部会長代理	山田　幹也	みずほ証券
	岡嵜　茂樹	野村證券
	齋藤　達哉	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	澤砥　正美	SBI 証券
	野口　英彦	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
	渡辺　勇仁	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（28 名）

伊藤　健悟	QUICK	西脇　秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
今津　拓洋	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	新田　哲郎	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
上迫　和也	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	野口　英彦	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
梅林　秀光	大和証券	畑澤　巧	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大谷　優斗	みずほ証券	番　大輝	野村證券
大野　剛	丸三証券	松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岡嵜　茂樹	野村證券	南　純一	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岡田　真一	三菱 UFJ 信託銀行	宮本　剛	SMBC 日興証券
河野　孝臣	野村證券	百田　史哉	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
古西　正幸	第一生命保険	山田　幹也	みずほ証券
齋藤　達哉	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	吉武　祐翔	野村證券
澤砥　正美	SBI 証券	渡辺　勇仁	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
坪井　暁	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	渡邉　亮一	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
西平　孝	岡三証券	渡部　貴人	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

トイレタリー・化粧品

1．評価対象企業（8 社）

花王、資生堂、ライオン、コーセーホールディングス（注）、ポーラ・オルビスホールディングス、小林製薬、ピジョン、ユニ・チャーム

（注）コーセーが商号を変更した（2026 年 1 月）

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法等

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	5	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	5	28
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	12
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 16 名（所属先 14 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1) **総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、主に**経営陣の IR 姿勢等**および**ESG 関連**の項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.4 点（昨年度 70.0 点）、総合評価点の標準偏差は 4.2 点（昨年度 5.6 点）であった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 68%（昨年度 64%）、**説明会等**が 74%（昨年度 75%）、**フェア･ディスクロージャー**が 89%（昨年度 80%）、**ESG 関連**が 75%（昨年度 73%）、**自主的情報開示**が 70%（昨年度同率）となった。

③ 評価項目について見ると、全 15 項目中 3 項目が平均得点率で 80%以上となり、高水準であった。具体的には、次の**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目(a)、**フェア･ディスクロージャー**の項目(b)、**ESG 関連**の中の 1 項目（下記⑤の(a)）であった。

(a)「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していますか」（平均得点率 81%〔新規項目〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台 5 社・80%台 3 社）

(b) 「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な

注意を払っていますか」（平均得点率 89%〔昨年度 98%〕）（得点率：80%台 4 社・90%台 4 社）

④　一方、次の**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目は、平均得点率が 50%となり、全 15 項目の中で最も低くなった。昨年度に比べて平均得点率は改善しており、今後も改善努力を求めたい。

・「社外取締役が投資家の代弁者としての役割期待を十分に理解した上で、投資家の要請に応えていますか」（平均得点率 50%〔昨年度 45%〕）（得点率：40%台 4 社・50%台 4 社）

⑤　**ESG 関連**の 5 項目については、次のとおりとなった。このうち、昨年度と比較可能な 3 項目（(b)(d)(e)）においては、いずれも平均得点率が改善した。

(a)　「環境および社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか」（平均得点率 83%〔新規項目〕）（得点率：70%台 2 社・80%台 4 社・90%台 2 社）
(b)　「人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、定性・定量の両面で進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか」（平均得点率 77%〔昨年度 71%〕）（得点率：70%台 5 社・80%台 3 社）
(c)　「人件費総額（原価・販管費）を開示していますか」（(平均得点率 65%〔新規項目〕）得点率：40%台 1 社・50%台 1 社・60%台 2 社・70%台 4 社）
(d)　「中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とする ROE 等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか」（平均得点率 72%〔昨年度 65%〕）（得点率：60%台 3 社・70%台 4 社・80%台 1 社）
(e)　「社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていますか」（平均得点率 76%〔昨年度 73%〕）（得点率：70%台 6 社・80%台 2 社）

(2)　**上位３企業の評価概要**

第 1 位　花王（ディスクロージャー優良企業［2 回連続 4 回目］、総合評価点：77.9 点〔昨年度比＋0.4 点〕）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉75%）、**ESG 関連**（83%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 2 位（78%）、**説明会等**が第 3 位（74%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（90%）となった。
② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、IR 人員の増強が図られているほか、トップマネジメントが投資家との対話に前向きであり、投資家の意見が IR を通じてマネジメントへ伝えられるなど、IR 活動に注力している点を評価する声が寄せられた。また、情報発信のあり方やキーイシューへのフォーカスなど、経営戦略から IR までの連携が強まっている点を評価する声があった。「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」も同得点第 1 位となった。これに関連して、決算説明会とは別にトップマネジメントが投資家へ直接説明する機会を設けるとともに、事業部単位では説明が難しい分野について経営陣が補足説明を行うなど、投資家とのコミュニケーションが大幅に改善している点を評価する声が寄せられた。なお、海外 BtoC 事業やケミカル事業の方向性・時間軸に関する説明、および M&A について過去の実績や成功要因、課題を踏まえた再現性のある説明を望む声があった。また、原材料高によるマイナス影響について、より定量的な説明を望む声もあった。「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」は第 2 位となった。これに関連して、決算説明会のアンケートを原文のまま経営陣に共有するなど、資本市場の意見を経営陣へ届ける取り組みを行っている点を評価する声が寄せられた。なお、その意見が活かされているかについては、現状では確信度が低いのではとの声があった。「社外取締役との対話」も第 2 位となったが、得点率は 50%台にとどまった。これに関連して、株主提案が 2 年連続で提出されたことも踏まえ、投資家の代弁者としての社外取締役の役割に対する市場参加者の関心は高く、社外取締役との対話機会の設定を望む声があった。「IR 部門の機能、基本スタンス」は同得点第 2 位となった。これに関連して、FAQ にとどまらず、投資家の独自リサーチ情報を踏まえた仮説検証型の議論ができるなど、有益なディスカッションが行われている点を評価する声が寄せられた。なお、コンシューマー事業に比べ、ケミカル事業

に関する情報提供やディスカッションの充実を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第 3 位となった。これに関連して、国内 BtoC 事業については理解しやすく、決算説明会やインタビューを通じて一定の情報提供がなされている点を評価する声が寄せられた。一方、海外 BtoC については中長期的な絵姿がまだ分からないとの声もあった。原材料高の影響やケミカル事業の強みに関する定量的な説明を望む声があった。また、スペシャルティケミカルとコモディティケミカルの違いが分かるような開示の工夫を望む声もあった。「説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示」は第 7 位となった。これに関連して、パブリックに開示可能な情報については、企業分析に必要な資料が揃っている点を評価する声が寄せられた。一方、セグメント変更後の時系列分析や利益要因分解の継続的な比較がしやすくなるよう、開示方法の工夫を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」は同得点第 3 位となった。これに関連して、フェア・ディスクロージャーを遵守するとともに、社長スモールミーティングの Q&A を開示するなど、公平で透明性の高い情報開示に努めている点を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョンに関する項目」が最も高い評価となった。これに関連して、業績改善に向けた取り組みや成長戦略、中長期的に目指す企業の姿が分かりやすく示されているほか、キャピタルアロケーションについて言及している点を評価する声が寄せられた。「社外取締役を含む取締役の項目」も最も高い評価となった。また、「環境および社会に関する項目」および「人的資本に関する項目」は、共に同得点第 1 位となった。このほか、「人件費総額に関する項目」は同得点第 2 位であった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、知財・無形資産、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」が最も高い評価となった。また、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第 2 位であった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　ライオン（総合評価点：77.3 点〔昨年度比＋4.2 点〕、昨年度第 3 位）

① 同社は、**自主的情報開示**が第 1 位（83%）、**経営陣の IR 姿勢等**（73%）、**説明会等**（78%）が第 2 位、**ESG 関連**が第 3 位（78%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（90%）となった。昨年度に比べて、**フェア･ディスクロージャー**を除く 4 分野において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」が最も高い評価となった。これに関連して、説明会の冒頭で経営陣自ら投資家・アナリスト向けメッセージを発信するなど、株価を意識したコミュニケーションを行っている点を評価する声が寄せられた。「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、代表権を持つ社長と副社長が IR 活動に熱心に対応するとともに、力強いリーダーシップのもとで IR 活動に注力している点を評価する声が寄せられた。「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」も同得点第 1 位となった。これに関連して、事業説明会やバイサイドミーティングにも社長が出席するほか、経営陣が中長期戦略の観点から補足説明を行い、CFO が財務面のリスクや制約について数字に基づいて説明している点を評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能、基本スタンス」は同得点第 2 位となった。これに関連して、ブランド別・チャネル別の数値を踏まえ、中期経営計画への進捗状況を IR 部門との対話を通じて確認できるなど、十分な情報が集積されている点を評価する声が寄せられた。また、FAQ にとどまらず、投資家の独自リサーチ情報を踏まえた仮説検証型の議論ができるなど、IR 担当者との有益なディスカッションが行われている点を評価する声があった。一方、社外取締役との対話機会の設定を望む声があった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第 2 位となった。これに関連して、主要な論点に関する開示が進んでいるほか、海外事業説明会を開催するなど、投資家に対する情報提供の充実に取り組んでいる点を評価する声が寄せられた。他方、重点領域における進捗状況や今後の方向性に関する説明のさらなる充実を望む声もあった。「説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示」は同得点第 2 位となった。

これに関連して、パブリックに開示可能な情報については、企業分析に必要な資料が揃っている点を評価する声が寄せられた。一方、国内コンシューマー事業のシェア動向に関する開示の充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」は同得点第 3 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョンに関する項目」が第 2 位となった。これに関連して、P/L や B/S の左側については、シンプルな KPI により分かりやすく説明されている点を評価する声が寄せられた。一方、B/S の右側に関する目指す姿や資本政策について、より具体的な説明を望む声があった。なお、M&A について、何を重要な成功要因と捉え、どのように再現性を確保していくのかについての説明を望む声もあった。このほか、「人件費総額に関する項目」は同得点第 2 位、「社外取締役を含む取締役の項目」は第 3 位、「環境および社会に関する項目」は同得点第 3 位、「人的資本に関する項目」も同得点第 4 位であった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」が最も高い評価となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、知財・無形資産、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であること」同得点第 2 位なった。これらに関連して、変化点について適宜説明が行われている一方で、重点領域における進捗状況の継続的な発信を望む声があった。海外におけるオーラルヘルスケア事業の展開に関する説明機会の充実を望む声もあった。

第 3 位　資生堂（総合評価点：73.2 点〔昨年度比＋2.1 点〕、昨年度第 5 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（71%）、**フェア･ディスクロージャー**（88%）、**ESG 関連**（76%）が第 5 位、**説明会等**（73%）、**自主的情報開示**（69%）が同得点第 5 位となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役との対話」が最も高い評価となった。なお、登壇者の多様化を望む声があった。「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」が第 3 位となった。これに関連して、各四半期説明会に CEO・CFO が出席し、注力分野やリスクについて説明するとともに、事業の成長や業績改善に向けた戦略とその進捗について熱意をもって説明している点を評価する声が寄せられた。一方、売上獲得能力を高めるための施策や、キャピタルアロケーションに関する説明の充実を望む声もあった。「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」も第 3 位となった。ただし、株価動向に関して説明会等で言及を望む声があった。経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」が同得点第 4 位となった。これに関連して、経営陣が IR を重視し、市場参加者との対話を通じて情報のアップデートや戦略の浸透を図っている点を評価する声が寄せられた。他方、IR 組織のインテリジェンス機能の強化や、社内における IR 部門の影響力向上を望む声もあった。「IR 部門の機能、基本スタンス」に関連して、ブランド別の詳細数値を踏まえたディスカッションが可能であるほか、FAQ にとどまらず投資家の独自リサーチ情報を踏まえた仮説検証型の議論ができている点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が同得点第 4 位、「説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示」は第 6 位となった。これらに関連して、パブリックに開示可能な情報については、企業分析に必要な資料が揃っている点を評価する声が寄せられた。また、過去のセグメント変更やセグメント間の費用配分方法の変更により時系列分析が困難な状況にある中、現 CFO がこの点を安定化させる方針を示していることを評価する声があった。一方、予想ベースの増減益要因分析に関する開示の充実を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」は第 5 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「人件費総額に関する項目」が最も高い評価となったほか、「環境および社会に関する項目」は同得点第 3 位となった。また、「中期経営計画や長期ビジョンに関する項目」は第 4 位となった。これに関連して、売上獲得に向けた具体的な施策、ブランドの成長戦略の進捗、中期経営計画における目標指標や資本政策について、より具体的な説明を望む声があった。このほか、「社外取締役を含む取締役の項目」は同得点第 5 位、「人的資本に関する項目」は同得点第 6 位であった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容が充実していること」および「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、知財・無形資産、各種災害の影響等）の開示が迅速かつ十分であ

ること」は共に第 6 位なった。これらに関連して、好調なブランド（CPB）に関する説明会を開催するなど、事業ごとの情報開示に取り組んでいる点を評価する声が寄せられた。一方、北米ブランドについても説明会の開催を望む声があった。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（トイレタリー・化粧品）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目5（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目5（配点 28点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 12点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4452　花王	77.9	26.1	1	14.8	3	4.5	3	23.1	1	9.4	2	1
2	4912　ライオン	77.3	25.6	2	15.5	2	4.5	3	21.7	3	10.0	1	3
3	4911　資生堂	73.2	24.7	3	14.6	5	4.4	5	21.2	5	8.3	5	5
4	4927　ポーラ・オルビスホールディングス	71.8	23.4	4	16.3	1	4.8	1	18.8	7	8.5	4	2
4	8113　ユニ・チャーム	71.8	22.3	6	14.2	8	4.1	8	21.9	2	9.3	3	4
6	7956　ピジョン	69.9	23.3	5	14.6	5	4.3	6	21.6	4	6.1	8	7
7	4967　小林製薬	68.6	22.3	6	14.7	4	4.6	2	18.7	8	8.3	5	8
8	4922　コーセーホールディングス	65.4	21.3	8	14.3	7	4.3	6	19.2	6	6.3	7	6
	評価対象企業評価平均点	72.38	23.76		14.87		4.43		20.92		8.40		

2026年度の具体的評価項目および配点（トイレタリー・化粧品）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が、IR対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR活動に注力していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄（匿名または記名の希望を含む）に記入して下さい】	**5**
②経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄（匿名または記名の希望を含む）に記入して下さい】	**8**
③経営陣は、株価を意識し、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄（匿名または記名の希望を含む）に記入して下さい】	**5**
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄（匿名または記名の希望を含む）に記入して下さい】	**7**
(3)社外取締役との対話	
・社外取締役が投資家の代弁者としての役割期待を十分に理解した上で、投資家の要請に応えていますか。	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄（匿名または記名の希望を含む）に記入して下さい】	**10**
(2)説明資料等（短信および補足資料を含む）における開示	
・決算短信と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が入手できますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄（匿名または記名の希望を含む）に記入して下さい】	**10**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
・経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄（匿名または記名の希望を含む）に記入して下さい】	**5**
4．ESGに関連する情報の開示（28点）	**配点**
①環境および社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	**5**
②㋐人的資本の活用について、自主的な項目を設定し、定性・定量の両面で進捗状況や経営戦略との関係性を適切に説明していますか。	**5**
③人件費総額（原価・販管費）を開示していますか。	**3**
④中期経営計画や長期ビジョン（例えば目標とするROE等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。また、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄（匿名または記名の希望を含む）に記入して下さい】	**10**
⑤社外取締役を含む取締役の選定理由を説明し、取締役会の実効性が示されていますか。	**5**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	**配点**
①工場見学、事業部説明会、新製品発表会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。［過去1年間を目安に評価。開催なし　0点］	**7**
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新技術・新製品、設備投資計画の変更、M＆A、知財・無形資産、各種災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	**5**

トイレタリー・化粧品専門部会委員

部　会　長	広住　勝朗	大和証券
部会長代理	大花　裕司	野村證券
	長田　佳三	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	桑原　明貴子	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	高口　伸一	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	夏目　宏之	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（16 名）

伊藤　健悟	QUICK	坂田　喜彦	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
上村　悠	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	竹間　雅子	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
江上　誠	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	仲西　恭子	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
大花　裕司	野村證券	夏目　宏之	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
長田　佳三	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	広住　勝朗	大和証券
桑原　明貴子	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券	福井　悠香	第一生命保険
高　英詞	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
高口　伸一	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	李　想	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

医薬品

1．評価対象企業（22 社）

エムスリー、協和キリン、武田薬品工業、アステラス製薬、住友ファーマ、 塩野義製薬、日本新薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、参天製薬、ツムラ、テルモ、JCR ファーマ、第一三共、大塚ホールディングス、サワイグループホールディングス、富士フィルムホールディングス（新規）、日本光電工業、シスメックス、オリンパス、朝日インテック

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	7
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	15
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 37 名（所属先 25 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、新規に企業を加えたほか、**経営陣の IR 姿勢等**および **ESG 関連**を中心に項目数・内容、配点の見直しを行ったため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.8 点（昨年度 73.1 点）、総合評価点の標準偏差は 6.6 点（昨年度同点）であった。

②　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 75%（昨年度同率）、**説明会等**が 72%（昨年度 75%）、**フェア･ディスクロージャー**が 81%（昨年度 82%）、**ESG 関連**が 70%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が 73%（昨年度 69%）となった。

③　評価項目について見ると、全 13 項目のうち次の**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目(a)および**フェア･ディスクロージャー**の中の 2 項目(b)・(c)の平均得点率が、いずれも 80%以上となり、高水準であった。

(a)「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していますか」（平均得点率 81%〔新規項目〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 3 社・70%台 5 社・80%台 12 社・90%台 2 社）

(b)「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合が悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 81%〔昨年度 85%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 7 社・80%台 13 社）

(c)「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 77%〕）（得点率：70%台 6 社・80%台 11 社・90%台 5 社）

④ 一方、**ESG 関連**の中の社外取締役に関する項目(a)は、昨年度に続き 60%台にとどまった。(a)については、投資家等と社外取締役との対話の重要性が増していることを踏まえて、今後の積極的な取組みを期待したい。

(a)「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率 67%〔昨年度 65%〕）（得点率：40%台 1 社・50%台 3 社・60%台 10 社・70%台 7 社・80%台 1 社）

(2) 上位３企業の評価概要

第 1 位 アステラス製薬 （ディスクロージャー優良企業〔8 回目〕、
総合評価点 84.8 点〔昨年度比＋6.0 点〕、昨年度同得点第 4 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉89%）、**フェア・ディスクロージャー**（90%）、**ESG 関連**（84%）、**自主的情報開示**（87%）が第 1 位、**説明会等**が同得点第 5 位（78%）となった。昨年度に比べて、**説明会等**を除く 4 項目全てにおいて得点率が大きく改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」および「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、CEO・CFO・IR 部門が連携して中期経営計画の策定・発表において積極的に投資家との対話や情報発信を行い、発表後も高頻度で詳細な説明を実施しているほか、経営トップによる 1on1 ミーティングや、CFO による分かりやすいキャピタルアロケーションの説明、新経営計画の分かりやすいフレームワークを評価する声が寄せられた。なお、中長期構想のさらなる説明やリスク認識に関する開示の拡充を望む声もあった。「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、中期経営計画の策定・発表に向けて投資家への事前ヒアリングを徹底的に実施し、その知見を経営に活かしている点や、新経営計画において明確な増配方針を示した点を評価する声があった。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」も最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門に十分な情報が集約されるとともに権限も付与されており、質の高いメンバーによる迅速な対応や、研究開発・財務担当を含めた役割分担が図られるなど、充実した体制を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会における開示」が第 4 位、「説明資料等における開示」が同得点第 5 位となった。これらに関連して、説明資料は全般的に読みやすく、説明も丁寧で分かりやすいほか、開示内容についても必要十分であると評価する声が寄せられた。なお、製品別の会社計画開示の大幅な縮小はディスクロージャーとしてはマイナスという声が多かった。また、開発パイプラインのポテンシャルに関するより詳細な説明を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されること」が最も高い評価となったほか、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合の悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、会社にとって都合の悪い情報についても適切に議論・説明する姿勢を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、全 4 項目において最も高い評価となった。これらに関連して、新経営計画については、フレームワークが分かりやすく、よく作り込まれている点や、全体として内容を理解しやすい点を評価する声が寄せられた。なお、中期経営計画のさらに詳細な情報について、説明を望む声もあった。

⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は、最も高い評価となり、昨年度（第 8 位）に比べて得点率が大きく改善した。これ

に関連して、中期経営計画説明会に加え、R&D 説明会やサステナビリティミーティングなど、注目分野に関するイベントや情報発信を戦略的かつ適切なタイミングで継続的に実施している点を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　朝日インテック　（総合評価点 80.4 点〔昨年度比＋1.6 点〕、昨年度同得点第 4 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（83%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（84%）、**自主的情報開示**が同得点第 3 位（83%）、**ESG 関連**が同得点第 5 位（74%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 7 位（84%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が第 2 位となった。これに関連して、IR 部門におけるフェア・ディスクロージャー・ルールを遵守した情報開示や、日本語・英語双方でのコミュニケーションが改善している点を評価する声が寄せられた。なお、IR 組織の体制強化を望む声もあった。また、「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」が同得点第 2 位となった。これに関連して、経営陣が株価を意識した IR 活動に積極的に取り組み、IR 活動の活発化を進めている点を評価する声が寄せられた。また、競争上の理由から開示が難しい開発製品の情報についても、株価評価における重要性を認識し、可能な範囲で開示に努めている姿勢を評価する声があった。「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」は第 3 位となった。これに関連して、経営陣が IR 活動に積極的に関与し、自ら経営戦略や資本政策について説明しているほか、マージン改善に向けた明確なメッセージを継続的に発信している点を評価する声があった。また、経営陣が詳細な数値まで把握したうえで IR 資料を用いて丁寧な説明を行い、定期的に投資家との 1on1 ミーティングを実施していることや、戦略の明確さと分かりやすい説明を評価する声があった。「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」は同得点第 4 位となった。これに関連して、CEO・CFO を中心とした積極的なコミュニケーションや、明確な説明、タイムリーな IR イベントの実施を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会における開示」および「説明資料等における開示」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、説明会資料は年々充実しており、細かな数値分析に加えてその背景や業界環境についても丁寧に説明しているほか、日本語・英語双方でのコミュニケーションの改善や、一過性要因、四半期計画と実績との差異に関する開示の充実を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていること」が同得点第 6 位（昨年度第 2 位）、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合が悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」は同得点第 8 位（昨年度同得点第 6 位）に、共に昨年度に比べて順位を下げた。これらに関連して、決算説明会における投影資料と開示資料の内容の整合性向上や、競合状況に関するより詳細な説明を望む声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること、また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が第 2 位となった。これに関連して、中期経営計画については、具体的な内容に加え、中長期目標が明確に示されている点や、事業環境の変化や実績を踏まえた適切なアップデートが予定されている点を評価する声が寄せられた。また、「財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していること」は第 4 位に、「非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていること」は同得点第 7 位に、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」は第 13 位となった。

⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は同得点第 3 位となり、昨年度（第 6 位）に比べて得点率が大きく改善した。これに関連して、事業や成長戦略に関する説明が充実しており、事業見学会や工場見学会を通じて現場や製品への理解を深める機会を継続的に提供している点を評価する声があった。特に、大阪 R&D センターやタイ工場での見学会は有益であり、業績ドライバーである生産性改善に関するタイムリーな情報発信や、明確な戦略説明を評価する声が寄せられた。また、現場見学会の継続的な開催を望む声もあった。

第３位　中外製薬　（総合評価点 79.8 点〔昨年度比－3.7 点〕、昨年度第１位）

① 同社は、**ESG 関連**（78%）が第 3 位、**説明会等**（78%）、**自主的情報開示**（83%）が同得点第 3 位、**経営陣の IR 姿勢等が第 4 位**（81%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 5 位（86%）となった。昨年度に比べ、**説明会等**および**自主的情報開示**の得点率が大きく下がった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が、IR 対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR 活動に注力していること」が第 2 位となった。これに関連して、経営陣は IR 活動に積極的に関与しており、トップマネジメントの高い IR 意識や良好な情報発信に加え、CFO へのアクセス機会の多さや四半期決算時の対応、豊富な IR イベントを評価する声が寄せられた。なお、IR 活動の組織的な体制強化を望む声があった。また、成長戦略前半 5 年間の総括について、より十分な説明を望む声もあった。「経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していること」は同得点第 6 位となった。これに関連して、経営戦略や成長戦略については、2030 年以降を見据えた明確な戦略や継続的なアップデート、自社創製品の前臨床段階に関する説明に加え、説明会で明確なメッセージを発信している点を評価する声が寄せられた。なお、CEO との対話機会の拡充を望む声もあった。「経営陣は、株価を意識し、IR 活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていること」は同得点第 9 位となった。これに関連して、新製品に関する説明会などを通じた積極的な情報発信を評価する声が寄せられた。また、IR チームとの対話を通じて投資家の意見が経営陣に伝達されているとの声があった。なお、臨床試験の進捗に関するより積極的な情報発信や、定性的な説明に加えた定量的な開示の充実を望む声があった。特に、自社開発品の一括開発中止や中分子創薬の進捗状況に関するより詳細な説明を望む声があった。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」は同得点第 3 位となった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が同得点第 2 位、「説明会における開示」が同得点第 5 位となった。これらに関連して、説明会や質疑応答、補足資料が充実しており、説明が分かりやすい点に加え、ロシュからのロイヤルティ収入の開示を評価する声が寄せられた。一方で、ロイヤルティ収入の個別内訳やロイヤルティ率などに関する情報開示の充実を望む声もあった。

④ **フェア･ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合の悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること」が同得点第 1 位に、「KAM で指摘された重要リスク情報が適切に開示されていること」は同得点第 9 位となった。これらに関連して、ロイヤルティの経済条件について、より具体的な情報開示を望む声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていること」が同得点第 2 位、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」および「財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していること」が第 3 位に、「中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていること」が同得点第 7 位となった。これらに関連して、中長期ビジョン「TOP I 2030」に沿った定性的な進捗報告が適宜行われている点を評価する声が寄せられた。なお、定量的な目標の設定を望む声もあった。

⑥ **自主的情報開示**の「注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それが有益であること」は同得点第 3 位となった。これに関連して、R&D ミーティングや新製品説明会、学会発表に関する説明会に加え、サステナビリティ説明会など、多様なイベントや情報発信を継続的に実施している点を評価する声が寄せられた。なお、研究開発テーマに関する情報発信のさらなる充実を望む声もあった。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（医薬品）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 25点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 7点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 33点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 15点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4503　アステラス製薬	84.8	22.2	1	15.5	5	6.3	1	27.7	1	13.1	1	4
2	7747　朝日インテック	80.4	21.1	3	16.5	1	5.9	7	24.5	5	12.4	3	4
3	4519　中外製薬	79.8	20.2	4	15.6	3	6.0	5	25.6	3	12.4	3	1
4	4901　富士フイルムホールディングス	79.7	20.0	5	15.1	7	6.1	3	26.0	2	12.5	2	－
5	4507　塩野義製薬	77.8	21.2	2	15.7	2	5.7	10	25.0	4	10.2	15	2
6	4543　テルモ	77.4	19.9	6	14.8	11	6.2	2	24.4	7	12.1	7	12
7	4578　大塚ホールディングス	76.6	19.8	8	15.5	5	6.1	3	23.0	10	12.2	6	8
8	4536　参天製薬	75.6	19.9	6	15.6	3	5.5	14	23.5	9	11.1	10	14
9	4528　小野薬品工業	75.3	19.4	9	14.9	9	5.9	7	22.7	12	12.4	3	13
10	6869　シスメックス	73.6	18.8	12	13.7	12	5.5	14	24.5	5	11.1	10	6
11	4502　武田薬品工業	73.4	19.0	10	14.9	9	5.8	9	22.2	14	11.5	8	7
12	4506　住友ファーマ	73.1	18.9	11	15.1	7	5.4	16	22.6	13	11.1	10	16
13	4523　エーザイ	72.4	17.9	16	13.6	15	5.6	12	24.4	7	10.9	13	9
14	6849　日本光電工業	71.2	18.4	13	13.3	18	6.0	5	22.8	11	10.7	14	11
15	4887　サワイグループホールディングス	68.9	18.2	15	13.6	15	5.1	20	22.1	15	9.9	16	9
16	4540　ツムラ	67.8	17.6	17	13.7	12	5.3	18	21.8	16	9.4	18	19
17	7733　オリンパス	66.8	18.4	13	12.7	20	5.2	19	21.8	16	8.7	20	18
18	4151　協和キリン	66.5	16.8	19	13.7	12	5.6	12	21.2	19	9.2	19	15
19	4568　第一三共	65.3	15.0	22	12.6	21	4.8	22	21.7	18	11.2	9	3
20	4516　日本新薬	63.5	16.0	21	13.1	19	5.1	20	19.8	20	9.5	17	17
21	4552　JCRファーマ	61.7	17.4	18	13.4	17	5.4	16	16.8	22	8.7	20	20
22	2413　エムスリー	60.3	16.6	20	11.9	22	5.7	10	18.9	21	7.2	22	22
	評価対象企業評価平均点	72.84	18.84		14.38		5.67		23.03		10.92		

2026年度の具体的評価項目および配点（医薬品）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が、IR対応組織を整備し（例えば、十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等）、IR活動に注力していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
②経営陣が、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、ビジネスモデルやリスクを説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**8**
③経営陣は、株価を意識し、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。	**7**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明会における開示	
・説明会における会社側の説明（質疑応答を含む）は十分ですか。	**10**
(2)説明資料等における開示	
・企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	**10**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	
3．フェア・ディスクロージャー（7点）	**配点**
①経営陣およびIR部門がメディアを含む総合的な情報開示に際し、会社にとって都合が悪い情報も含め、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	**5**
②KAMで指摘された重要リスク情報が適切に開示されていますか。	**2**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	
4．ESGに関連する情報の開示（33点）	**配点**
①社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	**10**
②中期経営計画や長期ビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。また、資本政策、株主還元策等が十分に説明されていますか。	**10**
③財務情報と非財務情報（環境や社会、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、知財・無形資産等）を統合し、経営の長期的課題に対する取組みと目標を開示していますか。	**10**
④非財務情報に関する定量的な実績の開示がされていますか。	**3**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（15点）	**配点**
・注目される事業ないし研究開発テーマ等を紹介するイベントや情報発信を行っており、それは有益ですか。［過去1年間を目安に評価］	**15**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えますが、個人の誹謗中傷に繋がるようなコメントはご遠慮下さい）】	

医薬品専門部会委員

部　会　長	山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
部会長代理	水野　　要	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	関　　篤史	UBS AG
	田中　　洋	みずほ証券
	鳥居　　彩	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	松原　弘幸	野村證券
	若尾　正示	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

評価実施アナリスト（37 名）

有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券
石田　優理子	みずほ証券
上村　悠	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大野　剛	丸三証券
岡崎　優	野村證券
加藤　杏奈	大和証券
鎌田　聡	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券
曲　　睿	大和証券
久保田　悟	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
久保山　浩之	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
高口　伸一	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
古西　正幸	第一生命保険
小林　守伸	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
齋藤　奈央子	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
芝野　正紘	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
関　篤史	UBS AG
高橋　豊	極東証券経済研究所
田中　洋	みずほ証券
鳥居　彩	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
中名生　正弘	ｼﾞｪﾌﾘｰｽﾞ証券会社
根本　隼	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
畑澤　巧	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
久田　有貴	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
藤原　重良	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
前田　晃太	野村證券
真下　弘司	QUICK
松川　正子	農林中金全共連ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
松原　弘幸	野村證券
水野　要	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
森　貴宏	野村證券
八並　純子	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
山口　秀丸	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
山﨑　みえ	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
横山　雄一	三菱 UFJ 信託銀行
吉田　正夫	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ
若尾　正示	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

鉄鋼・非鉄金属

1．評価対象企業（15 社）

【鉄鋼】（6 社）

日本製鉄、神戸製鋼所、JFE ホールディングス、東京製鐵、丸一鋼管、大同特殊鋼

【非鉄金属】（9 社）

日本軽金属ホールディングス、三井金属、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	3	15
③フェア・ディスクロージャー	**フェア・ディスクロージャー**	2	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	15
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 19 名（所属先 16 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、主に**経営陣の IR 姿勢等、説明会等**および **ESG 関連**の項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.2 点（昨年度 76.7 点）、総合評価点の標準偏差は 6.5 点（昨年度 5.9 点）となった。

② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（6 社）は 73.2 点（昨年度 77.4 点）となり、非鉄金属（9 社）は 73.1 点（昨年度 76.2 点）となった。評価対象企業 15 社のうち 12 社の総合評価点が下がった。

③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 72%（昨年度同率）、**説明会等**が 76%（昨年度 82%）、**フェア・ディスクロージャー**が 90%（昨年度 89%）、**ESG 関連**が 72%（昨年度 76%）、**自主的情報開示**が 71%（昨年度 78%）となった。

④ 評価項目について見ると、全 13 項目中、**フェア・ディスクロージャー**の中の 2 項目(a)・(b) が平均得点率 85%以上となり、高水準であった。また、**ESG 関連**の以下の項目（c）の平均得点率は 60%台となり、全項目の中で最も低くなった

(a)　「毎四半期決算において、英文の説明会資料を作成し開示していますか」（平均得点率 97%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：50%台 1 社・100% 14 社）

(b)　「決算説明会、事業説明会、工場見学会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、公平にウェブサイトに掲載していますか」（平均得点率 86%〔昨年度 84%〕）（得点率：40%台 1 社・70%台 1 社・80%台 2 社・90%台 11 社））

(c)　「社外取締役の対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率 60%〔昨年度 57%〕）（得点率：30%台 1 社・40%台 1 社・50%台 6 社・60%台 3 社・70%台 3 社・80%台 1 社）

(2)　**上位３企業の評価概要**

第 1 位　ＵＡＣＪ（ディスクロージャー優良企業〔3 回連続 3 回目〕、総合評価点 81.1 点〔昨年度比－5.6 点〕）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉83%）、**ESG 関連**（80%）が第 1 位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（96%）、**自主的情報開示**が第 5 位（79%）、**説明会等**が同得点第 7 位（78%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップによる積極的な IR 活動、特に IR Day の定期開催を通じて、トップの考えや会社方針を積極的に発信する透明性の高い姿勢や、企業価値向上および資本コストへの明確な意識を評価する声が寄せられた。また、「IR 部門の機能」も第 4 位となった。これに関連して、IR 部門に十分な人員が配置されていることに加え、イベントを含めて経営陣が積極的に IR 活動へ関与しており、IR 部門の重要性を認識した体制整備を評価する声があった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。

③　**説明会等**においては、「説明会資料等における実績および見通しの開示」が同得点第 4 位となった。「説明会、インタビューにおける開示」（2 項目計）は同得点第 6 位となった。これらに関連して、会社計画や海外事業に関する開示の充実を望む声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が満点評価（同得点第 1 位）となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、ESG 説明会や工場見学等の資料も開示し、質疑応答原稿も開示が早いとの声が寄せられた。

⑤　**ESG 関連**においては、「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」および「人的資本、サプライチェーンマネジメント、労働安全衛生、品質安全性、社会貢献に関する情報を定性・定量両面で開示していること。また、その対応方針を積極的に開示し、企業価値向上との関連性を説明していること」が共に同得点第 1 位となった。これらに関連して、サステナビリティ説明会において社長自らが出席し、ESG の取組みについて丁寧に説明していることに加え、企業価値向上を意識した ESG 経営を実践する経営姿勢を評価する声が寄せられた。また、社外取締役が登壇する ESG 説明会の実施を評価する声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「工場見学、事業説明会、技術説明会、供給制約等のリスク情報の迅速な開示等を実施し、かつその内容が充実していること」は第 5 位となった。充実していたイベントとして、IR Day や航空宇宙関連見学会などを挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　日本製鉄（総合評価点 78.1 点〔昨年度比－3.8 点〕、昨年度第 3 位）

①　同社は、**説明会等**（81%）、**ESG 関連**（77%）が同得点第 2 位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（96%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 5 位（76%）、**自主的情報開示**が第 6 位（75%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、開示内容や説明会資料が充実していることに加え、財務・非財務の双方に十分な人員が配置されていることがうかがえ、IR 担当者の高い情報水準や、IR 部門に対する十分な資源配分と体制整備を評価する声が寄せられた。また、「経営

陣のIR姿勢」（2項目計）は第7位となった。これに関連して、将来戦略を明確に語る姿勢や、社長スモールミーティングの実施など、投資家との対話を重視した積極的な情報発信を評価する声が寄せられた。なお、資本効率へのコミットメントの強化を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（2項目計）が最も高い評価となったほか、「説明会資料等における実績および見通しの開示」は同得点第4位となった。これらに関連して、説明会資料や説明内容が充実しており、分かりやすい情報提供を評価する声が寄せられた。また、企業分析に有益なコミュニケーションが行われていることを評価する声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が満点評価（同得点第1位）となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は同得点第3位となった。これらに関連して、説明会資料がホームページ上で閲覧可能であるなど、情報へのアクセス性に配慮した開示姿勢を評価する声があった。

⑤ **ESG関連**においては、「経営陣のESGに対する取組姿勢」が最も高い評価となった。「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」も同得点第1位となった。これらに関連して、革新技術開発をはじめとする社会課題解決に向けた積極的な投資・研究開発の取組について、ESG説明会などを通じて積極的に情報発信していることに加え、定量データの開示が充実している点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、事業説明会、技術説明会、供給制約等のリスク情報の迅速な開示等を実施し、かつその内容が充実していること」は第6位となった。充実していたイベントとして、九州製鉄所八幡地区見学会、ESG説明会を挙げる声が多く寄せられた。一方で、生産トラブルなど供給制約に関する開示には課題があるとの声があった。

第2位　丸一鋼管　（総合評価点78.1点〔昨年度比−0.9点〕、昨年度第6位）

① 同社は、**説明会等**が第1位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**（98%）、**自主的情報開示**（80%）が同得点第1位、**経営陣のIR姿勢等**が第3位（78%）、**ESG関連**が第8位（72%）となった。

② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」（2項目計）は第4位となった。これに関連して、経営トップが出席する各種説明会や工場見学会、スモールミーティング、海外拠点長説明会などを定期的に開催することで、投資家との対話機会を積極的に設け、企業価値向上への高い意識を持って情報発信している点を評価する声が寄せられた。また、「IR部門の機能」が同得点第5位となった。

③ **説明会等**においては、「説明会資料等における実績および見通しの開示」が最も高い評価となった。「説明会、インタビューにおける開示」（2項目計）は同得点第4位となった。これに関連して、企業分析に有用な数値情報の開示が充実しており、マクロ環境や個社施策に関する豊富な情報提供、継続的な定量データなど、分析に必要な情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が共に同得点第1位となった。これらに関連して、2025年秋の米国工場見学会の資料をホームページ上に迅速に開示するなど、タイムリーで公平な情報提供に努める姿勢を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG関連**においては、「経営陣のESGに対する取組姿勢」が第5位となった。「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」（同得点第7位）は、前回に比べ得点率が下がった。

⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、事業説明会、技術説明会、供給制約等のリスク情報の迅速な開示等を実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第1位となった。充実していたイベントとして、海外拠点長事業報告会、海外拠点の工場見学会、ESG説明会を挙げる声が寄せられた。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（鉄鋼・非鉄金属）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目3（配点 15点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 15点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5741　ＵＡＣＪ	81.1	28.9	1	11.7	7	4.8	3	23.9	1	11.8	5	1
2	5401　日本製鉄	78.1	26.7	5	12.1	2	4.8	3	23.2	2	11.3	6	3
2	5463　丸一鋼管	78.1	27.2	3	12.4	1	4.9	1	21.6	8	12.0	1	6
4	5706　三井金属	77.9	26.8	4	11.7	7	4.7	8	22.7	5	12.0	1	4
5	5713　住友金属鉱山	77.4	27.9	2	11.3	10	4.7	8	22.4	6	11.1	7	9
6	5406　神戸製鋼所	77.2	26.1	7	12.1	2	4.8	3	23.2	2	11.0	9	2
7	5471　大同特殊鋼	76.2	26.7	5	11.9	4	4.8	3	20.9	9	11.9	3	13
8	5411　ＪＦＥホールディングス	75.4	25.4	8	11.8	5	4.9	1	22.4	6	10.9	11	5
9	5711　三菱マテリアル	73.7	25.1	9	9.8	15	4.7	8	23.1	4	11.0	9	7
10	5703　日本軽金属ホールディングス	72.2	24.5	11	11.2	11	4.7	8	19.9	13	11.9	3	10
11	5802　住友電気工業	71.8	24.5	11	11.8	5	4.3	14	20.1	11	11.1	7	12
12	5714　DOWAホールディングス	71.7	25.1	9	11.5	9	4.5	12	20.0	12	10.6	12	11
13	5801　古河電気工業	68.4	23.4	13	10.3	13	4.8	3	20.4	10	9.5	13	14
14	5803　フジクラ	66.4	23.3	14	10.5	12	4.5	12	19.8	14	8.3	14	8
15	5423　東京製鐵	54.6	17.1	15	10.3	13	2.2	15	18.2	15	6.8	15	15
	評価対象企業評価平均点	73.15	25.15		11.35		4.52		21.46		10.67		

2026年度の具体的評価項目および配点　（鉄鋼・非鉄金属）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス　（35点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のIR姿勢		
①経営トップが企業価値向上（成長期待、資本効率、資本コスト）への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。一方、投資家の懸念（事業リスク等）を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**	
②経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示していますか。	**5**	
(2)IR部門の機能		
・経営トップがIR部門の重要性を認識し、十分な資源配分を行っていますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど） 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示　（15点）	**配点**	**委員のみ**
(1)説明会、インタビューにおける開示		
①決算説明会等における会社側の説明は十分ですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**	
②インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**	
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示		
・収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されており、かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	**5**	
3．フェア・ディスクロージャー　（5点）	**配点**	**委員のみ**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・毎四半期決算において、英文の説明会資料を作成し開示していますか。	**2**	●
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供		
・決算説明会、事業説明会、工場見学会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、公平にウェブサイトに掲載していますか。	**3**	
4．ESGに関連する情報の開示　（30点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のESGに対する取組姿勢		
・経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等で的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**	
(2)ESGに関する情報開示		
①脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	**5**	
②人的資本、サプライチェーンマネジメント、労働安全衛生、品質安全性、社会貢献に関する情報を定性・定量両面で開示していますか。また、その対応方針を積極的に開示し、企業価値向上との関連性を説明していますか。	**5**	
③社外取締役の対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	**5**	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示　（15点）	**配点**	**委員のみ**
・工場見学、事業説明会、技術説明会、供給制約等のリスク情報の迅速な開示等を実施し、かつその内容は充実していますか。［過去1年間を目安に評価］ 【充実していた工場見学や説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	**15**	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部　会　長	山口　　敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老　晴信	UBS 証券
	井上　　崇	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	尾崎　慎一郎	大和証券
	白川　　祐	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	竹元　宏和	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	松本　裕司	野村證券

評価実施アナリスト(19 名)

井上　崇	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	添谷　昌生	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩﨑　彰	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	竹元　宏和	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩崎　香織	野村證券	西脇　秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
尾崎　慎一郎	大和証券	新田　哲郎	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
菊崎　雄太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	畑澤　巧	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
幸地　竜希	三菱 UFJ 信託銀行	藤岡　哲也	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
五老　晴信	UBS 証券	松本　裕司	野村證券
齊藤　博之	水戸証券	南　純一	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
柴田　竜之介	SBI 証券	山口　敦	SMBC 日興証券
白川　祐	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

機　械

１．評価対象企業（19 社）

アマダ、ナブテスコ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、ダイフク、日本精工、THK、安川電機、マキタ、ファナック、三菱重工業、川崎重工業、ＩＨＩ

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	2	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	4	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	10
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	5	34
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	10
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 19 名(所属先 17 社)である。(氏名等は後掲)

３．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 当業種は、2025 年度の優良企業選定を休止し、本年度再開した。従って、本年度において比較参照する過去の数値は 2024 年度（以下「前回」という。）のものである。

本年度は、評価項目分野のうち、**説明会等、フェア･ディスクロージャー**および **ESG 関連**を中心に項目数・内容、配点を見直した。このため、前回と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.6 点（前回 70.2 点)、総合評価点の標準偏差は 6.9 点（前回 10.1 点）であった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 75%（前回 70%)、**説明会等**が 77%（前回 76%)、**フェア･ディスクロージャー**が 78%（前回 81%)、**ESG 関連**が 69%（前回 66%)、**自主的情報開示**が 73%（前回 67%）となった。

③ 評価項目について見ると、全 14 項目中、次の**フェア･ディスクロージャー**の中の「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」の平均得点率が 80%以上となり、高い水準となった。

・ 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか（会社にとって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む)」（平均得点率 82%〔前回同率〕）（得点率（評価点/配点〈以下省略〉）：60%台 1 社・70%台 3 社・80%台 13 社・90%台 2 社）

④ **ESG 関連**の 5 項目については、次のとおりとなった。なお、前回最も低い平均得点率であった(a)は、前回に比べ平均得点率が大きく改善したが、企業間の格差は依然として大きく、低水準の企業には改善努力を求めたい。

(a) 「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 66%〔前回 29%〕）（得点率：40%台 3 社・50%台 5 社・60%台 4 社・70%台 2 社・80%台 3 社・90%台 2 社）

(b) 「環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」（平均得点率 77%〔前回 74%〕）（得点率：70%台 14 社・80%台 5 社）

(c) 「社会貢献、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか」（平均得点率 68%〔前回 72%〕）（得点率：50%台 2 社・60%台 10 社・70%台 6 社・80%台 1 社）

(d) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、政策保有株式、役員報酬の算定方式等」（平均得点率 76%〔前回 74%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 13 社・80%台 4 社）

(e) 「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていますか」（平均得点率 66%〔前回 69%〕）（得点率：30%台 1 社・50%台 3 社・60%台 10 社・70%台 5 社）

(2) 上位３企業の評価概要

第 1 位　小松製作所　（ディスクロージャー優良企業〔14 回目〕、
総合評価点 84.1 点〔前回比－0.7 点〕、前回第 2 位〕）

① 同社は、**フェア･ディスクロージャー**（得点率〈以下省略〉87%）、**ESG 関連**（83%）、**自主的情報開示**（94%）が第 1 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（82%）、**説明会等**が同得点第 4 位（82%）となった。前回に比べて、自主的情報開示の得点率が大幅に改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 2 位となった。これに関連して、経営トップの企業価値向上に対する意識は高く、その実現に向けた経営方針を一貫して発信しているほか、資本コストを意識した経営や中期経営計画の進捗説明、財務戦略に関する情報発信が行われている点を評価する声が寄せられた。また、社長による四半期ごとの説明機会の提供や投資家ミーティングへの参加など、経営陣が積極的に IR 活動に関与している姿勢や開示内容の充実、投資家との対話に前向きに取り組む姿勢を評価する声があった。「IR 部門の機能」は同得点第 3 位となった。これに関連して、IR 部門には十分かつ正確な情報が集積されており、担当者へのアクセスのしやすさに加え、事業別・地域別・需要別の動向について有意義かつ深度のあるディスカッションが可能である点を評価する声が寄せられた。また、ESG 関連部門との連携を含めた高い対応力を評価する声があった。このほか、社長スモールミーティングや工場見学会などの積極的な IR 活動を評価する声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が第 2 位となった。これに関連して、決算説明会資料は、地域別建機需要や稼働時間、コンポーネント別動向、売上高・営業利益の増減要因分析、関税関連情報など、投資判断に必要な定量情報が網羅的かつ詳細に開示されており、事業環境に関する説明も充実している点を評価する声が寄せられた。また、必要な情報が適切に盛り込まれていることに加え、投資家のニーズを踏まえた情報の追加など、説明資料の完成度の高さを評価する声があった。また、「説明会における開示」（2 項目計）が第 5 位に、「インタビュー等における開示」が同得点第 6 位となった。これらに関連して、決算説明会やスモールミーティング、取材対応などを通じた開示の質は総じて高く、需要見通しや為替感応度に関する説明が丁寧で分かりやすいことに加え、投資家との対話に真摯に取り組む開示姿勢を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトにおける情報提供」が最も高い評価となったほか、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も第 2 位となり、共に高い評価となった。これらに関連して、説明会資料や質疑応答の内容について、日本語・英語の双方でタイムリーかつ充実した開示が行われているほか、Q&A スクリプトの内容も詳細で分かりやすく、フェア・ディスクロージャーへの配慮が十分になされている点を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、全 5 項目のうち 4 項目（資本政策等を除く）で最も高い評価（同得点第 1 位を含む）と

なった。これらに関連して、ESG に関する情報開示については、CO2 排出削減や電動化、人的資本への取り組みと企業価値向上との関連性が分かりやすく整理されている点を評価する声が寄せられた。「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていること」は第 2 位となった。これに関連して、資本政策や株主還元方針に関する説明が充実しており、ESG 情報開示全般の水準の高さを評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」は最も高い評価となった。これに関連して、事業説明会や技術説明会、工場見学会が継続的に開催されており、内容も充実しているほか、事業理解を深める有意義な機会の提供を評価する声が寄せられた。また、工場見学会を通じて生産体制や競争優位性への理解が深まった点を評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　荏原製作所　（総合評価点 82.5 点〔前回比－3.2 点〕、前回第 1 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 1 位（83%）、**説明会等**（84%）、**ESG 関連**（81%）が第 2 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 3 位（83%）、**自主的情報開示**が同得点第 3 位（84%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップ自らが IR 活動や投資家ミーティングに積極的に参加し、企業価値向上に対する高い意識のもと、成長、収益性、資本効率、ESG など幅広い観点からの経営施策や財務戦略について分かりやすく発信している点を評価する声が寄せられた。また、長期ビジョンに基づく経営方針の説明や資本効率を意識した経営への取り組み、決算説明会における明確で分かりやすいトップメッセージに加え、自社の課題についても適切に説明する姿勢を評価する声があった。「IR 部門の機能」は同得点第 7 位となった。これに関連して、IR 部門は担当者へのアクセスが容易で、質問への対応が丁寧かつ有益なディスカッションが可能であるほか、半導体やカーボンニュートラル関連を含む事業情報の集積が進んでいる点を評価する声が寄せられた。また、社長スモールミーティングや ESG 説明会などの積極的な IR 活動に加え、誠実な対応姿勢を評価する声があった。なお、事業ごとの定量情報や戦略に関する開示、SPE（半導体製造装置）に関する情報開示のさらなる充実を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が最も高い評価となった。これに関連して、決算説明会資料では、セグメント別の受注動向や採算状況に加え、営業利益の増減要因分析が詳細に整理されており、事業環境に関する説明も充実していることから、企業分析に有用な情報が網羅されている点を評価する声が寄せられた。また、投資家に必要な情報が継続的に追加されるなど、説明資料の分かりやすさや充実した情報開示を評価する声があった。「説明会における開示」（2 項目計）は同得点第 3 位、「インタビュー等における開示」は同得点第 6 位となった。これらに関連して、説明会やインタビューにおける対応は総じて良好であり、開示内容についても投資家との対話に前向きに取り組む姿勢を評価する声が寄せられた。なお、需要動向に関する地域別・用途別の内訳情報の充実や、定量的な情報の開示が難しい場合における現地の事業環境や市場動向に関する定性的な説明の充実、セグメント別の利益予想増減分析の開示を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となったほか、「ウェブサイトにおける情報提供」は第 12 位となった。これらに関連して、日本語・英語の双方でタイムリーな情報提供が行われている点を評価する声があった。また、Q&A スクリプトについても日英ともに充実した内容となっており、投資家への情報提供の充実度を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていること」が最も高い評価となったほか、「環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」も同得点 1 位となった。これらに関連して、ESG、人的資本、ガバナンスに関する情報開示の充実に加え、ESG や IR Day を通じた企業価値向上への取り組みや、自己資本水準を意識した資本政策、株主還元方針を詳細に開示している点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第 3 位となった。これに関連し、技術説明会や事業説明会を継続的に開催していることに加え、社長とのスモールミーティングなど投資家との対話機会を積極的に設けてい

る点を評価する声が寄せられた。

第 3 位　ダイキン工業　（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、
総合評価点 80.2 点〔前回比＋0.4 点〕、前回第 3 位〔前々回第 3 位〕）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 1 位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 2 位（85%）、**ESG 関連**が第 4 位（76%）、**説明会等**が同得点第 4 位（82%）、**自主的情報開示**が同得点第 7 位（79%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門は担当者へのアクセスが容易で、有意義なディスカッションが可能であるほか、対応の質・スピードともに高水準で、地域別需要や原材料価格、為替感応度に関する深い議論ができる点を評価する声が寄せられた。また、社長スモールミーティングや海外拠点訪問のアレンジなど、積極的な IR 活動と総じて高い IR のクオリティを評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 4 位となった。これに関連して、経営トップが長期成長戦略を一貫して発信し、グローバル展開や事業の独自性を軸とした成長戦略について分かりやすく説明しているほか、成長性に加えて資本効率や収益性の向上を重視した経営への転換を進めている点を評価する声が寄せられた。また、中期経営計画公表後の社長スモールミーティングをはじめ、経営トップの IR 活動への積極的な関与や、企業価値向上に向けた強い問題意識と取り組み姿勢を評価する声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会における開示」（2 項目計）および「インタビュー等における開示」が同得点第 3 位となった。これに関連して、決算説明会や取材対応における開示内容は総じて充実しており、厳しい事業環境下での需要見通しや価格戦略についても丁寧かつ説得力のある説明が行われている点を評価する声が寄せられた。また、地域別の事業環境に関する質問に対して詳細な説明がなされることに加え、IR 部門に社内情報が集約されており、取材時の回答が分かりやすい点を評価する声があった。「説明資料等における開示」は第 7 位であった。これに関連して、決算説明会資料では、セグメント別の利益増減分析に加え、地域別・製品別の需要動向や収益構造が分かりやすく整理されており、必要な情報が網羅された完成度の高い資料であることや、明快な戦略開示を評価する声が寄せられた。 また、事業環境に関する説明が充実しており、説明資料が必要十分かつ分かりやすい点を評価する声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「ウェブサイトにおける情報提供」が第 2 位、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は第 3 位となった。これらに関連して、説明会資料や質疑応答の内容について、日本語・英語の双方でタイムリーな情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。 また、Q&A スクリプトが日英ともに充実しており、投資家に対する公平かつ十分な情報開示への取り組みを評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「社会貢献、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が同得点第 2 位となったほか、「環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が第 3 位となった。これらに関連して、統合報告書やサステナビリティレポートにおいて、気候変動や人的資本に関する開示を拡充しているほか、省エネや冷媒関連の環境対応と企業価値向上との関連性を分かりやすく示している点を評価する声が寄せられた。また、サステナビリティ説明会を継続的に開催し、企業価値向上に向けた取り組みや資本政策について充実した説明を行っている点を評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」（同得点第 7 位）は、前回に比べ得点率が大幅に改善した。これに関連して、技術説明会や事業説明会を継続的に実施し、その内容も充実しているほか、化学事業に関するサステナビリティ説明会など、事業理解や企業価値向上への取り組みに関する情報提供を評価する声が寄せられた。

同社は、3 回連続して第 3 位の評価を受けたので、**「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」**に選定した。

(3)　**上記以外の企業についての特記事項**

○　ダイフク　（ディスクロージャーの改善が著しい企業、
総合評価点 76.8 点〔前回比＋7.7 点、前々回比＋8.5 点〕、第 5 位〔前回第 11 位、前々回第 14 位〕）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（85%）、**経営陣の IR 姿勢等**（80%）、**ESG 関連**（72%）が同得点第 5 位、**自主的情報開示**が第 11 位（75%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 16 位（72%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位となった。これに関連して、売上成長や収益性向上、資本効率、ESG、IR など多面的な視点から企業価値向上に向けた施策を示しているほか、中期経営計画に基づく成長戦略や財務戦略について分かりやすく説明している点を評価する声が寄せられた。 また、経営トップが株式市場に対して明確なメッセージを発信するとともに、自ら投資家ミーティングに参加するなど、資本効率や企業価値向上への意識の高まりと IR 活動への積極的な関与を評価する声があった。また、「IR 部門の機能」は第 6 位となった。これに関連して、IR 部門は誠実な対応を通じて担当者との有意義なディスカッションが可能であり、受注動向や需要動向に関する情報が十分に集積されているほか、半導体や EC 物流など分野別の深い議論ができる点を評価する声が寄せられた。また、担当者へのアクセスのしやすさに加え、取材時の説明が分かりやすく、近年は定量情報の開示も充実している点を評価する声があった。

③ **説明会等**においては、「説明会における開示」（2 項目計）が最も高い評価となったほか、「インタビュー等における開示」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、説明会や取材対応は総じて良好であり、IR 担当者に社内情報が集約されていることから、取材時に分かりやすく的確な説明が行われている点を評価する声が寄せられた。「説明資料等における開示」は同得点第 7 位であった。これに関連して、決算説明会資料では、セグメント別・地域別の受注や売上、事業別の受注残や採算、分野別の実績・計画数値などが整理されており、分析に有用な情報が充実している点を評価する声が寄せられた。また、利益率をはじめとする開示情報の充実や、必要十分な情報を分かりやすくまとめた説明資料である点を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 11 位、「ウェブサイトにおける情報提供」は第 17 位となった。これらに関して、日本語・英語の双方でタイムリーな情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。なお、Web サイト上での情報開示についてさらなる充実を望む声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「ESG 関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」（第 6 位）の得点率が前回に比べ著しく改善した。「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていること。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていること」が第 5 位、「社会貢献、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していること。また、企業価値向上との関連性を説明していること」が第 6 位となった。これらに関連して、ESG、ガバナンス、人的資本に関する情報開示を着実に拡充しているほか、ESG や IR Day を通じた企業価値向上への取り組みや、ROE を意識した資本政策を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A 説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していること」は第 11 位となった。これに関して、事業説明会や技術説明会など、自主的な情報開示を継続的に実施している点を評価する声が寄せられた。また、工場見学会の開催を通じて事業理解を深める機会を提供しており、滋賀工場見学会が有益であった点を評価する声があった。なお、会社主催による事業見学会のさらなる開催を望む声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、**「ディスクロージャーの改善が著しい企業」**に選定した。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（機械）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目2（配点 26点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 10点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目5（配点 34点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6301 小松製作所	84.1	21.4	3	16.4	4	8.7	1	28.2	1	9.4	1	2
2	6361 荏原製作所	82.5	21.5	1	16.7	2	8.3	3	27.6	2	8.4	3	1
3	6367 ダイキン工業	80.2	21.5	1	16.4	4	8.5	2	25.9	4	7.9	7	3
4	6370 栗田工業	79.3	20.9	4	16.3	6	7.8	10	26.7	3	7.6	10	7
5	6383 ダイフク	76.8	20.7	5	16.9	1	7.2	16	24.5	5	7.5	11	11
6	6506 安川電機	76.7	19.8	11	16.5	3	7.8	10	24.5	5	8.1	5	4
7	6305 日立建機	76.3	20.4	7	15.3	11	8.2	5	24.0	7	8.4	3	6
8	7011 三菱重工業	76.2	20.0	10	15.6	8	8.1	7	23.8	9	8.7	2	8
8	7012 川崎重工業	76.2	20.7	5	15.5	9	8.0	8	24.0	7	8.0	6	5
10	6326 クボタ	74.2	20.3	8	15.5	9	7.7	13	23.3	10	7.4	12	10
11	7013 IHI	73.8	20.2	9	16.0	7	7.3	15	22.4	14	7.9	7	12
12	6268 ナブテスコ	69.6	18.0	16	14.1	15	8.2	5	23.1	11	6.2	13	15
13	6302 住友重機械工業	69.5	19.1	14	13.6	18	8.0	8	20.9	16	7.9	7	14
14	6586 マキタ	68.7	19.4	13	15.1	13	6.8	19	22.0	15	5.4	16	17
15	6481 THK	68.2	19.1	14	14.2	14	7.1	17	23.0	12	4.8	18	18
16	6113 アマダ	68.0	19.5	12	15.2	12	7.4	14	20.8	17	5.1	17	9
17	6471 日本精工	67.5	16.9	17	13.7	17	8.3	3	22.6	13	6.0	14	13
18	6273 SMC	60.0	15.8	18	13.8	16	7.8	10	17.9	19	4.7	19	16
19	6954 ファナック	58.8	13.7	19	11.8	19	7.0	18	20.4	18	5.9	15	19
	評価対象企業評価平均点	73.58	19.56		15.31		7.81		23.62		7.28		

2026年度評価項目および配点（機械）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上（成長期待、資本効率、資本コスト）への意識を高め、経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**13**
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、アクセスも容易で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、他部門（ESG関連部門など）と連携をとっていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**13**
2．説明会、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	**5**
②決算説明会において、今後の方向性を具体的に十分説明していますか。	**5**
(2)説明資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅され、ポイントが簡潔にまとめられていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
(3)インタビュー等における開示	
インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	**5**
3．フェア・ディスクロージャー（10点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。（会社とって都合が悪い情報、メディアへの対応を含む）	**5**
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	**5**
4．ESGに関連する情報の開示（34点）	**配点**
①ESG関連の説明会の開催や、社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**5**
②環境に関する取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	**5**
③社会貢献、人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）、人権リスク等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。また、企業価値向上との関連性を説明していますか。	**8**
④コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、政策保有株式、役員報酬の算定方式等。	**5**
⑤資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策が十分に説明されていますか。例えば、現預金を投資等に有効活用できているかの説明責任を果たしていますか。	**11**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	**配点**
・会社主催の事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会、M&A説明会、工場見学等を実施し、かつその内容が充実していますか。[過去１年間を目安に評価]	**10**

機械専門部会委員

部　会　長	田井　宏介	大和証券
部会長代理	下森　浩	三菱 UFJ 信託銀行
	澤田　智博	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	清水　俊宏	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
	前川　健太郎	野村證券
	宮崎　孝志	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（19 名）

石田　重和	丸三証券	田村　真一	極東証券経済研究所
井上　昂洋	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券	長井　惇朗	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大平　光行	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ	野口　昌泰	SBI 証券
児玉　芳明	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	柊　宏二	QUICK
澤田　智博	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	前川　健太郎	野村證券
下森　浩	三菱 UFJ 信託銀行	ｸﾞﾚｰﾑ ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞ	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
清水　俊宏	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	南　純一	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
田井　宏介	大和証券	宮崎　孝志	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
谷中　聡	SMBC 日興証券	渡辺　洋一郎	水戸証券
谷林　正行	QUICK		

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

電気･精密機器

1．評価対象企業（23 社）

【産業･民生エレクトロニクス部門】（9 社）

日立製作所、三菱電機、富士電機、オムロン、日本電気、富士通、ルネサスエレクトロニクス、パナソニックホールディングス、ソニーグループ

【電子部品部門】（7 社）

イビデン（新規）、ミネベアミツミ、TDK、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】（7 社）

セイコーエプソン、アドバンテスト、レーザーテック、HOYA、キャノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	2	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	4	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	10
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 69 名（所属先 31 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、新規に企業を加えたほか、**経営陣の IR 姿勢等**および **ESG 関連**を中心に項目数・内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 76.7 点（昨年度 74.1 点）、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 6.4 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、産業・民生エレクトロニクス部門（9 社）が 79.6 点（昨年度 75.6 点）、電子部品部門（7 社）が 77.1 点（昨年度 74.0 点）、精密機器部門（7 社）が 72.3 点（昨年度同点）となった。

③　5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が79%（昨年度73%）、**説明会等**が78%（昨年度75%）、**フェア･ディスクロージャー**が86%（昨年度85%）、**ESG関連**が76%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が64%（昨年度66%）となった。

④　評価項目について見ると、全12項目のうち、次の**経営陣のIR姿勢等**（a）、**説明会等**（b）、**フェア･ディスクロージャー**（c）および**ESG関連**(d)(e)の計5項目が80%以上の平均得点率となり、高水準であった。

(a)「経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか」（平均得点率80%〔新規項目〕）（得点率（評価点/配点〈以下省略〉）：50%台 1社・60%台 1社・70%台 9社・80%台 11社・90%台 1社）

(b)「決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか」（平均得点率80%〔昨年度77%〕）（得点率：60%台3社・70%台7社・80%台11社・90%台2社）

(c)「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示が行われましたか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率86%〔昨年度85%〕）（得点率：70%台 4社・80%台 12社・90%台 7社）

(d)「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか」（平均得点率86%〔昨年度83%〕）（得点率：70%台2社・80%台13社・90%台8社）

(e)「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、株主還元策が十分に説明されていますか」（平均得点率80%〔昨年度76%〕）（得点率：60%台2社・70%台7社・80%台12社・90%台2社）

⑤　一方、次の**ESG関連**（a）および**自主的情報開示**（b）の項目は平均得点率が60%台以下となり、（a）は全項目中で最も低い水準であった。

(a)「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率55%〔昨年度60%〕）（得点率：30%台 1社・40%台 6社・50%台 11社・60%台 3社・70%台 1社・80%台 1社）

(b)「ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率64%〔昨年度66%〕）（得点率：30%台2社・40%台3社・50%台3社・60%台8社・70%台3社・80%台4社）

(2) 全体の上位３企業の評価概要

第１位　ミネベアミツミ（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点85.7点〔昨年度比＋4.7点〕、昨年度第３位）

①　同社は、**説明会等**（得点率〈以下省略〉91%）、**自主的情報開示**（89%）が第1位、**ESG関連**が第3位（83%）、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第7位（84%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第8位（88%）となった。昨年度に比べて、**自主的情報開示**の得点率が著しく改善したほか、**説明会等**の得点率も大きく改善した。

②　**経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門の機能、基本スタンス」が第5位となった。これに関連して、投資家の関心事項を的確に把握しながら継続的な改善を重ね、社内情報の集約や豊富な定量開示を通じて有益な対話を実現しているなど、優れたIR体制を評価する声が寄せられた。なお、IR部門のフェア・ディスクロージャーに対する意識や取り組みの更なる向上を望む声もあった。また、「経営陣のIR姿勢」は同得点第7位となった。これに関連して、会長・社長が四半期決算説明会やセルサイド向け取材に継続的に参加するなど、経営トップがIR活動に積極的に関与している点や、経営陣の企業価値・株価に対する意識の高さを評価する声があった。なお、CEOとCOOのIR活動における役割分担の明確化を望む声もあった。

③　**説明会等**においては、昨年度に比べ4項目全ての得点率が大きくに改善し、いずれも最も高い評価（同得点第1位を含む）となった。これらに関連して、決算説明会資料はポイントが簡潔に整理されており、定量情報の開示も充実しているため、内容を理解しやすいとの声が寄せられた。また、投資家の意見を反映して開示内

容を改善する努力をしているとの声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、同得点第 8 位（昨年度同得点第 1 位）となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」が昨年度に比べ得点率が改善し、同得点第 1 位（昨年度第 6 位）となったほか、「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が第 2 位となった。これらに関連して、社外取締役と投資家とのスモールミーティングにおいて、毎年有意義な意見交換が行われている点を評価する声が寄せられた。

⑥　**自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は昨年度に比べ得点率が著しく改善し、最も高い評価（昨年度 14 位）となった。有益なイベントとして、IR Day や千歳工場見学会（アナログ半導体事業説明会）などを挙げる声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　ＴＤＫ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、
総合評価点 84.7 点〔昨年度比＋6.1 点、一昨年度比＋6.9 点〕、昨年度第 6 位〔一昨年度第 10 位〕）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（89%）、**ESG 関連**が第 2 位（85%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 2 位（92%）、**説明会等**が同得点第 6 位（84%）、**自主的情報開示**が同得点第 8 位（69%）となった。昨年度に比べて、5 分野のうち 4 分野において得点率が改善し、なかでも**経営陣の IR 姿勢等**では大幅な改善がみられた。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、社長をはじめとする経営陣が IR 活動に積極的に関与し、決算説明会に加えて事業説明会、マネジメントミーティング、Investor Day、社外取締役とのミーティングなどを通じて、経営方針や事業戦略を丁寧に説明している点を評価する声が寄せられた。このほか、株式市場が注目するテーマについて網羅的な説明を行うとともに、事業ごとの状況に関する対話を重視する姿勢や、ミーティング頻度の増加により会社の変化が分かりやすくなった点を評価する声があった。また、「IR 部門の機能、基本的スタンス」は同得点第 2 位となった。これに関連して、IR 部門との対話は十分に行うことができ、フェア・ディスクロージャーの遵守が他社に比べて優れている点を評価する声が寄せられた。なお、中長期的な成長性に関する議論を深めるための情報拡充や、事業部門との連携を強化し、IR 部門への情報集約・提供体制をさらに充実させることを望む声もあった。

③　**説明会等**においては、「説明会における開示」（2 項目計）が同得点第 5 位、「インタビュー等における開示」が同得点第 6 位、「説明会資料等における開示」が同得点第 7 位となった。これらに関連して、決算説明会におけるプレゼンテーションや補足資料の開示内容は概ね網羅されている点を評価する声が寄せられた。なお、図表形式で整理したデータ資料の充実や、各セグメント数値のさらなる開示を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 2 位（昨年度同得点第 12 位）となった。これに関連して、重要な情報は適時かつ公平に開示されており、フェア・ディスクロージャーが適切に実践されていることを評価する声が寄せられた。

⑤　**ESG 関連**においては、「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が昨年度に比べ大きく改善し、最も高い評価（昨年度同得点第 2 位）となった。これに関連して、社外取締役とのミーティングが有意義であり、投資家との対話の機会として機能している点を評価する声があった。また、「気候変動問題に関する開示」および「経営戦略と関連付けた人的資本に関する開示等」は、共に同得点第 3 位となった。

⑥　**自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含め

たIR活動が実施され、その内容は有益であること」は同得点第8位となった。有益なイベントとして、Investor Dayや事業説明会を挙げる声が寄せられた。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、**「ディスクロージャーの改善が著しい企業」**に選定した。

第3位　日立製作所　（総合評価点84.3点〔昨年度比＋1.3点〕、昨年度第1位）

① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（94%）、**ESG関連**（85%）が第1位、**自主的情報開示**が第2位（82%）、**説明会等**が同得点第6位（84%）、**経営陣のIR姿勢等**が第9位（83%）となった。昨年度に比べて、5分野のうち4分野において得点率が改善した。

② **経営陣のIR姿勢等**においては、「IR部門の機能、基本的スタンス」同得点第5位となった。これに関連して、IR部門の人数が多く担当者の説明能力も高いため、有益なディスカッションが可能であり、定量情報の継続的な開示や開示内容の高いクオリティを評価する声が寄せられた。なお、GlobalLogicやストレージ事業など一部事業に関する情報開示の継続性・一貫性の向上や、個別事業のキャパシティなどの情報拡充、事業領域の広さを踏まえたより効率的で網羅的な説明を望む声もあった。また、「経営陣のIR姿勢」は同得点第10位となった。これに関連して、Investor Dayや四半期決算説明会を継続的に開催し、経営陣や各セクターのトップが経営方針や中長期ビジョンを丁寧に説明していることに加え、投資家の意見を柔軟に経営計画や情報発信に取り入れる姿勢を評価する声が寄せられた。なお、経営陣や事業責任者と投資家との対話機会の充実を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会資料等における開示」が同得点第3位となった。これに関連して、補足資料には必要かつ十分な情報が網羅されており、多数の事業を有する中でもポイントが分かりやすく整理されていることに加え、四半期ごとの詳細な補足データ開示が充実している点を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は最も高い評価（昨年度同得点第3位）となった。これに関連して、適時適切な開示に加え、英語対応やメール配信など、投資家向け情報提供の充実した体制を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG関連**においては、「気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していること」および「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、株主還元策が十分に説明されていること」が共に同得点第1位となった。これらに関連して、キャピタルアロケーションの基本方針が明確に示されていることを評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会を含めたIR活動が実施され、その内容は有益であること」は第2位となった。有益なイベントとして、Investor DayやPhysical AI Dayなどを挙げる声が寄せられた。

（参考）　部門別の第1位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

日立製作所（総合評価点84.3点、全体第3位）

【電子部品部門】

ミネベアミツミ（総合評価点85.7点、全体第1位）

【精密機器部門】

東京エレクトロン（総合評価点82.7点、全体第4位）

(3)　**上記以外の企業についての特記事項**

○　三菱電機　（ディスクロージャーの改善が著しい企業、
総合評価点 82.4 点〔昨年度比＋6.5 点、一昨年度比＋6.8 点〕、第 5 位〔昨年度第 11 位、一昨年度第 14 位〕）

① 同社は、**自主的情報開示**が 4 位（80%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 6 位（84%）、**説明会等**（84%）、**ESG 関連**（80%）が同得点第 6 位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 8 位（88%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本的スタンス」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 5 位（昨年度同得点第 13 位）となった。これに関連して、IR 部門には必要な情報が十分に集約されており、担当者の説明能力も高く、アナリストとの有益なディスカッションが可能である点を評価する声が寄せられた。また、定量情報やサブセグメント情報の継続的な開示にも配慮がみられ、経営分析に資する情報提供が行われているとの声があった。なお、一部項目の情報更新や詳細な内訳情報、利益変動要因に関する定量的な開示については、さらなる充実を望む声もあった。また、「経営陣の IR 姿勢」が第 6 位となった。これに関連して、経営陣は企業価値向上や株価を強く意識し、IR Day や決算説明会をはじめ、CEO・CFO や各事業責任者が資本市場との対話に積極的に関与しているとの声が寄せられた。また、経営方針や事業戦略、資本効率向上に向けた取り組みについて継続的かつ丁寧な説明を行うとともに、投資家との対話機会も豊富であり、市場の視点を経営活動に反映する姿勢を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「インタビュー等における開示」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 4 位（昨年度同得点第 14 位）となったほか、「説明会資料等における開示」も同様に大きく改善し、同得点第 5 位（昨年度同得点第 9 位）となった。これらに関連して、決算説明会資料や補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されており、多岐にわたる事業についてもポイントが分かりやすく整理されている点を評価する声が寄せられた。また、サブセグメントレベルまで踏み込んだ情報開示など、情報開示に前向きな姿勢を評価する声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示を行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 8 位（昨年度同得点第 16 位）となった。これに関連して、適時適切な情報開示や英語での情報提供が十分に行われている点を評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」が第 4 位となった。これに関連して、社外取締役と株式市場との理解促進に向けた取組みのさらなる充実を望む声があった。また、「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、株主還元策が十分に説明されていること」は、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 7 位（昨年度同得点第 12 位）となった。これに関連して、キャピタルアロケーションは具体的な数値を伴って示されており、方針が明快で理解しやすいとの声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会を含めた IR 活動が実施され、その内容は有益であること」は第 4 位となった。有益なイベントとして、IR Day を挙げる声が多く寄せられたほか、高周波光デバイス製作所・工場の見学会を挙げる声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、**「ディスクロージャーの改善が著しい企業」**に選定した。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（電気・精密機器：全体）

（単位：点）

順位	評価項目 ／ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス　評価項目2（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示　評価項目4（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー　評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示　評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示　評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6479　ミネベアミツミ	85.7	29.3	7	18.2	1	4.4	8	24.9	3	8.9	1	3
2	6762　TDK	84.7	31.1	1	16.7	6	4.6	2	25.4	2	6.9	8	6
3	6501　日立製作所	84.3	29.1	9	16.7	6	4.7	1	25.6	1	8.2	2	1
4	8035　東京エレクトロン	82.7	30.5	2	17.4	2	4.5	4	23.4	9	6.9	8	4
5	6503　三菱電機	82.4	29.4	6	16.7	6	4.4	8	23.9	6	8.0	4	11
6	6758　ソニーグループ	80.9	29.6	4	16.6	9	4.3	11	24.6	4	5.8	16	5
7	6702　富士通	80.8	29.0	10	15.1	15	4.4	8	24.2	5	8.1	3	9
8	6981　村田製作所	80.4	29.3	7	17.1	3	4.5	4	23.3	10	6.2	13	8
9	6857　アドバンテスト	79.6	29.5	5	16.0	12	4.5	4	23.5	8	6.1	14	10
10	6752　パナソニック ホールディングス	79.2	28.1	11	15.8	13	4.5	4	23.1	11	7.7	5	15
11	6645　オムロン	78.6	27.6	13	15.4	14	4.2	16	23.9	6	7.5	7	7
12	7741　HOYA	77.5	30.2	3	16.9	4	4.6	2	22.2	15	3.6	23	12
13	6701　日本電気	76.7	28.1	11	14.6	17	4.3	11	22.0	17	7.7	5	14
14	6504　富士電機	75.9	26.9	16	16.1	11	4.3	11	22.1	16	6.5	11	16
15	4062　イビデン	75.4	27.4	14	16.8	5	4.3	11	22.8	12	4.1	21	―
16	6723　ルネサス エレクトロニクス	74.9	26.8	17	16.2	10	3.9	20	21.2	18	6.8	10	20
17	6963　ローム	72.8	27.0	15	14.8	16	4.2	16	22.4	13	4.4	19	21
18	6971　京セラ	69.0	24.4	20	14.1	18	4.3	11	22.3	14	3.9	22	22
19	7752　リコー	67.5	24.9	18	13.4	21	3.8	23	20.1	20	5.3	17	18
20	6988　日東電工	67.4	24.4	20	13.5	20	3.9	20	19.6	21	6.0	15	―
21	6724　セイコーエプソン	65.6	22.8	22	13.4	21	4.1	18	20.9	19	4.4	19	17
22	7751　キヤノン	65.3	21.8	23	13.9	19	4.0	19	19.3	22	6.3	12	19
23	6920　レーザーテック	64.6	24.5	19	12.7	23	3.9	20	18.4	23	5.1	18	23
	評価対象企業評価平均点	76.72	27.65		15.64		4.31		22.70		6.42		

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（産業・民生エレクトロニクス部門）

（単位:点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目2（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6501　日立製作所	84.3	29.1	3	16.7	1	4.7	1	25.6	1	8.2	1	1
2	6503　三菱電機	82.4	29.4	2	16.7	1	4.4	3	23.9	4	8.0	3	5
3	6758　ソニーグループ	80.9	29.6	1	16.6	3	4.3	5	24.6	2	5.8	9	2
4	6702　富士通	80.8	29.0	4	15.1	8	4.4	3	24.2	3	8.1	2	4
5	6752　パナソニック ホールディングス	79.2	28.1	5	15.8	6	4.5	2	23.1	6	7.7	4	7
6	6645　オムロン	78.6	27.6	7	15.4	7	4.2	8	23.9	4	7.5	6	3
7	6701　日本電気	76.7	28.1	5	14.6	9	4.3	5	22.0	8	7.7	4	6
8	6504　富士電機	75.9	26.9	8	16.1	5	4.3	5	22.1	7	6.5	8	8
9	6723　ルネサス エレクトロニクス	74.9	26.8	9	16.2	4	3.9	9	21.2	9	6.8	7	9
	評価対象企業評価平均点	79.60	28.35		15.97		4.36		23.47		7.45		

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目2（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6479　ミネベアミツミ	85.7	29.3	2	18.2	1	4.4	3	24.9	2	8.9	1	1
2	6762　TDK	84.7	31.1	1	16.7	4	4.6	1	25.4	1	6.9	2	2
3	6981　村田製作所	80.4	29.3	2	17.1	2	4.5	2	23.3	3	6.2	3	3
4	4062　イビデン	75.4	27.4	4	16.8	3	4.3	4	22.8	4	4.1	6	－
5	6963　ローム	72.8	27.0	5	14.8	5	4.2	6	22.4	5	4.4	5	5
6	6971　京セラ	69.0	24.4	6	14.1	6	4.3	4	22.3	6	3.9	7	6
7	6988　日東電工	67.4	24.4	6	13.5	7	3.9	7	19.6	7	6.0	4	－
	評価対象企業評価平均点	77.06	27.85		15.98		4.34		23.12		5.77		

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（精密機器部門）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目2（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8035　東京エレクトロン	82.7	30.5	1	17.4	1	4.5	2	23.4	2	6.9	1	2
2	6857　アドバンテスト	79.6	29.5	3	16.0	3	4.5	2	23.5	1	6.1	3	3
3	7741　HOYA	77.5	30.2	2	16.9	2	4.6	1	22.2	3	3.6	7	4
4	7752　リコー	67.5	24.9	4	13.4	5	3.8	7	20.1	5	5.3	4	6
5	6724　セイコーエプソン	65.6	22.8	6	13.4	5	4.1	4	20.9	4	4.4	6	5
6	7751　キヤノン	65.3	21.8	7	13.9	4	4.0	5	19.3	6	6.3	2	7
7	6920　レーザーテック	64.6	24.5	5	12.7	7	3.9	6	18.4	7	5.1	5	8
	評価対象企業評価平均点	72.33	26.48		14.92		4.22		21.18		5.53		

2026年度の具体的評価項目および配点（電気・精密機器）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**20**
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	**5**
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	**5**
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅され、ポイントが簡潔にまとめられていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって、十分に説明されていますか。	**5**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。仮に、不祥事が発生した場合に、迅速かつ適切な開示が行われましたか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	**5**
【フェア・ディスクロージャーに関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
4．ESGに関連する情報の開示（30点）	**配点**
①気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標などを定性・定量両面で開示していますか。	**4**
②経営戦略と関連付けた人的資本に関する開示（従業員エンゲージメント、従業員給与等の決定方針、ダイバーシティなどを含む）および、サプライチェーン上の人権リスクに関する開示が適切に行われていますか。	**8**
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、株主還元策が十分に説明されていますか。	**12**
④社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**6**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	**配点**
・ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・Ｍ＆Ａ説明会を含めたIR活動が実施され、その内容は有益でしたか。　（前年7月から本年6月までの間） 【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	**10**

電気・精密機器専門部会委員

部　会　長	佐渡　拓実	大和証券
部会長代理	桂　　竜輔	SMBC 日興証券
	綾田　純也	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	片山　智宏	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	芝野　正紘	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
	田中　健士	みずほ証券
	馮　　逸春	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（69 名）

秋月　学	野村證券
浅野　謙人	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
綾田　純也	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券
井澤　宏之	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
板倉　充知	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
伊藤　健悟	QUICK
井上　昂洋	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
今津　拓洋	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
浦　昌平	ｱﾑﾝﾃﾞｨ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ
大川　淳士	大和証券
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大場　剛平	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大牧　実慶	立花証券
大山　光司	第一生命保険
岡崎　優	野村證券
岡田　真一	三菱 UFJ 信託銀行
小野　まな実	三菱 UFJ 信託銀行
片山　智宏	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
桂　竜輔	SMBC 日興証券
上辻　敦生	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券
久保田　悟	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
黒木　文明	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
児玉　芳明	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
古西　正幸	第一生命保険
小林　守伸	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
斉田　健一	みずほ証券
桜井　雄太	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐渡　拓実	大和証券
鹿内　美欧	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
芝野　正紘	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
銭　　洋	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
高橋　豊	極東証券経済研究所
高山　理璃子	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
田中　健士	みずほ証券
谷林　正行	QUICK
竹間　雅子	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
坪井　暁	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
富田　展昭	極東証券経済研究所
中名生　正弘	ｼﾞｪﾌﾘｰｽﾞ証券会社
滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
西平　孝	岡三証券
西村　美香	岡三証券
根岸　慎太郎	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
根本　隼	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
花屋　武	SMBC 日興証券
原島　草太	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
番　大輝	野村證券
馮　逸春	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
藤原　重良	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
藤原　毅郎	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
堀　雄介	みずほ証券
松浦　勇佑	丸三証券
皆川　明伽	丸三証券
宮崎　孝志	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
宮原　秀和	丸三証券
百田　史哉	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
八木原　謙一	第一生命保険
安田　秀樹	東洋ﾘｻｰﾁｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
山崎　雅也	野村證券
山﨑　みえ	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
山科　拓	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
山田　幹也	みずほ証券
山本　真以人	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
横山　雄一	三菱 UFJ 信託銀行
吉岡　篤	野村證券
渡辺　洋一郎	水戸証券
渡部　貴人	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

自動車･同部品･タイヤ

1．評価対象企業（20 社）

【自動車メーカー】（9 社）

日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、三菱自動車工業、マツダ、本田技研工業、スズキ、SUBARU、ヤマハ発動機

【自動車部品メーカー】（7 社）

トヨタ紡織、デンソー、スタンレー電気、アイシン、小糸製作所、豊田合成、ニフコ

【タイヤメーカー】（4 社）

横浜ゴム、TOYO TIRE、ブリヂストン、住友ゴム工業

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	15
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	3	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	20
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 24 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等、説明会等**および**ESG 関連**の項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.2 点（昨年度 66.1 点）、総合評価点の標準偏差は 5.1 点（昨年度 7.4 点）であった。

② 業態別の総合評価平均点を比較すると、高得点順に、タイヤメーカー（4 社）71.7 点（昨年度 72.8 点）、自動車メーカー（9 社）67.5 点（昨年度 65.7 点）、自動車部品メーカー（7 社）64.3 点（昨年度 63.3 点）となり、自動車メーカーが総合評価平均点を伸ばした。個社で見ると、日産自動車（＋6.8 点）、横浜ゴム（＋5.3 点）の総合評価点の上昇が目立った。

③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 66%（昨年度 67%）、**説明会等**が 71%（昨年度 66%）、**フェア･ディスクロージャー**が 75%（昨年度 79%）、**ESG 関連**が 65%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が 67%（昨年度 65%）となった。

④ 評価項目（全 11 項目）について見ると、80%以上となったものはなく、次の**フェア･ディスクロージャー**の項目が最も高い水準となった。

・「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか」（平均得点率 75%〔昨年度 79%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：50%台 1 社・60%台 3 社・70%台 11 社・80%台 5 社）

⑤ **ESG 関連**の 3 項目は次のとおりとなった。このうち、(b)の平均得点率は、全 11 項目中で最も低い水準となり、評価対象企業間の得点差が大きかった。

(a)「環境負荷低減に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。また、その進捗状況、成果が十分説明されていますか」（平均得点率 69%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 13 社・70%台 5 社・80%台 1 社）

(b)「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか」（平均得点率 60%〔新規項目〕）（得点率：40%台 1 社・50%台 14 社・60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 2 社）

(c)「人的資本に関する情報（人材戦略や給与の決定方針など）、および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的･積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか」（平均得点率 69%〔昨年度同率〕）（得点率：60%台 8 社・70%台 11 社・80%台 1 社）

(2) 上位３企業の評価概要

第 1 位　横浜ゴム（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 79.3 点〔昨年度比＋5.3 点〕、昨年度第 4 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉79%）、**説明会等**（86%）、**自主的情報開示**（84%）が第 1 位、**ESG 関連**が第 3 位（73%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 11 位（74%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」2 項目のうち、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションを行うこと。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」は、昨年度に比べ得点率が大幅に改善し、最も高い評価となった。また、「経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示すこと」も第 2 位と高い評価となった。この結果、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）でも最も高い評価となった。なお、「IR 部門の機能」は同得点第 5 位であった。これらに関連して CEO、COO、CFO がそれぞれ登壇する機会を設けるなど、経営陣が IR 活動や投資家とのディスカッションに積極的に取り組み、企業価値向上に対する高い意識を持っていることを評価する声があった。また、分かりやすく継続的に改善されるメッセージ発信や IR 体制の強化を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」および「インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていること」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、説明会、インタビュー、説明資料等において定量データの開示が充実しており、投資判断や企業分析に有用な情報提供が行われている点を評価する声があった。また、情報開示が既に充実しているうえ、投資家のニーズを汲み取り、さらに改善を進めていることを評価する声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第 11 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が同得点第 1 位となった。これに関連して、社外取締役を対象としたスモール

ミーティングの開催を通じて、ガバナンスに関する理解を深める機会を積極的に提供している点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**においては、「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」および「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は、共に昨年度に比べて得点率が改善し、最も高い評価となった。これらに関連して、中期経営計画目標も外部環境や進捗に応じて柔軟にアップデートされていることを評価する声があった。有益なイベントとして、原材料調達説明会や社外取締役スモールミーティング等を挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第２位　いすゞ自動車　（ディスクロージャーの改善が著しい企業、
総合評価点 74.3 点〔昨年度比＋3.5 点、一昨年度比＋7.5〕、昨年度第６位〔一昨年度第 11 位〕）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（78%）、**説明会等**（81%）が第２位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第３位（82%）、**自主的情報開示**が第４位（74%）、**ESG 関連**が同得点第 11 位（64%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」２項目のうち、「経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示すこと」が最も高い評価となった。また、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションを行うこと。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」は、昨年度に比べ得点率が大幅に改善し、第２位となった。この結果、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）では第２位となった。このほか、「IR 部門の機能」は最も高い評価となった。これらに関連して、CFO が頻度高く取材に出席し直接対話できることや、経営陣が IR を重視し株式市場の要望を意識した ROE･資本政策などの KPI を掲げていることに加え､IR 部門と経営陣の距離が近く、丁寧かつ質の高い対応が行われている点を評価する声が寄せられた。また、経営トップが IR 取材や説明会に積極的に参加し、企業価値向上に向けた前向きなディスカッション姿勢や、イベントの拡充など、株式市場を意識した積極的な IR 活動を評価する声があった。

③ **説明会等**においては、「説明会、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」が第２位、「インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていること」は同得点第２位となった。これに関連して、CFO 自らが取材で疑問点に回答するなど対話姿勢が積極的であるとの声があった。また、説明会資料の補足説明が分かりやすく、実績や計画の数値について根拠を持って丁寧に解説していることや、状況に応じた補足スライドの活用、金融事業の切り出しなど、適切で分かりやすい情報開示を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は同得点第３位となった。これに関連し、開示の公平性に特段の問題はなく、説明会が日本語のみでの開催であっても、質疑応答を含めた内容を適切に開示しているなど、フェア・ディスクロージャーへの配慮を評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「人的資本に関する情報（人材戦略や給与の決定方針など)、および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的･積極的に開示していること。また、その成果を提示していること」が同得点第５位、「環境負荷低減に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取り組みを適切に開示していること。また、その進捗状況、成果が十分説明されていること」が同得点第７位となった。また、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が同得点第 10 位となった。なお、サステナビリティレポートに詳述はあるが、特段理解を深める機会はなかったとの声や、社外取締役との対話機会を望む声があった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」は昨年度に比べ得点率が大幅に改善し、同得点第２位となった。また、「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」の得点率も改善し第８位となった。有益なイベントとして、アフターセールス事業説明会を挙げ

る声が多く寄せられた。また、マネジメントスモールやタイ事業説明会を評価する声もあった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

第 3 位　住友ゴム工業　（総合評価点 74.1 点〔昨年度比－1.4 点〕、昨年度第 3 位）

① 同社は、**自主的情報開示**が第 2 位（79%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（74%）、**ESG 関連**が第 4 位（70%）、**説明会等**が第 5 位（75%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 11 位（74%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が第 3 位となった。これらに関連して、経営陣が企業価値向上に対して高い意識を持ち、経営トップ自らが投資家とのディスカッションに前向きに取り組むなど、積極的な IR 姿勢を評価する声が寄せられた。なお、CFO が取材対応することや、経営陣と IR 部門の距離が近いことを評価する声があった。また、「IR 部門の機能」は同得点第 5 位となった。

③ **説明会等**においては、「説明会、説明資料等における開示が十分であること、また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られること」および「インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていること」は共に第 5 位となった。これに関連して、説明会資料で販売本数と生産ゴム量の両方を開示していることを評価する声があった。なお、増減要因分析について、数量要因と構成要因を分けた開示など、より詳細で分かりやすい説明を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していること」は得点率が下がり同得点第 11 位（昨年度同得点第 7 位）となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していること」が第 4 位となった。これに関連して、社外取締役との対話の機会を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「納得性の高い中長期戦略を公表していること。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていること」が同得点第 2 位となった。また、「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 3 位となった。有益なイベントとして、社外取締役ミーティングや氷雪上試乗会、DUNLOP ブランド戦略発表会を挙げる声が寄せられた。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（自動車・同部品・タイヤ）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 15点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 25点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 20点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5101 横浜ゴム	79.3	27.7	1	12.9	1	3.7	11	18.2	3	16.8	1	4
2	7202 いすゞ自動車	74.3	27.3	2	12.1	2	4.1	3	16.0	11	14.8	4	6
3	5110 住友ゴム工業	74.1	25.8	3	11.3	5	3.7	11	17.5	4	15.8	2	3
4	5108 ブリヂストン	72.9	24.5	6	10.6	10	4.1	3	20.3	1	13.4	7	1
5	7267 本田技研工業	71.0	24.9	4	12.0	3	4.2	1	16.4	7	13.5	6	2
6	7269 スズキ	70.2	23.9	7	10.7	7	4.1	3	16.1	10	15.4	3	11
7	7282 豊田合成	70.1	24.8	5	11.0	6	3.8	10	16.3	8	14.2	5	8
8	7203 トヨタ自動車	69.3	23.5	8	11.6	4	3.9	6	18.9	2	11.4	20	5
9	7261 マツダ	65.9	23.1	10	10.7	7	4.2	1	15.2	15	12.7	14	14
10	7201 日産自動車	65.1	21.2	18	9.9	17	3.9	6	17.2	5	12.9	12	20
10	7259 アイシン	65.1	22.4	12	10.7	7	3.6	14	16.0	11	12.4	16	12
12	3116 トヨタ紡織	64.5	21.3	16	10.2	11	3.6	14	16.2	9	13.2	8	9
13	7270 SUBARU	63.6	23.0	11	8.2	20	3.9	6	15.4	14	13.1	10	7
14	7211 三菱自動車工業	63.4	22.4	12	10.1	13	3.6	14	14.1	19	13.2	8	16
14	6902 デンソー	63.4	20.2	20	10.2	11	3.7	11	17.0	6	12.3	17	10
16	6923 スタンレー電気	63.3	23.2	9	9.9	17	3.3	18	14.1	19	12.8	13	19
17	7272 ヤマハ発動機	62.6	21.3	16	10.0	15	3.9	6	15.8	13	11.6	19	15
18	7276 小糸製作所	62.1	21.2	18	9.9	17	3.3	18	14.7	16	13.0	11	17
18	7988 ニフコ	62.1	22.2	14	10.0	15	3.4	17	14.6	17	11.9	18	18
20	5105 TOYO TIRE	61.3	21.4	15	10.1	13	2.8	20	14.3	18	12.7	14	13
	評価対象企業評価平均点	67.18	23.21		10.61		3.76		16.29		13.31		

2026年度の具体的評価項目および配点（自動車・同部品・タイヤ）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって理解が深まるようなディスカッションが行えていますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	**15**
②経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示していますか。	**10**
(2)IR部門の機能	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）	**10**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（15点）	**配点**
①説明会、説明資料等における開示は十分ですか。また、企業分析に必要かつ十分な情報が得られますか。	**10**
②インタビュー等において、説明会や開示資料等の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	**5**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（会社にとって都合が悪い情報、メディア対応を含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。また、ウェブサイトを利用して説明会等の内容（質疑応答を含む）を日英両言語でタイムリーに提供していますか。	**5**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
4．ESGに関連する情報の開示（25点）	**配点**
①環境負荷低減に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。また、その進捗状況、成果が十分説明されていますか。	**10**
②社外取締役との対話機会も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。	**10**
③人的資本に関する情報（人材戦略や給与の決定方針など）、および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を定量的・積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか。	**5**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（20点）	**配点**
①事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。 ［過去1年間を目安に評価］	**10**
②納得性の高い中長期戦略を公表していますか。その進捗の説明や、外部環境等の変化をタイムリーにアップデートしていますか。	**10**
【評価した理由、減点した場合は改善が望まれる点についてコメント欄に具体的に記入して下さい（会社には匿名で伝えます）】	

自動車･同部品･タイヤ専門部会委員

部　会　長	箱守　英治	大和証券
部会長代理	坂口　大陸	みずほ証券
	岩井　　徹	SBI 証券
	木下　壽英	野村證券
	鈴木　衡大朗	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	根本　　隼	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	吉田　有史	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券

評価実施アナリスト（24 名）

石本　渉	野村證券	島原　陸也	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石山　孝高	みずほ証券	鈴木　衡大朗	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
磯部　智一	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	高橋　侑也	丸三証券
庵原　浩樹	立花証券	田中　健司	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
岩井　徹	SBI 証券	田村　真一	極東証券経済研究所
岩﨑　彰	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	成瀬　伸弥	岡三証券
岡田　真一	三菱 UFJ 信託銀行	根本　隼	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
垣内　真司	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	箱守　英治	大和証券
木下　壽英	野村證券	広川　孝一	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
久保田　悟	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	牧　一統	SMBC 日興証券
齊藤　博之	水戸証券	百田　史哉	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
坂口　大陸	みずほ証券	吉田　有史	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

エネルギー

1．評価対象企業（21 社）

【石油・鉱業部門】（5 社）

ＩＮＰＥＸ、石油資源開発、出光興産、ＥＮＥＯＳホールディングス、コスモエネルギーホールディングス

【電力・ガス部門】（16 社）

キューデンホールディングス（注）、岩谷産業、日本瓦斯、東京電力ホールディングス、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、北海道電力、電源開発、レノバ、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯

（注）九州電力が純粋持株会社体制へ移行した（2026 年 10 月）。

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	10
計		12	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 16 名（所属先 15 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、一部の項目内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 67.7 点（昨年度 66.3 点）、総合評価点の標準偏差は 7.8 点（昨年度 9.0 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を見ると、石油・鉱業部門（5 社）が 74.9 点（昨年度 76.6 点）、電力・ガス部門（16 社）が 65.2 点（昨年度 63.1 点）となった。さらに業態を細分化して見ると点数の高い順に、石油 75.2 点（昨年度 79.8 点）、鉱業 74.3 点（昨年度 72.0 点）、ガス 70.1 点（昨年度 68.0 点）、電力 62.9 点（昨年度 60.9 点）となった。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 68%（昨年度 66%）、**説明会等**が 67%（昨年度 66%）、**フェア･ディスクロージャー**が 92%（昨年度 90%）、**ESG 関連**が 66%（昨年度 64%）、**自主的情報開示**が 64%（昨年度 61%）となり、昨年度に比べ 5 分野全てに

おいて平均得点率が改善した。

④　評価項目（全 12 項目）について見ると、次のとおり、**フェア･ディスクロージャー**の 2 項目(a)・(b)は、平均得点率が 85%以上となり、高水準となった。

(a)　「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」（平均得点率 95%〔昨年度 92%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台 1 社・80%台 1 社・90%台 17 社・100%2 社）

(b)　「リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか」（平均得点率 89%〔昨年度 86%〕）（得点率：80%台 7 社・90%台 12 社・100%2 社）

⑤　一方、**経営陣の IR 姿勢等**の中の次の項目(a)は、平均得点率が 50%台となり、全項目の中で最も低かった。東京瓦斯、中国電力および九州電力など一部の評価対象企業が高水準の得点率となったが、全体としては依然低水準にとどまっており、下位評価企業には改善努力を強く求めたい。

(a)　「複数の社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 55%〔昨年度 52%〕）（得点率：20%台以下 5 社・30%台 2 社・50%台 5 社・60%台 2 社・70%台 3 社・80%台 4 社）

(2)　全体の上位３企業の評価概要

第１位　ＩＮＰＥＸ（ディスクロージャー優良企業（2 回目）、
総合評価点 78.9 点〔昨年度比＋2.4 点〕、昨年度第 5 位）

①　同社は **ESG 関連**が第 1 位（得点率〈以下省略〉82%）、**経営陣の IR 姿勢等が**第 2 位（76%）、**説明会等**が同得点第 2 位（79%）、**自主的情報開示**が第 3 位（73%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 4 位（94%）となった。5 分野のうち 3 分野（**ESG 関連**、**経営陣の IR 姿勢等**および**説明会等**）において、昨年度に比べ得点率が改善し、この結果、14 年振りの第 1 位受賞となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、経営陣による明確な情報発信や経営方針の分かりやすさに加え、説明会や Investor Day への社長の登壇、説明会以外の投資家との積極的な対話など､経営トップが IR 活動に主体的に関与している点を評価する声が寄せられた。また、株式市場の意見を経営に取り入れようとする姿勢や、キャッシュフロー配分において株主還元の充実を継続している点を評価する声があった。また､「IR 部門の機能」は同得点第 3 位となったが､「社外取締役との対話」は第 15 位にとどまった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が第 2 位､「説明資料等における開示」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、説明資料において、セグメント別業績予想や ROIC を含む定量的な情報開示が充実している点を評価する声が寄せられた。なお、実績の増減要因について油価や為替の感応度を踏まえた説明資料への記載を望む声があった。また、税金費用の変動が大きい場合には、その要因に関するより分かりやすい説明を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 3 位）および「多様な情報提供」（同得点第 4 位）が共に 90%以上の得点率となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」の 2 項目が共に最も高い評価となった。また､「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」も最も高い評価となったほか､「コーポレート・ガバナンスに関する開示」も第 2 位となり、この分野の第 1 位となった。これらに関連して、株式市場を重視する経営姿勢や方針を上回る株主還元への取組みに加え、アバディプロジェクトの建設期間中および運転開始後のキャッシュフロー見通しについて説明している点を評価する声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は第 3 位となった。これに関連して、Investor Day の開催などを通じて、業界

や事業の特性を踏まえた自主的な情報開示や説明の機会を積極的に設けている点を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　コスモエネルギーホールディングス　（総合評価点 76.4 点〔昨年度比－6.8 点〕、昨年度第 1 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（80%）、**ESG 関連**が第 2 位（76%）、**フェア･ディスクロージャー**（94%）、**自主的情報開示**（70%）が同得点第 4 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 5 位（75%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 3 位となった。これに関連して、社長が説明会などに積極的に参加し、率直な意見交換の機会が確保されていることを評価する声があった。また、「IR 部門の機能」は同得点第 5 位（昨年度第 1 位）に、「社外取締役との対話」が第 9 位（昨年度 1 位）となり、昨年度に比べて、共に得点率が大きく下がった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となったほか、「説明資料等における開示」も同得点第 2 位となり、この分野の第 1 位となった。これらに関連して、説明資料において定量的な情報開示が充実している点に加え、取材時の補足説明においても定量的な説明が多く、有益な情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。また、IR 部門と経営陣の距離が近く、連携が図られている点を評価する声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 3 位）および「多様な情報提供」（同得点第 4 位）が 90%以上の得点率となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」が第 3 位、「非財務情報（ESG 情報等）に関する開示」の 2 項目および「コーポレート・ガバナンスに関する開示」が同得点第 3 位となった。これらに関連して、新中期経営計画において、総還元性向目標や ROE 目標を踏まえた資本政策および株主還元方針が明確に示されている点や、意欲的な株主還元方針を堅持する経営姿勢を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は同得点第 4 位となった。これに関連して、事業説明会や見学会を通じて丁寧な情報発信を行っている点に加え、AI・IT を活用した製油所の効率運用など、具体的な取組内容を分かりやすく説明している点を評価する声が寄せられた。

第 3 位　大阪瓦斯　（総合評価点 76.1 点〔昨年度比＋3.3 点〕、昨年度第 6 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（78%）、**ESG 関連**が第 3 位（75%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 4 位（94%）、**説明会等**が第 6 位（74%）、**自主的情報開示**が第 8 位（67%）となった。**自主的情報開示**を除く 4 分野において、昨年度に比べ得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 2 位、「IR 部門の機能」は同得点第 3 位となった。また、「社外取締役との対話」は第 5 位（昨年度第 9 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これらに関連して、社長が説明会などに積極的に参加し、株式市場との対話を推進していることに加え、社長の説明が明確かつ合理的で理解しやすい点を評価する声が寄せられた。さらに、北米事業をはじめとして開示内容が継続的に改善している点を評価する声もあった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が同得点第 4 位（昨年度同得点第 7 位）、「説明資料等における開示」が同得点第 6 位（昨年度第 10 位）となり、共に昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これらに関連して、説明資料において定量的な情報開示が充実している点や、取材時の補足説明において有益な情報提供が行われている点を評価する声が寄せられた。また、電力事業や海外事業に関する開示が充実してきた点を評価する声もあった。なお、ガス事業および電力事業の費用項目に関する開示の充実や開示再開を望む声があった。また、電力事業の業績予想に資する情報開示の充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 3 位）および「多様な情報提供」（同得点第 4 位）が 90%以上の得点率となった。

⑤ ESG 関連においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示」は第 2 位となった。

「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は同得点第5位（昨年度第7位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。「非財務情報（ESG情報等）に関する開示」（2項目計）は第8位となった。これらに関連して、ROICを軸とした経営やROE重視の方針のもと、株主還元方針の見直しやDOE目標の引き上げを行うなど、資本効率を意識した経営を推進している点を評価する声が寄せられた。また、ROE目標の達成と総還元額の維持を掲げることで、経営の自由度と株主還元に対する期待値のバランスを図っている点を評価する声があった。なお、上場株式保有に関する説明の充実を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていること。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等」は第8位となった。これに関連して、各種見学会や事業説明会を充実させ、事業への理解を深める機会を提供している点を評価する声が寄せられた。なお、自主的な情報開示に関しては、月次開示を含むさらなる情報開示の充実を望む声もあった。

（参考）部門別の第1位企業

【石油・鉱業部門】

ＩＮＰＥＸ（総合評価点78.9点、全体第1位）

【電力・ガス部門】

大阪瓦斯　（総合評価点76.1点、全体第3位）

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（エネルギー:全体）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	1605　INPEX	78.9	26.6	2	15.8	2	4.7	4	24.5	1	7.3	3	5
2	5021　コスモエネルギーホールディングス	76.4	26.1	5	15.9	1	4.7	4	22.7	2	7.0	4	1
3	9532　大阪瓦斯	76.1	27.4	1	14.8	6	4.7	4	22.5	3	6.7	8	6
4	5020　ENEOSホールディングス	75.2	26.4	3	14.7	7	4.7	4	22.4	4	7.0	4	3
5	5019　出光興産	74.0	25.3	8	15.0	4	4.7	4	22.1	5	6.9	6	2
6	8174　日本瓦斯	73.4	23.2	12	15.8	2	4.9	2	22.1	5	7.4	2	4
7	9531　東京瓦斯	73.0	26.4	3	14.0	10	4.6	13	21.5	7	6.5	9	7
8	9509　北海道電力	71.4	25.7	6	13.5	11	4.9	2	20.8	8	6.5	9	10
9	9507　四国電力	70.8	25.3	8	14.2	8	4.7	4	20.7	9	5.9	16	12
10	1662　石油資源開発	67.9	22.2	13	14.9	5	4.6	13	19.4	13	6.8	7	8
11	9504　中国電力	67.7	24.8	10	12.3	16	4.7	4	20.3	11	5.6	18	16
12	642A　キューデンホールディングス(*)	67.2	25.7	6	13.0	14	4.6	13	17.6	15	6.3	11	9
13	9513　電源開発	66.9	24.4	11	14.2	8	4.7	4	17.7	14	5.9	16	11
13	9519　レノバ	66.9	21.0	17	13.5	11	5.0	1	19.7	12	7.7	1	18
15	9533　東邦瓦斯	63.8	19.0	20	13.2	13	4.6	13	20.7	9	6.3	11	15
16	9506　東北電力	62.3	22.2	13	11.8	17	4.7	4	17.5	17	6.1	14	13
17	9503　関西電力	62.0	22.1	15	12.6	15	4.5	18	16.7	20	6.1	14	20
18	8088　岩谷産業	60.5	20.3	18	11.7	18	4.6	13	17.6	15	6.3	11	19
19	9502　中部電力	58.6	21.7	16	10.6	20	4.2	20	17.1	19	5.0	21	14
20	9505　北陸電力	57.4	19.4	19	11.0	19	4.5	18	17.2	18	5.3	19	17
21	9501　東京電力ホールディングス	46.4	16.7	21	7.9	21	3.8	21	12.9	21	5.1	20	21
	評価対象企業評価平均点	67.70	23.63		13.36		4.62		19.73		6.36		

（*)9508 九州電力が純粋持株会社体制へ移行

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（電力・ガス部門）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9532　大阪瓦斯	76.1	27.4	1	14.8	2	4.7	4	22.5	1	6.7	3	2
2	8174　日本瓦斯	73.4	23.2	8	15.8	1	4.9	2	22.1	2	7.4	2	1
3	9531　東京瓦斯	73.0	26.4	2	14.0	5	4.6	9	21.5	3	6.5	4	3
4	9509　北海道電力	71.4	25.7	3	13.5	6	4.9	2	20.8	4	6.5	4	5
5	9507　四国電力	70.8	25.3	5	14.2	3	4.7	4	20.7	5	5.9	11	7
6	9504　中国電力	67.7	24.8	6	12.3	11	4.7	4	20.3	7	5.6	13	11
7	642A　キューデンホールディングス(*)	67.2	25.7	3	13.0	9	4.6	9	17.6	10	6.3	6	4
8	9513　電源開発	66.9	24.4	7	14.2	3	4.7	4	17.7	9	5.9	11	6
8	9519　レノバ	66.9	21.0	12	13.5	6	5.0	1	19.7	8	7.7	1	13
10	9533　東邦瓦斯	63.8	19.0	15	13.2	8	4.6	9	20.7	5	6.3	6	10
11	9506　東北電力	62.3	22.2	9	11.8	12	4.7	4	17.5	12	6.1	9	8
12	9503　関西電力	62.0	22.1	10	12.6	10	4.5	13	16.7	15	6.1	9	15
13	8088　岩谷産業	60.5	20.3	13	11.7	13	4.6	9	17.6	10	6.3	6	14
14	9502　中部電力	58.6	21.7	11	10.6	15	4.2	15	17.1	14	5.0	16	9
15	9505　北陸電力	57.4	19.4	14	11.0	14	4.5	13	17.2	13	5.3	14	12
16	9501　東京電力ホールディングス	46.4	16.7	16	7.9	16	3.8	16	12.9	16	5.1	15	16
	評価対象企業評価平均点	65.15	22.97		12.67		4.59		18.80		6.12		

（＊)9508 九州電力が純粋持株会社体制へ移行

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（石油・鉱業部門）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	1605　INPEX	78.9	26.6	1	15.8	2	4.7	1	24.5	1	7.3	1	4
2	5021　コスモエネルギーホールディングス	76.4	26.1	3	15.9	1	4.7	1	22.7	2	7.0	2	1
3	5020　ENEOSホールディングス	75.2	26.4	2	14.7	5	4.7	1	22.4	3	7.0	2	3
4	5019　出光興産	74.0	25.3	4	15.0	3	4.7	1	22.1	4	6.9	4	2
5	1662　石油資源開発	67.9	22.2	5	14.9	4	4.6	5	19.4	5	6.8	5	5
	評価対象企業評価平均点	74.85	25.46		15.29		4.69		22.39		7.02		

2026年度の具体的評価項目および配点（エネルギー）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（35点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・会社主催の説明会に社長または会長が年2回以上出席し、今後の経営方針や株主還元策、ESG等について有意義なディスカッションができますか。経営陣が積極的に市場からのエンゲージメントを受け入れる意欲を持っていますか。	**20**
(2)社外取締役との対話	
・複数の社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**5**
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、業績の好不調にかかわらず、IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明資料等における開示	
・決算の実績および業績の見通しについて、利便性に配慮して、収益および財務分析に必要な定量情報が十分に記載されていますか。例えば、前提条件、感応度、利益率または利幅、主要費用。	**10**
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビュー等（ESG情報を含む）において、短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	**10**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	**3**
(2)多様な情報提供	
・リモートツール等を活用して、より多くの投資家がアクセスできるような情報提供機会（説明会、決算説明会の資料・質疑応答等）を確保していますか。	**2**
4．ESGに関連する情報の開示（30点）	**配点**
(1)非財務情報（ESG情報等）に関する開示	
①非財務情報（気候変動問題等の環境分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	**5**
②非財務情報（人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）等の社会分野）について、経営戦略にリンクする形で、統合報告書等で株式市場をはじめとする多様なステークホルダーが求める定性および定量面での開示をわかりやすく行っていますか。	**5**
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等に関する開示	
・中・長期経営計画を公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	**15**
(3)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報。	**5**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	**配点**
・事業を理解する上で重要と思われる情報が十分に開示されていますか。例えば、国内外の同業他社比較や月次等の定量情報、注目される事業ないし研究開発テーマ等（知財・無形固定資産関連を含む）を紹介する情報発信等。	**10**

エネルギー専門部会委員

部　会　長	新家　法昌	みずほ証券
部会長代理	荻野　零児	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	神近　広二	SMBC 日興証券
	西川　周作	大和証券
	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	山崎　慎一	野村證券

評価実施アナリスト（16 名）

安藤　誠悟	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	齊藤　博之	水戸証券
井澤　宏之	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	佐々木　聡	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
井上　崇	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	新家　法昌	みずほ証券
大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	富田　展昭	極東証券経済研究所
荻野　零児	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	西川　周作	大和証券
神近　広二	SMBC 日興証券	藤岡　哲也	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
菊崎　雄太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
黒木　文明	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山崎　慎一	野村證券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

運　輸

1．評価対象企業（18 社）

【陸 運】（13 社）

東急、小田急電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、東京地下鉄、西武ホールディングス、 阪急阪神ホールディングス、ヤマトホールディングス、山九、九州旅客鉄道、SG ホールディングス、NIPPON EXPRESS ホールディングス

【海 運】（3 社）

日本郵船、商船三井、川崎汽船

【空 運】（2 社）

日本航空、ANA ホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	36
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	3	19
③フェア・ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	8
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 20 名（所属先 16 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、評価分野のうち**経営陣の IR 姿勢等**および**フェア･ディスクロージャー**を中心に項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 70.1 点（昨年度 68.2 点）、総合評価点の標準偏差は 5.5 点（昨年度 5.0 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を比較して見ると、高得点順に、空運（2 社）74.7 点（昨年度 73.1 点）、海運（3 社）74.6 点（昨年度 72.0 点）、陸運（13 社）68.2 点（昨年度 66.6 点）となった。昨年度に続き、空運が業態別のトップとなった。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 67%（昨年度 66%）、**説明会等**が 75%（昨年度 72%）、**フェア･ディスクロージャー**が 78%（昨年度 94%）、**ESG 関連**が 71%（昨年度 67%）、**自主的情報開示**が 63%（昨年度 58%）となった。昨年度に比べて、4 分野

において平均得点率が上回ったが、**フェア･ディスクロージャー**は大きく下回った。

④　評価項目（全 14 項目）を見ると、平均得点率が 80%以上と高水準のものは、次の**説明会等**の 1 項目であった。

(a)「会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切ですか」（平均得点率 82%〔昨年度 75%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 1 社・70%台 3 社・80%台 12 社・90%台 2 社）

⑤　一方、次の**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目(a)および**自主的情報開示**の中の 1 項目(b)は、50%台以下となり、(a)は全項目の中で最も低い水準となった。

(a)「社外取締役が投資家の代弁者としての役割期待を十分に理解した上で、投資家の要請に応えていますか」（平均得点率 52%〔昨年度 48%〕）（得点率：30%台 2 社・40%台 6 社・50%台 5 社・60%台 4 社・70%台 1 社）

(b)「情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けていますか」（平均得点率 56%〔昨年度 50%〕）（得点率：30%台 2 社・40%台 3 社・50%台 6 社・60%台 3 社・70%台 3 社・80%台 1 社）

(2)　上位３企業の評価概要

第 1 位　東日本旅客鉄道　（ディスクロージャー優良企業〔9 回目〕、
総合評価点 78.3 点〔昨年度比＋5.3 点〕、昨年度第 3 位）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉78%）、**自主的情報開示**（84%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 1 位（82%）、**説明会等**が第 2 位（82%）、**ESG 関連**が同得点第 5 位（74%）となった。昨年度に比べて、5 分野のうち 4 分野において得点率が改善した。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役に関する項目」が昨年度に比べ得点率が大きく改善し、最も高い評価となった。これに関連して、社外取締役とのミーティングや IR Day 等での対話を通じて、率直かつ有益な議論が行われ、投資家の期待事項への理解や取締役会での議論の把握につながっている点を評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能」も同様に得点率が改善し、最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門には経営トップの考えを含む情報が十分に集積されており、CFO や IR 担当役員のみならず IR 担当者も経営への理解が深いことから、有益かつスムーズで意義のあるディスカッションが可能である点を評価する声があった。また、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」も、同様に得点率が改善し、同得点第 1 位となった。これに関連して、経営トップは企業価値向上への意識が高く、CEO ミーティングの定期開催や投資家との対話内容の経営計画への反映、ROE 等の意欲的な目標設定を通じて、その姿勢が投資家に伝わっている点を評価する声が寄せられた。また、投資家との対話を重視し、質問に対して明確な回答を行うなど、市場との目線合わせに努めている点を評価する声があった。このほか、「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG や、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は、同得点第 4 位となった。これに関連して、経営トップは、資本政策や企業価値向上に向けた取り組みについて積極的かつ明確な情報発信を行っており、中期経営計画のアップデートや不動産売却の進捗説明、キャッシュアロケーションの考え方の開示に加え、資本コストや株価を意識した経営の定期的な発信を通じて、投資家との対話を踏まえた企業価値向上施策を網羅的かつ詳細に説明している点を評価する声が寄せられた。なお、安全・品質やガバナンスに関する課題への対応の迅速化に加え、事業別 ROIC や投資判断基準に関する開示のさらなる充実を望む声もあった。

③　**説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2 項目計）が、昨年度に比べ得点率が大きく改善し、同得点第 2 位（昨年度第 11 位）となった。これに関連して、収益および財務分析に必要な情報については、開示資料が網羅的かつ充実しており、鉄道事業の費用見通しの開示再開に加え、モビリティ以外のセグメントについても事業戦略や KPI を含めた詳細な情報が提供されていること、また

NPV・IRR の目線開示など投資判断に有用な情報が示されている点を評価する声が寄せられた。このほか、情報開示におけるセグメント別・事業別の区分けについては概ね適切であり、事業別の KPI やサブセグメントに関する定量開示が充実している点を評価する声があった。なお、採用する KPI と企業価値向上との関係性や、不動産事業の成長ドライバーである開発利回り等の継続開示の充実等を望む声もあった。「説明会における開示」は第 3 位であった。これに関連して、決算説明会等においては、会社側が補足説明を含めて丁寧かつ詳細な説明を行っており、質疑応答においても質問に対して示唆に富む回答がなされるなど、投資家・アナリストの理解促進に資する対応を評価する声が寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること。また、ウェブサイトで有用な情報提供（月次・過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていること」は同得点第 1 位となった。これに関連して、輸送トラブルなど投資家にとって重要な事項については、投資家向け説明会の実施やその後の SR 面談によるフォローアップなど、迅速かつ丁寧な情報提供に努めている点を評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目」が、昨年度に比べて得点率が大きく改善し、第 3 位（昨年度同得点第 6 位）となった。「ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目」および「ガバナンスの実効性に関連する項目」は共に同得点第 4 位に、「気候変動問題に関連する項目」は同得点第 7 位となった。これらに関連して、ESG 関連情報については、マテリアリティおよび KPI の見直しにより事業活動との関係性が明確化されたことに加え、CO_2削減目標の追加設定やロードマップの提示、人的資本に関する具体的な取り組み開示が大幅に改善している点を評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**においては、「情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けていること」および「ESG 説明会・施設見学会・事業説明会･IR 部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が、昨年度に比べて得点率が大きく改善し、共に最も高い評価（同得点第 1 位を含む）となった。これらに関連して、社外取締役が懇親会等の場で投資家と率直かつ有意義な意見交換を行い、対話の機会を積極的に設けている点を評価する声が寄せられた。なお、整備新幹線や輸送障害に関する情報発信および説明のさらなる充実を望む声もあった。また、充実していたイベントとして、羽田空港アクセス線見学会などを挙げる声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　九州旅客鉄道　（総合評価点 76.4 点〔昨年度比＋1.0 点〕、昨年度第 1 位）

① 同社は、**自主的情報開示**が第 2 位（81%）、**経営陣の IR 姿勢等**（74%）、**説明会等**（81%）が第 3 位、**フェア・ディスクロージャー**（80%）、**ESG 関連**（74%）が同得点第 5 位となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「社外取締役に関する項目」が第 2 位となった。これに関連して、社外取締役との議論やミーティングを通じて、事業への貢献や投資家との対話に積極的に取り組んでいることを評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能」は同得点第 2 位となった。これに関連して、IR 部門には十分な情報が集積されており、説明は丁寧で分かりやすく、CFO による対応も含めて投資家との深い議論が可能な体制が整っている点を評価する声があった。また、投資家の声を踏まえて ROE 目標を明確化するなど、対話を経営に反映している点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2 項目計）が同得点第 2 位となった。これに関連して、収益・財務情報の開示は全体として十分かつ充実しているとの声や、適切な開示が行われているとの声があった。「説明会における開示」が同得点第 5 位となった。これに関連して、決算説明会等においては、経営陣が質問に対して簡潔かつ分かりやすく回答を行っている一方で、企業価値向上に向けた取組みについては、市場の声を踏まえつつ、より具体的な説明を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「経営陣および IR 部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM 対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること。また、ウェブサイトで有用な情報提供（月次・過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていること」は同得点第

5位となった。

⑤　**ESG関連**においては、「ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目」が第2位、「ガバナンスの実効性に関連する項目」は同得点第4位に、「経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目」は第5位に、「気候変動問題に関連する項目」は同得点第7位となった。これらに関連して、人的資本およびガバナンスに関する取り組みが実効性を感じられる水準で開示されている点を評価する声が寄せられた。なお、サステナビリティを経営戦略へどのように統合していくのかについて、適切な指標・目標のさらなる見直しや財務指標との関係性の明確化に加え、サステナビリティ、経営企画・IR、人事など本社部門横断での取り組みの充実を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「ESG説明会・施設見学会・事業説明会･IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」が、昨年度に比べて得点率が大きく改善し、同得点第1位となった。また、「情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けていること」は第2位となった。これに関連して、社外取締役との対話について、大規模な形式に加え、スモールミーティングでの対話機会の拡充を望む声があった。充実していたイベントとして、日田彦山線BRTひこぼしライン試乗会などを挙げる声が寄せられた。

第3位　日本航空　（総合評価点75.8点〔昨年度比＋1.8点〕、昨年度第2位）

①　同社は、**ESG関連**（76%）、**自主的情報開示**（78%）が第3位、**経営陣のIR姿勢等**が第4位（73%）、**説明会等**が同得点第4位（79%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第8位（78%）となった。昨年度に比べて、5分野のうち4分野において得点率が改善した。

②　**経営陣のIR姿勢等**においては、「社外取締役に関する項目」が同得点第3位となった。これに関連して、社外取締役との対話を通じて、投資家視点への理解や取締役会における役割を確認できる点を評価する声が寄せられた。一方で、社外取締役の活動に関する情報開示のさらなる充実や、相次ぐ不祥事に対する取締役会でのモニタリング強化など、社外取締役としての責務の一層の発揮を望む声もあった。「IR部門の機能」は第4位となった。これに関連して、IR部門には十分な情報が集積されており、説明が丁寧で分かりやすく、有益なディスカッションが可能である点を評価する声が寄せられた。なお、他社比較による優位性の説明にとどまらず、自社独自の魅力や課題改善に向けた取り組みについて、より充実した説明を望む声もあった。

③　**説明会等**においては、「説明会における開示」の得点率が昨年度に比べ大きく改善し、最も高い評価となった（昨年度同得点第1位）。これに関連して、決算説明会等においては、補足説明を含めた丁寧な説明に加え、複雑な事業モデルを分かりやすく伝える工夫が継続されていることや、燃油価格高騰による損益影響と対応策について分かりやすい説明が行われている点を評価する声が寄せられた。一方、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（2項目計）が同得点第14位となった。なお、国内線・国際線や旅客・貨物等サブセグメント毎の収支開示や増減益分析等、開示の工夫・充実を望む声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること。また、ウェブサイトで有用な情報提供（月次・過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていること」は同得点第8位となった。これに関連して、英語でのカンファレンスコール開催など海外投資家向けの情報発信に取り組んでいる点を評価する声があった。なお、観測記事への対応や不祥事が継続していることに関する投資家向けの経過説明について、より積極的な情報発信を望む声もあった。

⑤　**ESG関連**においては、「経営の重要課題（マテリアリティ）に関連する項目」の得点率が大きく改善し、最も高い評価となった（昨年度同得点第1位）。また、「ダイバーシティなどの人的資本に関連する項目」が第3位、「気候変動問題に関連する項目」は同得点第4位に、「ガバナンスの実効性に関連する項目」は同得点第9位となった。これらに関連して、脱炭素に向けた考え方や取り組みが明確に示されていることに加え、グループ経営ビジョン2035においてサステナビリティが経営戦略に統合され、社会課題の解決を事業機会につなげる価値創造やKPI設定が行われている点を評価する声が寄せられた。

⑥　**自主的情報開示**においては、「ESG説明会・施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容が充実していること」は同得点第1位となった。また、「情報開示充実の一環として、社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けている

こと」は第 4 位となった。これらに関連して、社外取締役との定期的な対話の機会が有益であるとの声が寄せられた。充実していたイベントとして、CFO ミーティングや Airbus 説明会を挙げる声があった。

以　上

20265度　ディスクロージャー評価比較総括表　（運輸）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 36点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目3（配点 19点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 32点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9020　東日本旅客鉄道	78.3	28.1	1	15.6	2	4.1	1	23.8	5	6.7	1	3
2	9142　九州旅客鉄道	76.4	26.7	3	15.4	3	4.0	5	23.8	5	6.5	2	1
3	9201　日本航空	75.8	26.4	4	15.1	4	3.9	8	24.2	3	6.2	3	2
4	9107　川崎汽船	75.7	27.4	2	14.8	6	3.9	8	23.8	5	5.8	5	4
5	9101　日本郵船	74.3	25.9	6	14.6	7	3.9	8	24.6	1	5.3	6	5
6	9202　ANAホールディングス	73.9	25.9	6	15.1	4	3.8	14	24.4	2	4.7	12	5
7	9104　商船三井	73.6	26.3	5	14.4	9	4.0	5	23.9	4	5.0	11	7
8	9007　小田急電鉄	73.2	25.9	6	15.7	1	4.1	1	22.4	9	5.1	8	9
9	9042　阪急阪神ホールディングス	70.4	23.4	12	14.1	12	3.9	8	23.8	5	5.2	7	9
10	9024　西武ホールディングス	70.1	24.5	9	14.3	11	3.9	8	22.3	11	5.1	8	12
11	9147　NIPPON EXPRESS ホールディングス	68.5	23.9	11	13.1	17	3.9	8	21.6	14	6.0	4	13
12	9005　東急	68.0	22.8	13	14.5	8	4.0	5	22.3	11	4.4	14	8
13	9021　西日本旅客鉄道	67.2	22.3	14	14.4	9	3.8	14	22.4	9	4.3	16	9
14	9143　SGホールディングス	65.9	22.1	15	13.8	14	3.8	14	21.8	13	4.4	14	15
15	9065　山九	65.5	24.0	10	13.4	16	3.7	17	19.3	18	5.1	8	14
16	9023　東京地下鉄	61.6	20.4	16	13.9	13	4.1	1	20.7	16	2.5	18	17
17	9064　ヤマトホールディングス	61.3	20.4	16	11.4	18	3.7	17	21.1	15	4.7	12	18
18	9022　東海旅客鉄道	61.2	20.0	18	13.5	15	4.1	1	19.7	17	3.9	17	16
	評価対象企業評価平均点	70.12	24.27		14.27		3.92		22.59		5.07		

2026年度の具体的評価項目および配点（運輸）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（36点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
②経営トップが企業価値向上の手段としてのESGや、資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
③社外取締役が投資家の代弁者としての役割期待を十分に理解した上で、投資家の要請に応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**6**
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分かつ正確な情報が集積され、かつアナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、担当者と有益なディスカッションができますか。また、投資家のニーズに合わせ、ESG関連部門などと連携をとっていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（19点）	**配点**
(1)説明会における開示	
・決算説明会等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
①収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**4**
②会社側が採用している情報開示のセグメント別・事業別の区分けは適切ですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
・経営陣およびIR部門が投資家にとって重要と判断される事項（不祥事対応、危機管理対応、KAM対応等）の情報開示（メディア対応を含む）に際し、迅速かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。また、ウェブサイトで有用な情報提供（月次・過去の時系列データ、決算説明会資料、説明会動画・質疑応答の状況等）を日英両言語でタイムリーに行っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
4．ESGに関連する情報の開示（32点）	**配点**
①経営の重要課題（マテリアリティ）の特定プロセスを示したうえで、企業の経営理念やパーパスと整合した経営戦略に基づく事業活動を通じて、マテリアリティの解決に取り組むことで、将来の企業価値につながるといった価値創造プロセスを魅力的なストーリーとして投資家に示していますか。	**8**
②気候変動問題に関して、温室効果ガス排出量の実績、中長期的な削減目標や目標達成の実効性が確認できるロードマップおよび具体的なアクションプランなど、定性・定量両面で十分に開示していますか。	**8**
③ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。	**8**
④ガバナンスの実効性を確認するうえで重要な情報開示（例えば、サクセッションプランのプロセスおよび内容、役員報酬制度のインセンティブ設計としての適切性、取締役会の実効性評価やスキルマトリックス活用によるガバナンス改善活動状況等）が十分にされていますか。	**8**
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください】	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	**配点**
①情報開示充実の一環として、 社外取締役の役割発揮状況について、株式市場の間で理解が深まるような機会を十分に設けていますか。	**4**
②ESG説明会・施設見学会・事業説明会･IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施し、かつその内容は充実していますか。 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	**4**

運輸専門部会委員

部　会　長	姫野　良太	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
部会長代理	安藤　誠悟	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	尾坂　拓也	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	土谷　康仁	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ
	手塚　裕一	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	松崎　　亘	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	米澤　正祥	大和証券

評価実施アナリスト（20 名）

安藤　誠悟	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	富田　展昭	極東証券経済研究所
井上　崇	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	濵野　亮	SMBC 日興証券
大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	原嶋　悠也	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
尾坂　拓也	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	姫野　良太	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
川嶋　宏樹	SMBC 日興証券	広兼　賢治	野村證券
菊崎　雄太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	望陀　謙智	明治安田ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
三箇　和樹	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	百田　史哉	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
田畑　剛	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	安田　秀樹	東洋ﾘｻｰﾁｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
土谷　康仁	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ	米澤　正祥	大和証券
手塚　裕一	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	松崎　亘	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

通信･インターネット

１．評価対象企業（10 社）

【通 信】（6 社）

インターネットイニシアティブ、スカパーJSAT、NTT、KDDI、ソフトバンク、ソフトバンクグループ

【インターネット】（4 社）

カカクコム、メルカリ、LINE ヤフー、楽天グループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	4	27
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	6
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	6
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 31 名（所属先 22 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、評価対象企業の変動（3 社減）のほか、一部の項目内容および配点を見直しており、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 75.8 点（昨年度 71.2 点）、総合評価点の標準偏差は 6.1 点（昨年度 9.1 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を見ると、通信（6 社）は 78.2 点（昨年度 78.3 点）、インターネット（4 社）は 70.9 点（昨年度 66.8 点）となった。評価対象企業 10 社のうち 5 社の総合評価点が上がった。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 77%（昨年度 75%）、**説明会等**が 76%（昨年度 72%）、**フェア･ディスクロージャー**が 85%（昨年度 80%）、**ESG 関連**が 75%（昨年度 69%）、**自主的情報開示**が 66%（昨年度 56%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて平均得点率が改善した。

④　評価項目（全 15 項目）について見ると、平均得点率が 80%以上の高水準となったものは、次の 3 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 2 項目(a)(b)および**フェア･ディスクロージャー**の中の 1 項目(c)）であった。

(a)「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか」（平均得点率 80%〔昨年度 77%〕）（得

点率（評価点／配点〈以下省略〉）：0% 2社・100% 8社）
(b)「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか」（平均得点率82%〔昨年度同率〕）（得点率：70%台5社・80%台4社・90%台1社）
(c)「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率97%〔昨年度98%〕）（得点率：90%台7社・100% 3社）

⑤ 一方、次の項目（**ESG関連**の中の1項目(a)および**自主的情報開示**の項目(b)）は、昨年度に比べ平均得点率が改善したものの、低水準にとどまった。評価対象企業間の得点率の差は拡がっており、下位評価企業においては、改善を期待したい。

(a)「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか」（平均得点率72%〔昨年度65%〕）（得点率：50%台3社・60%台1社・70%台3社・80%台3社）
(b)「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率66%〔昨年度56%〕）（得点率：40%台2社・50%台2社・60%台2社・70%台3社・80%台1社）

⑥ **ESG関連**の3項目（上記⑤(a)を除く）は、次のとおりとなった。昨年度に比べ、いずれも平均得点率が改善した。

(a)「社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を統合報告書などで十分に説明していますか」（平均得点率78%〔昨年度75%〕）（得点率：60%台1社・70%台5社・80%台4社）
(b)「目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」（平均得点率74%〔昨年度66%〕）（得点率：60%台3社・70%台3社・80%台4社）
(c)「E（環境）・S（社会（人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）を含む））に関する情報を統合報告書などで具体的に開示し、経営戦略の中で方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか」（平均得点率76%〔昨年度69%〕）（得点率：60%台3社・70%台4社・80%台3社）

(2) 上位３企業の評価概要

第１位　ソフトバンク（ディスクロージャー優良企業〔3回連続3回目〕、
総合評価点82.6点〔昨年度比＋0.2点〕）

① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（得点率〈以下省略〉83%）、**フェア・ディスクロージャー**（88%）が第1位、**ESG関連**が第2位（83%）、**説明会等**（82%）、**自主的情報開示**（75%）が第3位となった。
② **経営陣のIR姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が満点となり、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」も最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップとのディスカッション機会を評価する声や、決算説明会等の説明において、経営方針や戦略について分かりやすく詳細な説明が行われており、有益な対話の機会となっているとの声が寄せられた。また、「IR部門の機能」は同得点第2位、「IRの基本スタンス」は第3位となった。これらに関連して、IR部門には十分な質・量の情報が集積されており、IR担当者の説明力も高く、有益なディスカッションができるとの評価が寄せられた。
③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が最も高い評価となり、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第2位に、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること、また、情報開示の後退がないこと」は第3位となった。これらに関連して、決算説明会では社長による率直で踏み込んだ質疑応答が分かりやすいとの声や、投資家向け説明会資料も詳細で理解しやすく、説明および質疑応答の内容を評価する声が寄せられた。なお、AIやデータセンター関連について開示の充実を望む声もあっ

た。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、2 項目計で最も高い評価となった。これらに関連して、決算説明会をインターネットでリアルタイム中継し、その後、動画や質疑応答をホームページにアップロードしていることを評価する声があった。

⑤　**ESG 関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」および「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」が共に同得点第 1 位となったほか、「資本政策、株主還元策の開示」は第 2 位に、「目標とする経営指標等の開示」は第 3 位となった。これらに関連して、統合報告書（統合レポート）の質が高く、事業戦略について詳細かつ分かりやすく説明されていることや、新中期経営計画での資本政策を評価する声が寄せられた。なお、給与の決定方針や賃上げに関する具体的な開示の充実を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 3 位となった。有益なイベントとして、SoftBank World やデジタルツイン・キャンパス ラボ（藤沢キャンパス）見学などを挙げる声（P12）があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　ＫＤＤＩ　（総合評価点 80.7 点〔昨年度比±0.0 点〕、昨年度第 2 位〔一昨年度第 2 位〕）

①　同社は、**ESG 関連**が第 1 位（84%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（83%）、**自主的情報開示**が第 4 位（73%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 6 位（83%）、**説明会等**が第 7 位（76%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が満点となったほか、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」が同得点第 2 位となった。これらに関連して、説明会における経営トップからの経営方針・新中期経営戦略に関する分かりやすく詳細な説明を評価する声が寄せられた。なお、経営トップとのディスカッション機会の拡大を望む声もあった。また、「IR 部門の機能」は 90%以上の得点率となり、最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門には質・量ともに十分な情報が集積されており、IR 担当者が社内の状況を熟知していることに加え、マニュアル通りの回答にとどまらず、発展的な議論にもきめ細やかに対応していることを評価する声が寄せられた。

③　**説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が第 3 位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第 4 位となった。これらに関連して、決算説明会では、会社のスタンスをしっかり示していることを評価する声や、難しい質問に対しても丁寧に対応していることを評価する声が寄せられた。なお、質疑応答の回答については、より分かりやすい説明を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」が同得点第 4 位となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」は同得点第 6 位となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」が最も高い評価となったほか、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」および「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」も同得点第 1 位となった。また、「目標とする経営指標等の開示」は第 2 位となった。これらに関連して、サステナビリティ統合レポートの質が高く、事業戦略やその進捗状況が分かりやすく説明されていることを評価する声が寄せられた。なお、給与の決定方針や賃上げに関する具体的な記載の充実を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 4 位となった。有益なイベントとして、高輪新本社見学会などを挙げる声があった。

第３位　スカパーＪＳＡＴ　（総合評価点 80.1 点、新規評価）

① 同社は、**自主的情報開示**が第１位（85%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第２位（87%）、**説明会等**（79%）、**ESG 関連**（79%）が第４位、**経営陣の IR 姿勢等**が第５位（80%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していること」が満点となったほか、「会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができること」が同得点第２位となった。これらに関連して、経営陣や事業部門トップが IR デイ等に積極的に参加し、各事業のトップを含めて投資家とのディスカッション機会が豊富であることに加え、投資家からの質問に対して多様な観点から回答していることを評価する声があった。また、開示が難しい事業についても可能な範囲で積極的な情報開示に努めることを評価する声が寄せられた。また、「IR の基本スタンス」は同得点第４位、「IR 部門の機能」は同得点第 7 位となった。これらに関連して、IR 部門には業界環境を含めた幅広い情報が集約されており、IR 担当者が社内状況を熟知したうえで、分かりやすく丁寧かつ誠実に対応していることを評価する声が寄せられた。投資家からの意見を反映しながら資料や説明内容の改善に努めていることを評価する声があった。なお、売上やコスト面に関する情報については、業績予想を行う上でさらなる開示の充実を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「キャッシュフロー計算書の実績および見通しが、分かりやすく説明されていること」が第２位となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第２位に、「アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しを十分に開示していること、また、情報開示の後退がないこと」および「会計基準の変更・セグメント見直し・KPI の定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていること」は共に同得点第6位となった。これらに関連して、決算説明会資料や各種説明資料において、定量・定性の両面で十分な情報開示が行われていることに加え、安全保障領域に関する開示の充実や、大型衛星打上後の減価償却負担増加を踏まえた中長期的な成長性を理解しやすい情報提供姿勢を評価する声が寄せられた。なお、宇宙事業の内訳に関する四半期開示や、宇宙関連事業の案件について時間軸を整理したより分かりやすい説明の充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M&A、自然災害の影響等）の開示が、迅速かつ十分であること」が同得点第１位となった。「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていること」は同得点第 4 位となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等の開示」が最も高い評価となった。また、「コーポレート・ガバナンスに関する開示」は第４位に、「資本政策、株主還元策の開示」および「E（環境）・S（社会（人的資本を含む））に関する取組み」は第 5 位となった。これらに関連して、資本効率改善に向けた近年の取り組み姿勢や、キャピタルアロケーションの最適化を意識した経営を評価する声が寄せられた。一方、資本効率改善に向けた取り組みのさらなる加速を望む声もあった。

⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は最も高い評価となった。有益なイベントとして、横浜衛星管制センター施設見学会を挙げる声が多く寄せられた。

（注）第２位の企業より、「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」として選定・称賛することについて、辞退する旨の申し出があった。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（通信・インターネット）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 39点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 27点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 6点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 32点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 6点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	9434　ソフトバンク	82.6	24.2	1	22.1	3	5.3	1	26.5	2	4.5	3	1
2	9433　KDDI	80.7	24.0	2	20.4	7	5.0	6	26.9	1	4.4	4	2
3	9412　スカパーJSAT	80.1	23.2	5	21.4	4	5.2	2	25.2	4	5.1	1	－
4	9432　NTT	78.8	23.1	6	20.6	6	4.9	8	25.5	3	4.7	2	4
5	2371　カカクコム	78.3	23.8	3	22.4	1	5.2	2	23.7	5	3.2	7	5
6	3774　インターネットイニシアティブ	77.3	23.6	4	22.4	1	5.2	2	22.0	8	4.1	5	3
7	4689　LINEヤフー	73.8	21.9	7	20.7	5	5.2	2	22.8	6	3.2	7	7
8	9984　ソフトバンクグループ	68.7	19.7	8	19.2	9	5.0	6	21.1	9	3.7	6	8
9	4385　メルカリ	66.8	18.2	10	19.3	8	4.8	10	22.1	7	2.4	10	11
10	4755　楽天グループ	65.8	19.7	8	18.2	10	4.9	8	20.2	10	2.8	9	10
	評価対象企業評価平均点	75.76	22.26		20.65		5.07		23.85		3.93		

2026年度の具体的評価項目および配点（通信・インターネット）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（29点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のIR姿勢		
①会社主催の説明会（電話会議を含む）に社長が出席していますか。 ［4回以上：2点　3回：1点　2回以下：0点］	**2**	●
②会社主催の経営幹部とのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**	
(2)IR部門の機能		
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**7**	
(3)IRの基本スタンス		
・会社にとって都合の悪い情報、不祥事、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても情報開示を後退させることなく、積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	**10**	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 （27点）	**配点**	**委員のみ**
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示		
①アナリスト・投資家が分析・投資判断に有用な主要項目（オペレーションデータ等）の実績および見通しは、十分に開示されていますか。また、情報開示の後退はありませんか。	**10**	
②キャッシュフロー計算書の実績および見通しは、分かりやすく説明されていますか。	**3**	
③会計基準の変更・セグメント見直し・KPIの定義変更等があった場合においても、一貫性のある財務諸表比較ができるよう配慮されていますか。	**4**	
3．フェア・ディスクロージャー（6点）	**配点**	**委員のみ**
①経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**2**	
②投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響、M＆A、自然災害の影響等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	**4**	
4．ESGに関連する情報の開示（32点）	**配点**	**委員のみ**
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示		
・社外取締役の関与も含め、コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を統合報告書などで十分に説明していますか。	**6**	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示等）や株主還元策（配当・自社株買い・自社株消却等）の具体的な目標が明示され、合理的かつ十分に説明されていますか。	**11**	
(3)目標とする経営指標等の開示		
・目標とする経営指標等を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	**4**	
(4)E（環境）・S（社会(人的資本を含む)）に関する取組み		
・E（環境）・S（社会(人的資本（人材戦略や給与の決定方針を含む）を含む)）に関する情報を統合報告書などで具体的に開示し、経営戦略の中で方向性を示し、投資家との対話を積み重ねていますか。	**11**	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（6点）	**配点**	**委員のみ**
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業・研究開発テーマを紹介する機会（記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。［過去1年間を目安に評価］ 【充実していたサービスないし施設・設備名をコメント欄に記入して下さい】	**6**	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

通信･インターネット専門部会委員

部　会　長	増野　大作	野村證券
部会長代理	大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	奥村　裕介	岡三証券
	醒井　周太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	得永　一樹	大和証券
	滑川　　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（31 名）

板倉　充知	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	須藤　翼	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岩渕　啓介	岡三証券	得永　一樹	大和証券
上田　和美	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	仲西　恭子	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
大浦　裕太	第一生命保険	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	原田　大輔	QUICK
大場　剛平	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	原畑　亮平	野村證券
奥村　裕介	岡三証券	久田　有貴	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
嚴　智用	野村證券	宝水　裕圭里	SBI 証券
鎌田　重俊	立花証券	堀　雄介	みずほ証券
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券	前田　栄二	SMBC 日興証券
菊池　悟	SMBC 日興証券	増野　大作	野村證券
岸本　晃知	みずほ証券	山科　拓	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
熊澤　伸悟	大和証券	山本　将	三菱 UFJ 信託銀行
桜井　雄太	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	米島　慶一	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
醒井　周太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	渡辺　洋之	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
杉浦　徹	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

商　社

1．評価対象企業（7 社）

双日、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法等

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	2	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	40
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	10
計		10	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 17 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、一部の評価項目の内容や配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 84.6 点（昨年度 83.0 点）、総合評価点の標準偏差は 2.5 点（昨年度 6.4 点）であった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 87%（昨年度 84%）、**説明会等**が 85%（昨年度 83%）、**フェア･ディスクロージャー**が 93%（昨年度 87%）、**ESG 関連**が 82%（昨年度 81%）、**自主的情報開示**が 85%（昨年度 80%）となり、5 分野全てにおいて、80%以上の平均得点率で、かつ、昨年度の平均得点率を上回った。

③ 評価項目（全 10 項目）について見ると、各項目の平均得点率は総じて高水準であるが、本年度で最も高い平均得点率となったのは、次の**フェア･ディスクロージャー**の項目であった。

・「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか」（平均得点率 93%〔昨年度 87%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：80%台 1 社・90%台 6 社）

④ **ESG 関連**の 4 項目のうち、次の項目の平均得点率は 70%台となり、全 10 項目の中で最も低くなった。

・「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 78%〔昨年度 76%〕）
（得点率：60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 2 社）

(2)　**上位３企業の評価概要**

第 1 位 伊藤忠商事（ディスクロージャー優良企業〔3 回目〕、
総合評価点 88.6 点〔昨年度比－0.7 点〕、昨年度第 2 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉91%）、**説明会等**（88%）、**ESG 関連**（88%）が第 1 位、**自主的情報開示**が第 3 位（87%）、フェア･ディスクロージャーが同得点第 4 位（92%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、IR 改善に取り組む姿勢や、ROE15%を意識した株主還元姿勢への変化、会長をはじめとする経営トップの積極的な IR 活動と投資家との対話姿勢を評価する声が寄せられた。また、投資家の意見に真摯に耳を傾ける姿勢や、経営トップ自らが高頻度かつ深度のある対話を行っている点を評価する声があった。なお、中期的な業績の方向性や目指す姿に関する説明の解像度向上や、中長期的な成長戦略をより明確に示すことを望む声もあった。また、「IR 部門の機能」も最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門によるタイムリーな情報提供や的確な回答、投資家との積極的なコミュニケーション姿勢を評価する声が寄せられた。また、事業・財務に関する高い専門性を有する担当者との有益なディスカッションや、継続的かつ丁寧なフォロー対応を評価する声があった。

③ **説明会等**においては、「説明資料等における開示」が最も高い評価となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、利益計画の増減要因分析やトップダウン型の業績予想など、分かりやすく充実した情報開示を評価する声が寄せられた。また、子会社利益計画など同業他社を上回る高い開示水準を評価する声があった。なお、投資案件の期待リターンに関する説明の充実や、中期経営計画の開示を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は、得点率が 92%と昨年度（89%）を上回った。これに関連して、大型投資案件に関して、大部分の案件で説明会を開催していることを評価する声が寄せられた。なお、その際に中長期的な投資効果についてより分かりやすい説明を望む声もあった。

⑤ **ESG 関連**においては、「重視する経営指標、ESG 課題等に関する項目」、「環境に関する項目」および「社会に関する項目」がそれぞれ最も高い評価となった。これらに関連して、ROE15%達成に対する強いコミットメントや、ROE15%に向けたマトリックスによる明瞭な説明、自社株買いの積み増しを含む株主還元策を評価する声が寄せられた。また、ROE やキャピタルアロケーションに関する目標設定を評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第 3 位となった。有益なイベントとして、デサント工場見学会を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　三井物産（総合評価点 85.9 点〔昨年度比－5.3 点〕、昨年度第 1 位）

① 同社は、**フェア･ディスクロージャー**（98%）、**自主的情報開示**（91%）が第 1 位、**ESG 関連**が第 2 位（83%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 3 位（87%）、**説明会等**が同得点第 4 位（84%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第 2 位となった。これに関連して、IR 担当者の高い専門性や説明能力に加え、タイムリーな情報提供、質問への的確な回答、良好な関係構築を評価する声が寄せられた。また、資源分野に関する知見の深さを評価する声が寄せられた。なお、業績計画の内訳に関する説明の充実を望む声があった。また、「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 5 位となった。これに関連して、経営トップ自らがマネジメントミーティング等を通じて IR 活動に積極的に関与し、株価や投資家を意識した対話姿勢や、市場の期待を積極的に把握しようとする姿勢を評価する声が寄せられた。なお、中期経営計画や業績計画の分

かりやすさの向上、特にROE目標達成に向けた道筋についてより具体的な説明を望む声もあった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等における開示」が共に同得点第4位となった。これらに関連して、新規投資の収益貢献時期が開示されるなど、投資家が求める情報について十分な開示が行われている点を評価する声が寄せられた。なお、LNG事業の業績見通しや市況前提に関する説明の充実を望む声があった。また、長期投資の効果については説明されているものの、今後数年間の効果や単年度業績への寄与について、より具体的な開示を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は最も高い評価となった。これに関連して、大型投資については、ほぼ全てにおいて説明会を開催していることを評価する声があった。

⑤　**ESG関連**においては、「社外取締役に関する項目」が最も高い評価となったほか、「環境に関する項目」が同得点第1位、「社会に関する項目」が第2位、「重視する経営指標、ESG課題等に関する項目」が第6位となった。これらに関連して、社外取締役とのQ&A形式のミーティングを開催するなど、社外取締役との対話機会の提供とその質の高さを評価する声があった。また、キャピタルアロケーションに関する説明の説得力を評価する声が寄せられた。一方で、ROE目標達成に向けた具体的な道筋やROE改善の方策、適正な財務レバレッジ水準に関する説明の充実を望む声があった。また、新中期経営計画における増益計画や株主還元方針の解像度向上を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は第1位となった。有益なイベントとして、インベスターデイ、豪州見学会およびトヨタアリーナ東京見学会などを挙げる声が寄せられた。

第3位　丸紅　（総合評価点85.0点〔昨年度比＋0.8点〕、昨年度第4位）

①　同社は、**説明会等**が第2位（87%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第2位（96%）、**ESG関連**が第3位（83%）、**経営陣のIR姿勢等**が第5位（86%）、**自主的情報開示**が同得点第5位（83%）となった。

②　**経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」が第4位となった。これに関連して、社長をはじめとする経営トップがマネジメントミーティングや説明会に積極的に参加し、自ら説明や対話を行う姿勢を評価する声が寄せられた。また、株価や投資家を意識した対話姿勢や、IR活動の向上に向けた工夫を評価する声があった。また、「IR部門の機能」が同得点第5位となった。これに関連して、各事業に対する理解や財務知識を有するIR担当者の高い専門性に加え、タイムリーな情報提供や質問への的確な回答を評価する声が寄せられた。また、情勢変化に応じた機動的な対応を評価する声があった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等における開示」が共に第2位となった。これらに関連して、一過性要因の内訳開示やトップダウン型の業績予想など、分かりやすい情報開示を評価する声が寄せられた。なお、通期計画の段階損益の開示を望む声や、中期経営計画と実績に乖離が生じた場合の説明について工夫を望む声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていること」は同得点第2位となった。これに関連して、大型投資案件に関して、大部分の案件で説明会を開催していることを評価する声が寄せられた。

⑤　**ESG関連**においては、「重視する経営指標、ESG課題等の項目」は第2位、「社外取締役に関する項目」が第3位、「社会に関する項目」は同得点第3位、「環境に関する項目」が同得点第5位となった。これらに関連して、ROE向上に向けた道筋の明確な説明や、中期経営計画における増益計画の高い解像度を評価する声が寄せられた。なお、株主還元後のフリー・キャッシュ・フローの見通しや、ROE改善に向けた資本政策について、より踏み込んだ説明を望む声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容が有益であること」は同得点第5位となった。有益なイベントとして、IR Day、アトリオン製菓見学会を挙げる声が多く寄せられた。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（商社）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目2（配点 25点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 40点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8001　伊藤忠商事	88.6	22.7	1	17.6	1	4.6	4	35.0	1	8.7	3	2
2	8031　三井物産	85.9	21.8	3	16.8	4	4.9	1	33.3	2	9.1	1	1
3	8002　丸紅	85.0	21.5	5	17.4	2	4.8	2	33.0	3	8.3	5	4
4	8053　住友商事	84.9	22.1	2	17.2	3	4.8	2	32.2	5	8.6	4	5
5	8058　三菱商事	83.6	21.0	7	16.8	4	4.4	7	32.6	4	8.8	2	7
6	8015　豊田通商	82.3	21.8	3	16.6	6	4.6	4	31.0	7	8.3	5	6
7	2768　双日	81.0	21.4	6	16.6	6	4.5	6	31.3	6	7.2	7	3
	評価対象企業評価平均点	84.60	21.78		17.01		4.67		32.69		8.45		

2026年度の具体的評価項目および配点（商社）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（25点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。例えば、IR対応組織を強化したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣はIR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・説明会やインタビューでの質疑応答は十分に満足できるものですか。	**5**
(2)説明資料等における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報（通期計画の段階損益、一過性の要因、投融資の金額およびリターン、価格・数量の前提および感応度、会社にとって不都合な事象等）が十分に開示されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、将来的な減損リスク等）の開示は遅滞なく、かつ説明会等の方法により十分に説明されていますか。	**5**
4．ESGに関連する情報の開示（40点）	**配点**
①重視する経営指標、ESG課題（例えば、ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）とその目標、それを採用する理由、目標達成のための具体的方策および進捗状況が十分に説明されていますか。また、ROEの改善に向けた資本政策、株主還元策、適正な財務レバレッジに対する考え方が十分に説明されていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**20**
②社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**10**
③環境に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、温室効果ガス削減の具体的な計画を開示していますか。また、その成果を提示していますか。	**5**
④社会に関する情報・定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。例えば、ダイバーシティや従業員エンゲージメントなどの人的資本に関する情報および、サプライチェーン上の人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。また、その成果を提示していますか。	**5**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	**配点**
・事業を理解する上で重要と思われる、決算以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。［過去1年間を目安に評価］ 【充実していた会合等名をコメント欄に記入して下さい】	**10**

商社専門部会委員

部　会　長	成田　康浩	野村證券
部会長代理	森本　　晃	SMBC 日興証券
	永野　雅幸	大和証券
	藤岡　哲也	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
	水野　加奈子	みずほ証券

評価実施アナリスト（17 名）

五百旗頭 治郎	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券	永野　雅幸	大和証券
大畠　彰雄	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	成田　康浩	野村證券
栗原　英明	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ･ﾗﾎﾞ	広川　孝一	JP ﾓﾙｶﾞﾝ･ｱｾｯﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
五老　晴信	UBS 証券	藤岡　哲也	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
齊藤　博之	水戸証券	堀内　敏成	QUICK
醒井　周太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	水野　加奈子	みずほ証券
白川　祐	ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	森本　晃	SMBC 日興証券
竹川　克彦	三井住友ﾄﾗｽﾄ･ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山口　啓朗	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
戸田　浩司	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

小売業

1．評価対象企業（22 社）

【百 貨 店】（4 社）

J.フロントリテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、高島屋、丸井グループ

【総合小売・コンビニエンスストア】（3 社）

セブン&アイ･ホールディングス、
パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、イオン

【ネット通販】（3 社）

アスクル、MonotaRO、ZOZO

【専 門 店】（12 社）

エービーシー･マート、マツキヨココカラ＆カンパニー、ツルハホールディングス、
良品計画、スギホールディングス、アシックス、しまむら、ケーズホールディングス、
ヤマダホールディングス、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、
サンドラッグ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	34
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	4	19
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	4	14
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	25
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	8
計		17	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 31 名（所属先 23 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**を中心に項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.4 点（昨年度 70.5 点）、総合評価点の標準偏差は 11.0 点（昨年度 10.7 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4 社）：79.1 点（昨年度 79.6 点）、総合小売・コンビニ

エンスストア（3 社）：74.3 点（昨年度 74.1 点）、ネット通販（3 社）：68.6 点（昨年度 70.2 点）、専門店（12 社）：68.3 点（昨年度 67.0 点）となった。専門店においては、一部の企業が高得点となったため、同業態の総合評価平均点は改善したが、評価対象企業間の総合評価点の差は依然として大きく、下位評価企業においては一層の改善努力を求めたい。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 70%（昨年度同率）、**説明会等**が 79%（昨年度同率）、**フェア･ディスクロージャー**が 85%（昨年度同率）、**ESG 関連**が 67%（昨年度 65%）、**自主的情報開示**が 51%（昨年度 46%）となった。

④　評価項目について見ると、平均得点率 80%以上の評価項目は 6 項目となり、そのうち 85%以上は次の 5 項目（**説明会等**の中の 2 項目(a)(b)および**フェア･ディスクロージャー**の中の 3 項目(c)(d)(e)）であった。

(a)「月次の売上状況は、十分に開示されていますか」（平均得点率 87%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：10%未満 1 社・50%台 1 社・70%台 2 社・80%台 4 社・90%台 9 社・100%5 社）

(b)「各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか」（平均得点率 88%〔昨年度同率〕）（得点率：50%台 1 社・60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 3 社・90%台 15 社）

(c)「経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか」（平均得点率 89%〔昨年度同率〕）（得点率：70%台 1 社・80%台 8 社・90%台 13 社）

(d)「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか」（平均得点率 93%〔昨年度同率〕）（得点率：30%台 1 社・80%台 2 社・90%台 12 社・100%7 社）

(e)「英文による情報提供は充実していますか」（平均得点率 85%〔昨年度 84%〕）（得点率：50%台 2 社・70%台 9 社・100%11 社）

⑤　一方、次の**自主的情報開示**の項目は、50%台となり、全 17 項目の中で最も低い水準であった。

・「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベント等を積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」（平均得点率 51%〔昨年度 46%〕）（得点率：10%台 1 社・20%台 6 社・30%台 3 社・50%台 4 社・60%台 4 社・70%台 2 社・80%台 2 社）

(2)　上位３企業の評価概要

第 1 位　アシックス（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 2 回目〕、総合評価点 88.3 点〔昨年度比＋3.7 点〕

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉90%）、**自主的情報開示**（89%）が第 1 位、**説明会等**が同得点第 2 位（88%）、**ESG 関連**が第 3 位（83%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 6 位（95%）となった。昨年度に比べ、**フェア･ディスクロージャー**を除く 4 項目において得点率が改善した。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」が共に最も高い評価となった。また、「経営陣の IR 姿勢（2 項目計）」（第 2 位）も 90%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において第 1 位となった。これらに関連して、経営トップが IR 活動を重視し、投資家との対話で得られた意見や知見を経営や情報開示、IR 活動に積極的に反映している点を評価する声が寄せられた。また、IR 活動への姿勢が常に進化していることに加え、個人投資家向けイベントの開催などを通じて幅広いステークホルダーに対する情報開示の充実を図っている点を評価する声があった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価となり、「決算情報開示」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、決算説明会やインタビューにおいて、経営陣が質問に対して丁寧かつ真摯に対応するとともに、質疑応答の質が高く、解像度の高い情報開示や適時開示への取り組みが優れている点を評価する声が寄せられた。「月次の売上状況が、十分に開示されていること」は第 21 位であった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていること」および「外国人投資家向け情報提供」が共に満点となった。また、「決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」（同得点第 5 位）および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第 7 位）も共に 90%以上の得点率であった。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」が第 2 位となった。また、「ESG に関する取組み」(3 項目）は、「ESG に関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていること。また、企業価値関連性への言及は十分であること」および「人的資本に関する項目」が第 3 位となったほか、「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること。また、企業価値関連性への言及が十分であること」は第 6 位であった。これらに関連して、本業と経営理念、ESG への取り組みが一貫しており、それらが企業価値向上につながっていることを分かりやすく示している点を評価する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベント等を積極的に実施し、その内容が充実していること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、IR DAY および海外拠点ツアーの定期的な開催や個人投資家向けの説明会を全国的に展開している点を高く評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　良品計画　（総合評価点 84.7 点〔昨年度比＋1.7 点〕、昨年度第 3 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（88%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 2 位（96%）、**自主的情報開示**（84%）が第 2 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（83%）、**ESG 関連**が第 5 位（78%）となった。昨年度に比べ、**フェア･ディスクロージャー**を除く 4 分野において得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR の基本スタンス」が第 2 位、「IR 部門の機能」は同得点第 2 位にとなった。これらに関連して、IR チームの充実した体制を評価する声があった。また、「経営陣の IR 姿勢（2 項目計)」は第 3 位となった。これに関連して、経営トップが説明会やスモールミーティングに積極的に参加するなど、IR 活動への関与を強めているほか、投資家との対話を重視し、その結果を迅速に情報開示へ反映するとともに、機動的かつ丁寧なコミュニケーションを実践している点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「決算情報開示」が同得点第 1 位となった。これに関連して、質・量ともに優れた情報開示を継続的に改善している点を評価する声があった。また、「説明会、インタビューにおける開示」が第 3 位となった。これに関連して、高いレベルの質疑応答が行われているほか、投資家目線に立った分かりやすく納得感のある説明がなされている点を評価する声が寄せられた。なお、品目別・地域別のさらなる詳細な情報開示を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていること」および「外国人投資家向け情報提供」が共に満点となった。また、「決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していること」(同得点第 3 位）および「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 7 位）も共に 90%以上の得点率であった。なお、説明会等の日程について、他社との重複を避けるなど、投資家への配慮を期待する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「ESG に関する取組み」(3 項目）のうち「ESG に関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていること。また、企業価値関連性への言及が十分であること」が同得点第 3 位となったほか、「人的資本に関する項目」は第 4 位であった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベント等を積極的に実施し、その内容が充実していること」は第 2 位となった。充実していたイベントとして、商品展示会やコロナ禍後初の海外での IR イベントを挙げる声が多く寄せられた。

第 3 位　三越伊勢丹ホールディングス　（総合評価点 84.2 点〔昨年度比－0.2 点〕、昨年度第 2 位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（86%）、**説明会等**（88%）、**フェア･ディスクロージャー**（96%）が同得点第 2 位、**ESG 関連**が第 4 位（81%）、**自主的情報開示**が第 9 位（58%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢（2 項目計)」が最も高い評価となった。これに関連して、経営トップが IR 活動に積極的に関与し、経営戦略や施策の狙いを投資家に分かりやすく発信しているほか、説明会資料に「直近の対話における主な論点と情報」を掲載するなど、投資家との対話で得られた意見や知見を IR 活動や情報開示へ反映する姿勢、さらには投資家目線を意識したコミュニケーションを通じて中長期的

な企業価値向上への期待を高めているとの声が寄せられた。また、「IR の基本スタンス」は第 4 位に、「IR 部門の機能」は第 5 位となった。これらに関連して、IR チームの充実した体制と、質・量ともに優れた情報開示を実現しているとの声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「決算情報開示」が同得点第 1 位となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は第 2 位となった。これに関連して、決算説明会等において質疑応答のレベルが高いとの声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「外国人投資家向け情報提供」が共に同得点第 1 位となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」（2 項目計）も同得点第 3 位となり、90%以上の得点率であった。これらに関連して、月次リリースにおいて国内顧客売上高と海外顧客売上高の内訳開示を開始したことや、説明会における質疑応答の内容を詳細に開示している点を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示」の得点率が、昨年度に比べ大きく改善し、最も高い評価となった（昨年度同得点第 1 位）。また、「ESG に関する取組み」（3 項目計）は同得点第 5 位となった。これらに関連して、KPI 目標や資本政策に関する詳細な説明を評価する声が寄せられた。なお、資本政策、株主還元策等に関する説明と比較すると、ESG 関連情報の開示についてはさらなる充実を望む声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、ESG 説明会以外の IR イベント等を積極的に実施し、その内容が充実していること」は第 9 位となった。充実していたイベントとして、事業説明会を挙げる声が寄せられた。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（小売業）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 34点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目4（配点 19点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目4（配点 14点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 25点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 8点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7936　アシックス	88.3	30.5	1	16.7	2	13.3	6	20.7	3	7.1	1	1
2	7453　良品計画	84.7	28.3	3	16.8	1	13.4	2	19.5	5	6.7	2	3
3	3099　三越伊勢丹ホールディングス	84.2	29.3	2	16.7	2	13.4	2	20.2	4	4.6	9	2
4	9983　ファーストリテイリング	82.9	27.9	4	15.0	13	13.6	1	21.3	2	5.1	6	6
5	8252　丸井グループ	82.7	26.1	6	15.9	7	13.4	2	21.5	1	5.8	4	4
6	7532　パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	80.2	26.9	5	16.0	6	12.9	10	18.1	7	6.3	3	8
7	3086　J. フロント リテイリング	77.2	24.5	7	15.7	8	13.2	7	18.9	6	4.9	7	5
8	3382　セブン＆アイ・ホールディングス	73.3	22.5	16	14.7	15	12.7	11	17.9	8	5.5	5	9
9	8233　高島屋	71.9	23.9	12	15.5	10	12.0	13	16.1	12	4.4	10	13
9	8227　しまむら	71.9	24.2	11	16.6	4	11.7	14	15.0	17	4.4	10	10
11	2678　アスクル	71.4	23.8	13	15.2	12	13.0	8	16.5	11	2.9	13	7
12	8267　イオン	70.1	21.4	18	13.8	18	13.0	8	17.0	10	4.9	7	11
13	8282　ケーズホールディングス	69.1	24.4	8	16.4	5	11.3	16	15.2	13	1.8	19	12
14	3064　MonotaRO	68.4	24.4	8	15.5	10	11.7	14	14.5	19	2.3	16	15
15	7649　スギホールディングス	67.0	24.4	8	14.8	14	10.2	20	15.2	13	2.4	14	18
16	3088　マツキヨココカラ＆カンパニー	66.9	22.9	15	14.0	17	10.6	18	17.2	9	2.2	17	14
17	3092　ＺＯＺＯ	66.4	23.7	14	13.2	19	13.4	2	14.8	18	1.3	22	17
18	3391　ツルハホールディングス	66.2	21.0	19	15.6	9	12.1	12	15.1	15	2.4	14	19
19	9989　サンドラッグ	63.9	22.3	17	14.6	16	10.9	17	14.4	20	1.7	21	20
20	9831　ヤマダホールディングス	60.6	20.1	20	13.2	19	10.4	19	15.1	15	1.8	19	21
21	9843　ニトリホールディングス	49.5	13.8	22	11.1	22	7.5	22	13.0	21	4.1	12	22
22	2670　エービーシー・マート	43.5	13.9	21	12.2	21	8.6	21	6.8	22	2.0	18	23
	評価対象企業評価平均点	71.42	23.69		14.98		11.96		16.74		4.05		

2026年度の具体的評価項目および配点（小売業）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（34点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のIR姿勢		
①経営トップがIR活動に理解を示し、企業価値向上につながるよう注力していますか。また、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かしていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**9**	
②経営陣は、キャピタルアロケーションや資本政策について、具体的・納得性のある方針を示していますか。	**5**	
(2)IR部門の機能		
・IR部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、IR部門が経営陣の代弁者として有益なディスカッションができますか。	**9**	
(3)IRの基本スタンス		
・当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョン・事業リスクを含め、業績の好不調や不祥事の有無にかかわらず、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	**11**	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（19点）	**配点**	**委員のみ**
(1)説明会、インタビューにおける開示		
・決算説明会、インタビュー等における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**6**	
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示　〔以下①②については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する〕		
①実績および次期事業計画について、決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていますか。また、セグメント分類をはじめ会計方針等の変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	**8**	
②月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	**2**	
(3決算情報開示		
・各四半期決算（本決算・中間決算を含む）発表後、電話会議や補足資料などを通じて速やかに業績動向が把握できるようにしていますか。また、説明会の日程等に十分配慮していますか。	**3**	
3．フェア・ディスクロージャー（14点）	**配点**	**委員のみ**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
・経営陣がメディアを含む総合的な情報開示や取材対応等につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	**3**	
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供		
①決算説明会等の内容（質疑応答を含む）を迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	**5**	
②リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供を行っていますか。	**2**	
(3)外国人投資家向け情報提供		
・英文による情報提供は充実していますか。（0～4点の整数で評価）	**4**	●
4．ESGに関連する情報の開示（25点）	**配点**	**委員のみ**
(1)ESGに関する取組み		
①ESGに関する十分なデータ、目標達成に向けての具体的な戦略、および進捗状況が開示されていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか。	**6**	
②ESGに関する取組みについて、統合報告書や説明会等（社外取締役との対話を含む）を通じて、市場関係者の理解を得るように努めていますか。また、企業価値関連性への言及は十分ですか。	**6**	
③人的資本に関する課題、サプライチェーンの環境・人権リスクやその対応方針を積極的に開示していますか。その進捗状況や経営戦略との関係性、企業価値関連性を適切に説明していますか。	**6**	
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策等の開示		
・中期経営戦略や長期ビジョンを公表し、株主還元策や資本政策（資本コスト・リターン）、経営目標等を具体的かつ納得性の高い数値で示していますか。	**7**	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（8点）	**配点**	**委員のみ**
・決算説明会、ESG説明会以外のIRイベント等を積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。［過去1年間を目安に評価］【充実していたIRイベント等名をコメント欄に記入して下さい】	**8**	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

小売業専門部会委員

部　会　長	小場　啓司	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
部会長代理	高橋　俊雄	みずほ証券
	江上　　誠	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	風早　隆弘	UBS 証券
	金森　　都	SMBC 日興証券
	西村　俊一	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	村田　大郎	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

評価実施アナリスト（31 名）

有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券	須藤　翼	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
井上　昂洋	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券	高田　訓弘	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
江上　誠	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	高橋　俊雄	みずほ証券
大場　剛平	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	竹村　淳郎	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
風早　隆弘	UBS 証券	田村　真一	極東証券経済研究所
金森　都	SMBC 日興証券	竹間　雅子	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
金森　淳一	岡三証券	永田　和子	QUICK
岸本　晃知	みずほ証券	仲西　恭子	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
高　英詞	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	西村　俊一	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
小場　啓司	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	古川　藍	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
榮　哲史	野村證券	村田　大郎	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
坂田　喜彦	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山岡　久紘	野村證券
重岡　絵美里	大和証券	横山　雄一	三菱 UFJ 信託銀行
篠崎　真紀	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社	米島　慶一	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
島原　陸也	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	李　　想	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
須ケ間　大樹	日本生命保険		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

銀　行

1．評価対象企業（13 社）

【主要銀行】（5 社）

三菱 UFJ フィナンシャル･グループ、りそなホールディングス、
三井住友トラストグループ、三井住友フィナンシャルグループ、
みずほフィナンシャルグループ

【地方銀行】（7 社）

しずおかフィナンシャルグループ、めぶきフィナンシャルグループ、
横浜フィナンシャルグループ、西日本フィナンシャルホールディングス、
千葉銀行、群馬銀行、ふくおかフィナンシャルグループ

【専門銀行】（1 社）

ゆうちょ銀行

（証券コード協議会銘柄コード順）

2．評価方法等

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	5	25
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	6	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	12
計		17	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 21 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3．評価結果

(1) **総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、主に **ESG 関連**の項目数・内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 81.6 点（昨年度 79.1 点）、総合評価点の標準偏差は 5.1 点（昨年度 4.9 点）であった。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 80%（昨年度同率）、**説明会等**が 83%（昨年度 80%）、**フェア･ディスクロージャー**が 83%（昨年度 79%）、**ESG 関連**が 82%（昨年度 79%）、**自主的情報開示**が 82%（昨年度 77%）となった。

③ 評価項目（全 17 項目）について見ると、次の 12 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 1 項目(a)、**説明会等**の中の 4 項目(b)･(c)･(d)･(e)、**フェア・ディスクロージャー**の項目(f)、**ESG 関連**の中の 4 項目(g)･(h)･(i)･(j)、

自主的情報開示の 2 項目(k)・(l)が、平均得点率で 80%以上となり、高水準であった。

(a) 「IR 部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか」(平均得点率 83%〔昨年度 81%〕)(得点率(評価点／配点<以下省略>):60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 9 社・90%台 1 社)
(b) 「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか」(平均得点率 82%〔昨年度 78%〕)(得点率:70%台 2 社・80%台 11 社)
(c)「事業セグメント別･プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか」(平均得点率 85%〔昨年度 82%〕)(得点率:70%台 2 社・80%台 10 社・90%台 1 社)
(d)「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか」(平均得点率 85%〔昨年度 82%(得点率:70%台 2 社・80%台 9 社・90%台 2 社)
(e)「決算の説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか」(平均得点率 85%〔昨年度 82%〕)(得点率:70%台 2 社・80%台 10 社・90%台 1 社)
(f)「イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率 83%〔昨年度 79%〕)(得点率:70%台 3 社・80%台 8 社・90%台 2 社)
(g)「資本政策(資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む)、成長投資、株主還元策が十分に説明されていますか」(平均得点率 82%〔昨年度 79%〕)(得点率:60%台 2 社・70%台 2 社・80%台 8 社・90%台 1 社)
(h)「中・長期経営計画(市場目線に即した ROE など目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか」(平均得点率 85%〔昨年度 78%〕)(得点率:70%台 2 社・80%台 10 社・90%台 1 社)
(i)「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか」(平均得点率 91%〔昨年度 84%〕)(得点率:80%台 2 社・90%台 11 社)
(j)「社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」(平均得点率 81%〔昨年度 77%〕)(得点率:60%台 2 社・70%台 1 社・80%台 9 社・90%台 1 社)
(k)「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施していますか。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか」(平均得点率 82%〔昨年度 73%〕)(得点率:60%台 1 社・70%台 2 社・80%台 8 社・90%台 2 社)
(l)「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか」(平均得点率 82%〔昨年度 80%〕)(得点率:70%台 4 社・80%台 7 社・90%台 2 社)

(2) 上位３企業の評価概要

第１位　三井住友フィナンシャルグループ （ディスクロージャー優良企業（3 回連続 7 回目)、総合評価点 88.2 点〔昨年度比＋2.5 点〕)

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**(得点率〈以下省略〉87%)、**説明会等**(87%)、**ESG 関連**(89%)、**自主的情報開示**(90%)が第 1 位、**フェア･ディスクロージャー**が第 2 位(90%)となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善した。
② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能・姿勢」が最も高い評価(91%)となった。これに関連して、少人数ながら質の高い IR 活動を展開しており、市場から説明を求められている事項を網羅的に開示するとともに、取材時にも十分な説明を行っている点を評価する声が寄せられた。また、IR 部門と経営陣の距離が近く、必要な情報が十分に集積されていることから、有意義な対話が可能である点や、国内有数の IR 体制に加え海外 IR も充実している点を評価する声があった。また、「経営陣の IR 姿勢」(88%)も最も高い評価とな

った。これに関連して、経営トップが決算説明会や各種開示を通じて経営方針を明確に発信し、市場から説明を求められている事項を網羅的かつ定量的に分かりやすく説明している点を評価する声が寄せられた。また、国内外の投資家との対話に積極的に取り組み、市場との活発なコミュニケーションを実践している点を評価する声があった。なお、資本活用や海外戦略に関するさらなる説明の充実を望む声もあった。このほか、「IR の基本スタンス」に関連して、自社の課題やネガティブな情報についても積極的に開示し、高い透明性を確保している点を評価する声があった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示（連・短の両決算）」の 4 項目のうち、「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」が最も高い評価となり、「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」および「事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていること」も同得点第 1 位となった。また、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」も最も高い評価となった。これらに関連して、説明会や決算説明資料を通じて網羅的かつ継続的に丁寧な説明が行われているほか、グループ構造や資本管理の分かりやすい説明、中期経営計画期間における部門別利益見通しのウォーターフォール形式での開示、KPI を積極的に設定・開示する姿勢を評価する声が寄せられた。また、情報開示全般が充実している点を評価する声があった。なお、業務粗利益や経費のエンティティ別開示、主要子会社の PL・BS 開示、アジア出資先会社の四半期業績開示、Inorganic 投資に関する情報開示のさらなる充実を望む声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は第 2 位となった。これに関連して、市場から求められている情報を迅速かつ正確に開示していることに加え、イベントのリモート開催、動画配信、質疑応答のトランスクリプト提供、英文開示など、公平な情報提供に十分配慮している点を評価する声が寄せられた。

⑤　**ESG 関連**においては、6 項目全てについて最も高い評価（同得点第 1 位を含む。）となった。これらに関連して、ESG に関する幅広いテーマについて丁寧な情報開示を行っている点を評価する声があった。また、人材戦略説明会の開催や、社会的価値の創造を含むサステナビリティに関する積極的な情報開示と取組みを評価する声が寄せられた。さらに、これらの取組みは市場からより高く評価されるべきとの声もあった。

⑥　**自主的情報開示**においては、2 項目共に同得点第 1 位となった。充実していたイベントとして、IR Day を挙げる声が多かった。社外取締役が参加したサステナビリティ説明会や人的資本経営に関する説明会を評価する声もあった。また、充実していた資料として、統合報告書を挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　三菱ＵＦＪフィナンシャル･グループ　（総合評価点 86.8 点〔昨年度比＋2.4 点〕、昨年度第 2 位）

①　同社は、**フェア･ディスクロージャー**が第 1 位（92%）、**経営陣の IR 姿勢等**（85%）、**説明会等**（86%）、**ESG 関連**（87%）が第 2 位、**自主的情報開示**が同得点第 2 位（89%）となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善した。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 2 位となった。これに関連して、市場が求める情報が網羅的に開示されており、経営陣による明快で分かりやすい説明や、経営トップが投資家の声を踏まえて柔軟にメッセージを見直す姿勢、新社長および CFO による安定感のある説明を評価する声が寄せられた。なお、事業ポートフォリオ改革や資本配分に関する説明のさらなる充実を望む声があった。「IR 部門の機能・姿勢」も同得点第 2 位となった。これに関連して、市場が求める情報が網羅的に開示され、取材時にも十分な説明がなされていることに加え、充実した IR 体制と高い投資家コミュニケーション力を評価する声が寄せられた。なお、IR 部門の人員体制は充実している一方、他のメガバンクと比較して責任者の任期がやや短いとの指摘があった。

③　**説明会等**においては、5 項目全ての得点率が改善した。このうち、「説明会、インタビューにおける開示（連・短の両決算）」の 4 項目については、「主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況が十分に説明されていること」が最も高い評価となったほか、「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」が同得点第 2 位となった。また、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」も同得点第 2 位となった。これらに関連して、決

算説明会資料やディスクロージャー誌は業界内でも充実度が高く、説明会や資料を通じて網羅的かつ継続的に丁寧な情報開示が行われていることに加え、子会社・関係会社の損益やグループ業績への寄与に関する分かりやすい説明を評価する声が寄せられた。細かな開示を維持しながら大括りの視点で理解しやすい説明の工夫を評価する声もあった。なお、業務粗利益や経費のエンティティ別開示、主要子会社の PL・BS 開示のさらなる拡充を望む声があった。また、決算説明会資料については継続性がある一方で、四半期ごとの特徴や戦略の進捗、将来への期待感がより伝わる説明の充実を望む声もあった。このほか、部門別開示や資本配賦に関するさらなる高度化を望む声や、アジア戦略における定性的な内容も含めた定期的なアップデートを望む声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は最も高い評価となった。これに関連して、市場から求められる内容について、迅速かつ正確な情報開示が行われていることに加え、リモート開催、動画配信、質疑応答のトランスクリプト提供、英文開示などを通じた公平な情報提供への十分な配慮を評価する声が寄せられた。なお、質疑応答（Q&A）トランスクリプトのより早期の開示を望む声があった。

⑤　**ESG 関連**においては、昨年度と比較可能な 5 項目中 4 項目について得点率が改善した。このうち、「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分な説明がなされていること」は同得点第 1 位、「人的資本に関する情報開示」が第 2 位、「資本政策、株主還元策の開示」および「目標とする経営指標等」は同得点第 2 位となった。このほか、「社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていること。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」は同得点第 2 位であった。これらに関連して、ESG に関する開示は、環境・社会・ガバナンスの各要素を幅広く網羅し、サステナビリティレポートを含めて充実かつ丁寧な情報開示が行われていることを評価する声があった。Human Capital Report 2025 は分かりやすく、人的資本に関する開示の充実を評価する声や、日英同時開催を含む社外取締役との対話機会の取り組みを評価する声が寄せられた。なお、社外取締役とより踏み込んだ対話を期待する声があった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えること」が同得点第 1 位、「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施すること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」は第 3 位となった。充実していたイベントとして、Investors Day を挙げる声が多くあった。また、充実していた資料として、統合報告書を挙げる声が多く寄せられた。

第 3 位　みずほフィナンシャルグループ（総合評価点 85.8 点〔昨年度比＋3.0 点〕、昨年度第 4 位）

①　同社は、**自主的情報開示**が同得点第 2 位（89%）、**説明会等**（85%）、**フェア・ディスクロージャー**（88%）、**ESG 関連**（87%）が第 3 位、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 4 位（84%）となった。昨年度に比べて、5 分野のうち**経営陣の IR 姿勢等**を除く 4 分野において得点率が改善した。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 2 位となった。これに関連して、経営トップが市場との距離を縮めながら対話を深め、市場から求められる内容を網羅的に説明していることを評価する声が寄せられた。また、自社の特長や強みを踏まえた成長戦略が分かりやすく示されていることを評価する声や、説明の軸が明確で一貫性を持ちながらニュアンスも含めて伝えるコミュニケーション力を評価する声があった。このほか、経営改革の進捗について継続的な情報発信を行い、透明性向上への姿勢が定着していることを評価する声や、経営陣と IR 部門の連携が良好であり、投資家との対話を重視した情報発信を評価する声も寄せられた。「IR 部門の機能・姿勢」は第 4 位となった。これに関連して、市場から求められる内容が網羅的に開示され、取材時にも十分な説明が行われていることを評価する声があった。また、IR 部門の企業価値向上や市場評価改善に対する高い意識を評価する声や、IR 部門と経営陣の距離が近く、十分な情報が集積されていることで、投資家との有意義な対話が実現していることを評価する声が寄せられた。なお、説明内容そのものは有益であるものの、情報の説明の仕方についてさらなる充実を望む声があった。「IR の基本スタンス」に関連して、経営陣が IR 活動に積極的に取り組み、ネガティブな情報についても積極的に開示する高い透明性と信頼性を評価する声があった。また、自社の強みの説明に加え、リスク要因に関する説明のさらなる充実を望む声もあった。

③　**説明会等**においては、5 項目中 4 項目の得点率が改善した。「説明会、インタビューにおける開示（連・短の

両決算)」のうち「投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていること」が同得点第1位、「事業セグメント別・プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていること」が同得点第2位となった。また、「説明会資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が同得点第2位となった。これらに関連して、説明会や決算説明資料において、継続的かつ丁寧な説明が行われるとともに、詳細なデータまで開示されていることを評価する声が寄せられた。また、自社の強みを分かりやすく訴求する構成や、資本配分およびCET1運営方針に関する明確な説明を評価する声があった。なお、業務粗利益や経費のエンティティ別開示、事業別データのさらなる拡充を望む声や、自社の差別化要因について実績数値を用いたより具体的な説明を望む声があった。このほか、戦略投資について納得感のある定量的な説明の充実を望む声や、競争が激化するマスリテール領域における経営戦略について、より詳細な説明を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていること。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示が、遅滞なく、十分に行われていること」は第3位となった。これに関連して、市場から求められる内容について、迅速かつ正確な情報開示が行われていることを評価する声が寄せられた。また、イベントのリモート開催、動画配信、質疑応答トランスクリプト提供、英文開示などを通じて、公平な情報提供に十分配慮していることを評価する声があった。なお、質疑応答（Q&A）トランスクリプトのより早期の開示を望む声もあった。

⑤　**ESG関連**においては、昨年度と比較可能な5項目中4項目について得点率が改善した。このうち、「コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分な説明がなされていること」が同得点第1位、「資本政策、株主還元策の開示」、「目標とする経営指標等」および「社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていること。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていること」は同得点第2位、「人的資本に関する情報開示」は同得点第3位となった。このほか、「環境・社会に関する情報開示」は第2位であった。これらに関連して、ESGに関する情報開示について、環境・社会・ガバナンスの全ての要素を網羅し、丁寧な開示が行われていることを評価する声が寄せられた。また、社外取締役ミーティングや社外取締役パネルディスカッションにおいて、興味深い論点が提示され、有益な対話の機会が提供されていることを評価する声があった。このほか、人的資本レポートで示されている企業風土改革が着実に進展していることを評価する声に加え、さらに積極的な情報発信を望む声もあった。また、資本政策や経営目標に関する説明の充実度を評価する声があった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施すること。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていること」が同得点第1位となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。「統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えること」は第3位となった。充実していたイベントとしては、MIZUHO IR Day 2025を挙げる声が多く寄せられた。特に、部門横断的な視点から複数のカンパニー長が事業戦略を説明するなど、事業ごとの戦略が理解しやすい運営上の工夫を評価する声が寄せられた。また、充実していた資料としては、統合報告書を評価する声が多く寄せられた。特に、ビジネスポートフォリオ変革、CIB強化、人的資本投資、GX/DX戦略の進捗など、長期的な経営課題への取組みと成果を分かりやすく説明している点を評価する声があった。

以　上

2026年度 ディスクロージャー評価比較総括表 （銀行）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 25点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目5（配点 25点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目6（配点 33点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 12点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8316　三井住友フィナンシャルグループ	88.2	21.8	1	21.8	1	4.5	2	29.3	1	10.8	1	1
2	8306　三菱UFJフィナンシャル・グループ	86.8	21.3	2	21.6	2	4.6	1	28.6	2	10.7	2	2
3	8411　みずほフィナンシャルグループ	85.8	20.9	4	21.2	3	4.4	3	28.6	2	10.7	2	4
4	5831　しずおかフィナンシャルグループ	83.6	20.9	4	21.0	5	3.9	11	27.7	4	10.1	4	6
5	7186　横浜フィナンシャルグループ	83.5	20.8	6	21.1	4	4.2	6	27.4	5	10.0	5	3
6	8331　千葉銀行	81.6	19.9	9	20.7	8	4.1	7	27.1	7	9.8	6	10
7	8334　群馬銀行	81.4	21.1	3	20.8	7	4.3	4	25.9	10	9.3	10	5
8	8309　三井住友トラストグループ	81.1	19.2	10	20.6	9	4.3	4	27.2	6	9.8	6	8
9	7167　めぶきフィナンシャルグループ	80.6	20.2	7	20.2	11	4.1	7	26.5	9	9.6	9	7
10	8308　りそなホールディングス	80.0	18.9	11	20.6	9	4.0	10	26.8	8	9.7	8	9
11	7182　ゆうちょ銀行	79.8	20.2	7	20.9	6	4.1	7	25.7	11	8.9	11	11
12	7189　西日本フィナンシャルホールディングス	72.3	18.5	12	19.1	12	3.7	12	23.0	13	8.0	13	12
13	8354　ふくおかフィナンシャルグループ	70.4	16.1	13	18.9	13	3.7	12	23.1	12	8.6	12	13
	評価対象企業評価平均点	81.60	20.03		20.70		4.17		26.90		9.80		

2026年度の具体的評価項目および配点（銀行）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス （25点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会、統合報告書等において経営方針等を十分に説明していますか。IR部門と十分にかつ双方向で情報を共有していますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**12**
(2)IR部門の機能・姿勢	
・IR部門への経営資源の配分は充実していますか。また、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**8**
(3)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報（リスク、不祥事等）や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	**5**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（25点）	**配点**
(1)説明会、インタビューにおける開示(連･単の両決算)	
①投資家の関心に沿った適時適切な開示がされていますか。	**5**
②事業セグメント別･プロダクト別等、財務の分析に必要なデータは、継続性を保つかたちで十分に開示・説明されていますか。	**5**
③事業または財務・規制上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	**5**
④主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・統合・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	**5**
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・決算補足の説明資料は、業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	**5**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
・イベント等のリモート開催、動画配信、質疑応答等のトランスクリプト提供、英文開示等、公平な情報提供に十分な配慮がされていますか。また、投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	**5**
4．ESGに関連する情報の開示（33点）	**配点**
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策（資本コスト、資本配賦、規制対応等を含む）、成長投資、株主還元策が十分に説明されていますか。	**7**
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（市場目線に即したROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	**6**
(3)コーポレート・ガバナンス	
①コーポレートガバナンス・コードについて、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	**3**
②社外取締役の関与について、実効性評価も含め、十分な開示と説明がなされていますか。社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**5**
(4)環境・社会に関する情報開示	
・環境・社会に関する情報、定量目標を開示し、中長期的な取組みを適切に開示していますか。	**6**
(5)人的資本に関する情報開示	
・人的資本に関する情報開示は、経営戦略とリンクする形で十分になされていますか。また、会社独自のKPIや人的資本に関する投資の定量的成果（財務的成果等）について開示がされていますか。	**6**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	**配点**
①決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について、投資家の関心を踏まえて実施していますか。また、その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。［過去1年間を目安に評価］ 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	**6**
②統合報告書、ディスクロージャー誌、説明会などにおいて、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。 【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	**6**

銀行専門部会委員

部　会　長	高宮　　健	野村證券
部会長代理	鮫島　豊喜	SBI 証券
	長坂　美亜	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	藤原　重良	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	松野　真央樹	みずほ証券
	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（21 名）

幾代　孝四郎	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	長坂　美亜	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
今井　雅	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	丹羽　孝一	UBS 証券
上迫　和也	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券	柊　宏二	QUICK
坂田　喜彦	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	藤原　重良	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
坂本　昂平	大和証券	松田　健	大和証券
佐藤　雅彦	SMBC 日興証券	松野　真央樹	みずほ証券
佐野　滉介	第一生命保険	峯嶋　利隆	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鮫島　豊喜	SBI 証券	矢野　貴裕	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
高宮　健	野村證券	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
戸田　浩司	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

保険・証券・その他金融

１．評価対象企業（9 社）

【生保】（3 社）　かんぽ生命保険、第一ライフグループ（注）、T&D ホールディングス
【損保】（3 社）　SOMPO ホールディングス、MS&AD インシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス
【証券】（2 社）　大和証券グループ本社、野村ホールディングス
【その他金融】（1 社）　オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）第一生命ホールディングスが商号を変更した（2026 年 4 月）

２．評価方法等

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	5	30
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	3	32
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	7
計		14	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 17 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、**説明会等**、**フェア･ディスクロージャー**および **ESG 関連**の項目数・内容、配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 72.4 点（昨年度 73.2 点）、総合評価点の標準偏差は、6.4 点（昨年度 6.0 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3 社）が 74.2 点（昨年度 77.0 点）、生保（3 社）が 72.2 点（昨年度 71.6 点）、証券（2 社）が 66.4 点（昨年度 68.8 点）、その他金融（1 社）は 75.5 点（昨年度 75.4 点）となった。昨年度に比べ、生保およびその他金融の得点率が改善した。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 75%（昨年度 74%）、**説明会等**が 72%（昨年度 73%）、**フェア･ディスクロージャー**が 82%（昨年度同率）、**ESG 関連**が 69%（昨年度 74%）、**自主的情報開示**が 73%（昨年度 63%）となった。

④　評価項目について見ると、全 14 項目中、次の 3 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 2 項目（(a) (b)）、**フェア･ディスクロージャー**の中の 1 項目(c)）が 80%以上の平均得点率となり、高い水準となった。

(a)「経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか」（平均得点率82%〔昨年度同率〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉：60%台1社・70%台2社・80%台6社）

(b)「IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか」（平均得点率 80%〔昨年度同率〕）（得点率：60%台2社・70%台2社・80%台4社・90%台1社）

(c)「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていますか」（平均得点率82%〔新規項目〕）（得点率：60%台2社・80%台5社・90%台2社）

⑤　一方、次の項目（**説明会等**の中の1項目）は、平均得点率が50%台となり、低水準であった。
・「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 53%〔昨年度 55%〕）（得点率：30%台3社・40%台1社・50%台2社・80%台2社・90%台1社）

(2)　**上位３企業の評価概要**

<u>第１位　東京海上ホールディングス　（ディスクロージャー優良企業（3回連続８回目）、</u>
<u>総合評価点 78.9 点〔昨年度比－2.4 点〕）</u>

①　同社は、**ESG関連**が第1位（得点率〈以下省略〉77%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第1位（90%）、**経営陣のIR姿勢等**（82%）、**説明会等**（77%）が第2位、**自主的情報開示**が第4位（77%）となった。
②　**経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」、「IR部門の機能」および「IRの基本スタンス」の3項目が最も高い評価（同得点第1位を含む）となった。「社外取締役との対話」は第6位（昨年度第3位）であった。これらに関連して、経営陣の株価や企業価値向上に対する意識の高さを評価する声とともに、他社のキャッチアップを指摘する声が寄せられた。IR部門の機能については、問い合わせに対する迅速な対応など高い対応力を評価する声が寄せられた。
③　**説明会等**においては、5項目のうち4項目が最も高い評価となった。これらに関連して、IR電話会議資料について、シンプルでありながら十分な情報量を備え、グローバル水準の開示を意識している点を評価する声が寄せられた。IFRS移行に伴い、詳細データをExcel形式で開示している点や、収益に関する開示の充実度を評価する声があった。また、「決算発表日、発表」は同得点第8位であった。これに関連して、決算発表日、特に第3四半期決算発表の集中緩和や、投資家の理解促進に配慮した日程設定を望む声が多く寄せられた。
④　**フェア・ディスクロージャー**の「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていること」は同得点第1位となった。これに関連して、日英両言語での情報発信や説明会運営が高い水準で実施されており、公平な情報提供が継続されていることを評価する声が寄せられた。
⑤　**ESG関連**においては、「コーポレートガバナンス」および「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」が最も高い評価となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」は第2位となった。これらに関連して、資本政策や政策保有株式の削減に関する説明が充実しており、進捗開示も分かりやすいことを評価する声が寄せられた。
⑥　**自主的情報開示**の「決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していること」は第4位となった。充実していたイベントとして、IFRS・ICS導入に関する説明会やGroup CEO Small Meetingを挙げる声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　第一ライフグループ（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業、総合評価点 78.0 点〔昨年度比＋0.8 点〕、昨年度第 2 位〔－昨年度第 3 位〕）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（83%）、**自主的情報開示**（87%）が第 1 位、**ESG 関連**が第 2 位（74%）、**説明会等**が第 3 位（75%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（84%）となった。昨年度に比べて、自主的情報開示の得点率が大幅に改善し、第 1 位となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「社外取締役との対話」が最も高い評価（同得点第 1 位を含む）となった。「IR の基本スタンス」は同得点第 2 位、「IR 部門の機能」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、CEO の株価や企業価値向上に対する意識が高く、自ら積極的に投資家訪問を実施していることを評価する声が寄せられた。また、投資家の関心が高いテーマについて、テーマ別スモールミーティングの開催や CFO による FAQ を通じた丁寧な情報発信を評価する声があった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（3 項目計）が第 2 位となった。これに関連して、説明会における CEO・CFO の率直かつ分かりやすい説明や質疑応答を評価する声が寄せられた。また、「決算資料・統合報告書等における開示」は同得点第 2 位になった。「決算発表日、発表時間」に関連して、決算発表日や決算説明会の日程について、特に第 3 四半期決算発表時の集中を回避し、投資家が十分に内容を消化できる環境整備を望む声が多く寄せられた。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていること」は同得点第 3 位となった。これに関連して、説明会資料や質疑応答の開示が充実していることに加え、海外投資家向けの積極的な情報発信を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」が最も高い評価となった。これに関連して、資本政策や中期経営計画の進捗説明は充実しているとの声があった。「コーポレートガバナンス」および「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」が共に第 4 位となった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は最も高い評価（昨年度同得点第 4 位）となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。充実していたイベントとして、事業戦略説明会（国内保障事業・資産形成・承継事業）を挙げる声が多く寄せられた。

同社は、3 回連続して第 2 位または第 3 位の評価を受けたので、**「高水準のディスクロージャーを連続維持している企業」**に選定した。

第 3 位　オリックス（総合評価点 75.3 点〔昨年度比－0.1 点〕、昨年度第 5 位）

① 同社は、**説明会等**が第 1 位（78%）、**ESG 関連**が第 3 位（73%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 3 位（84%）、**経営陣の IR 姿勢等が**第 4 位（78%）**自主的情報開示**が第 7 位（60%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が第 2 位、「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 3 位、「IR の基本スタンス」は第 4 位、「社外取締役との対話」は第 5 位となった。これらに関連して、新社長就任後、株式市場との対話姿勢が強化されていることを評価する声が寄せられた。また、経営陣および IR 部門が積極的な情報開示・情報発信を行い、その時々の重要なトピックについて分かりやすく説明していることを評価する声があった。なお、多角的な事業構成の強みを認識している一方、利益成長のドライバーについては、より分かりやすい説明を望む声もあった。

③ **説明会等**においては、「決算資料・統合報告書等における開示」が同得点第 2 位となった。これに関連して、ここ数年で情報開示の充実が顕著に進展していることを評価する声や、事業別開示が豊富であることを評価する声が寄せられた。なお、キャピタルゲインに関する開示のさらなる充実を望む声もあった。また、「説明会、インタビューにおける開示」（3 項目計）は同得点第 4 位となった。これに関連して、決算ごとに開催されるスモールミーティングが有意義であり、投資家との理解促進や対話の深化に資していることを評価する声が寄せられた。このほか、「決算発表日、発表時間」は同得点第 2 位であった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものであること。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていること」が同得点第 3 位となった。これに関連して、各種の適時開示リリー

スを通じて、適時かつ公平な情報開示が行われていることを評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「コーポレートガバナンス」が第 2 位、「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」が第 3 位、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」は同得点第 3 位となった。これらに関連して、ESG に関する取り組みや非財務情報と、資本政策・企業価値向上とのつながりについて、より分かりやすい説明を望む声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は第 7 位となった。充実していたイベントとして、社外取締役ミーティングを挙げる声が寄せられた。また、新たな取組みとしてロンドンで IR Day が開催された。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（保険・証券・その他金融）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 26点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目5（配点 30点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 32点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 7点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8766　東京海上ホールディングス	78.9	21.4	2	23.0	2	4.5	1	24.6	1	5.4	4	1
2	8750　第一ライフグループ	78.0	21.5	1	22.6	3	4.2	3	23.6	2	6.1	1	2
3	8591　オリックス	75.3	20.3	4	23.3	1	4.2	3	23.3	3	4.2	7	5
4	8795　T&Dホールディングス	73.7	20.6	3	21.5	5	4.0	6	22.1	6	5.5	2	3
5	8725　MS&ADインシュアランスグループホールディングス	72.2	19.4	6	20.7	6	4.0	6	22.6	4	5.5	2	6
6	8630　SOMPOホールディングス	71.6	19.8	5	20.2	7	4.1	5	22.3	5	5.2	6	4
7	8604　野村ホールディングス	70.0	18.4	7	21.9	4	4.5	1	19.9	7	5.3	5	8
8	7181　かんぽ生命保険	61.3	16.0	9	18.5	9	3.2	9	19.9	7	3.7	9	9
9	8601　大和証券グループ本社	61.2	16.1	8	19.4	8	3.4	8	18.3	9	4.0	8	7
	評価対象企業評価平均点	72.39	19.61		21.48		4.08		22.14		5.08		

2026年度の具体的評価項目および配点（保険・証券・その他金融）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	**10**
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**5**
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	**5**
(4)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。例えば、不祥事、気候変動、資産と負債に付随するリスクなど。	**6**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（30点）	**配点**
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別･地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	**10**
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。	**5**
③④決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	**5**
(2)決算資料・統合報告書等における開示	
・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	**5**
(3)決算発表日、発表時間	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	**5**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
・投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。月次開示、説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データを日英両言語で行っていますか。	**5**
4．ESGに関連する情報の開示（32点）	**配点**
(1)コーポレートガバナンス	
・実効性のあるコーポレートガバナンスを確保するための取組みを公表し、市場関係者の理解を得るように努めていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報、社外取締役の選定プロセス、腐敗防止への取組み。	**12**
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示	
・中長期経営計画、資本政策（ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元方針を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていますか。	**12**
(3)Ｅ（環境）・Ｓ（人的資本を含む社会）に関する情報開示	
・Ｅ（環境）およびＳ（人的資本を含む社会）に関する経営戦略にリンクした目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	**8**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（7点）	**配点**
・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。 [過去1年間を目安に評価] 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	**7**

保険・証券・その他金融専門部会委員

部　会　長	村木　正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽　孝一	UBS 証券
	斎藤　佳奈	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	佐藤　耕喜	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	峯嶋　利隆	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	渡辺　和樹	大和証券

評価実施アナリスト（17 名）

板倉　充知	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	戸田　浩司	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
今井　雅	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	丹羽　孝一	UBS 証券
上迫　和也	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
斎藤　佳奈	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	摩嶋　竜生	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ
坂田　喜彦	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	峯嶋　利隆	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
坂巻　成彦	みずほ証券	村木　正雄	SMBC 日興証券
佐藤　耕喜	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐野　滉介	第一生命保険	渡辺　和樹	大和証券
竹村　淳郎	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

ＩＴサービス・ソフトウェア

１．評価対象企業（9 社）

日鉄ソリューションズ、TISI（注）**、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、オービックビジネスコンサルタント、大塚商会、**BIPROGY

（注）TIS が商号を変更した（2026 年 7 月）

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	1	15
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	5
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2)　評価実施アナリストは 17 名（所属先 17 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、一部評価項目の見直しを行ったため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、70.0 点（昨年度 69.8 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 14.5 点（昨年度 14.0 点）となった。なお、個社で見ると、オービックビジネスコンサルタント（＋5.8 点）、オービック（＋4.0 点）の上昇が目立った。

② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 69%（昨年度 67%）、**説明会等**が 78%（昨年度 76%）、**フェア･ディスクロージャー**が 72%（昨年度 75%）、**ESG 関連**が 64%（昨年度 65%）、**自主的情報開示**が 76%（昨年度 75%）となった。

③ 評価項目について見ると、全 11 項目のうち平均得点率が 80%以上のものはなく、8 項目が 70%台となった。そのうち、最も高い平均得点率は、次の**説明会等**の項目であった。

・「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか」（平均得点率 79%〔昨年度 78%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 1 社・70%台 4 社・80%台 3 社・90%台 1 社）

④　一方、**経営陣の IR 姿勢等**の中の次の 1 項目は、平均得点率が 50%台となり、低水準であった。評価対象企業間の得点較差が大きく、下位評価企業の経営陣には、IR 活動への積極的な取組みを強く求めたい。

・「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」（平均得点率 56%〔昨年度 50%〕）（得点率：20%台 2 社・30%台 1 社・40%台 1 社・60%台 3 社・70%台 1 社・80%台 1 社）

⑤　**ESG 関連**の 4 項目のうち、下記の 2 項目（(a)(b)）は、依然として評価対象企業間の得点較差が大きかった。また、(d)は平均得点率が 20%台となり、昨年度に比べ得点率が大きく下がり、全 11 項目のうち、最も低い水準であった。投資家等と社外取締役との対話の重要性が増していることを踏まえ、今後の積極的な取組みを期待したい。

(a)「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか」（平均得点率 66%〔昨年度 73%〕）（得点率：30%台 2 社・40%台 1 社・50%台 1 社・60%台 1 社・80%台 2 社・90%台 2 社）

(b)「資本政策(キャピタルアロケーション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか」（平均得点率 72%〔昨年度 71%〕）（得点率：40%台 2 社・50%台 2 社・70%台 1 社・80%台 2 社・90%台 2 社）

(c)　「非財務情報（人材戦略などの ESG 情報）を統合報告書、ESG 説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか」（平均得点率 70%〔昨年度 67%〕）（得点率：40%台 1 社・50%台 2 社・60%台 2 社・70%台 2 社・80%台 1 社・90%台 1 社）

(d)　「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 26%〔昨年度 34%〕）（得点率：10%台 1 社・20%台 5 社・30%台 2 社・40%台 1 社）

(2)　上位３企業の評価概要

第 1 位　野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業〔10 回連続 18 回目〕、総合評価点 88.6 点〔昨年度比＋1.4 点〕）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉89%）、**説明会等**（88%）、**ESG 関連**（84%）、**自主的情報開示**（86%）が第 1 位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 1 位（100%）となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が同率（満点）または改善した。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」（2 項目）の全ての項目が最も高い評価となった。これらに関連して、決算説明会に加え、各種 IR イベントなどを通じて、経営陣との対話機会が豊富に設けられている点を評価する声や、スモールミーティングの対話内容を積極的に開示している点を評価する声が寄せられた。また、社長自ら中期経営計画や AI 駆動開発方針、海外組織再編などの経営戦略を詳細に説明している点を評価する声があった。IR 部門主催の有益な主要事業に関する説明会として、中期経営計画フォローアップ説明会を挙げる声が多く寄せられた。

③　**説明会等**においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、AI ディスラプションに対する市場の懸念に対し、会社側の説明に説得力があり、事業の競争力や成長性に対する理解を深められる点を評価する声が寄せられた。また、セグメント別かつ国内・海外別の業績推移や変動要因が分かりやすく開示されており、事業動向を把握しやすい点を評価する声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」および「ESG に関する情報の開示」が最も高い評価となったほか、「資本政策、株主還元策の開示」は第 2 位に、「社外取締役との対話」は同得点第 2 位となった。これらに関連して、統合レポートの質が高く、ESG に関する取り組みや考え方を分かりやすく開示している点を評価する声や、配当および自己株取得を含む株主還元方針が明確であり、機動的な資本政策を実施している点を評価する声が寄せられた。また、中期経営計画において AI 関連売上や投資額を開示するとともに、ネット D/E レシオやネット有利子負債 EBITDA 倍率などの財務規律を明示している点を評価する声や、ROE 目標の引上げおよび自己株取得の開示などを評価する声があった。一方、社外取締役のコミットメントを確認できる直接的なコミュニケーションの機会を要望する声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は最も高い評価であった。これに関連して、海外事業における減損の概要や発生背景など、ネガティブな情報を含めた課題事業の状況についても詳細に開示している点を評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　ＴＩＳＩ　（総合評価点 85.2 点〔昨年度比＋0.6 点〕、昨年度第 2 位）

①　同社は、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 1 位（100%）、**経営陣の IR 姿勢等**（81%）、**説明会等**（85%）、**ESG 関連**（83%）、**自主的情報開示**（82%）が第 2 位となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」および「IR 部門の機能」（2 項目）が共に第 2 位となった。これらに関連して、社長自ら中期経営計画や AI 駆動開発方針について詳細に説明しており、経営戦略の発信力が高まっている点を評価する声が寄せられた。また、経営トップとの対話機会が充実している点を評価する声があった。このほか、IR 部門の豊富な経験や説明スキルなどを評価する声もあった。

③　**説明会等**においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が共に第 2 位となった。これらに関連して、顧客業種別売上、外注費、従業員数など、事業実態の理解に資する情報開示が充実している点を評価する声が寄せられた。また、上位顧客別の売上動向について、取材等を通じて詳細な情報提供が行われている点を評価する声があった。なお、中期経営計画における重要セグメントであるオファリングサービスの売上内訳や、粗利率の変動要因や業績下振れの理由について、開示の充実を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。

⑤　**ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」および「社外取締役との対話」が共に最も高い評価となったほか、「目標とする経営指標等」および「ESG に関する情報の開示」が共に第 2 位となった。これらに関連して、統合報告書の質が高く、ESG に関する情報開示が充実している点を評価する声が寄せられた。また、ROE16%目標や EPS 成長率の開示に加え、総還元性向方針を明確に示している点や、中期経営計画における具体的な施策や注力領域の実績推移、予実差について丁寧に開示している点を評価する声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は第 2 位であった。これに関連して、不採算案件や統合に関する説明が充実しており、課題や取り組み状況について丁寧に情報開示している点を評価する声が寄せられた。また、AI 活用戦略や事業環境に関する情報開示を行っている点を評価する声があった一方、AI 活用戦略については、業績への具体的な寄与や効果に関する開示の充実を望む声もあった。

第３位　ＢＩＰＲＯＧＹ（総合評価点 78.0 点〔昨年度比＋2.8 点〕、昨年度第４位）

① 同社は、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第１位（100％）、**ESG 関連**が第３位（73％）、**経営陣の IR 姿勢等**が第４位（73％）、**自主的情報開示**が同得点第４位（74％）、**説明会等**が第５位（78％）となった。昨年度に比べて、５分野のうち**自主的情報開示**を除く４分野において得点率が同率（満点）または改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第３位、「IR 部門の機能」（２項目）が第４位となった。これらに関連して、社長自ら経営戦略や業績動向、経営方針の進捗について丁寧に説明しており、説明会での発信力が高まっている点を評価する声が寄せられた。また、社長が質疑応答に積極的に回答するなど、投資家との対話を重視する姿勢を評価する声があった。なお、経営戦略の実効性を示す KPI の開示充実を望む声もあった。IR 部門主催の有益な主要事業に関する説明会として、リテール事業説明会などを挙げる声があった。

③ **説明会等**においては、「売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が第４位、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること､また変動要因について十分に説明されていること」は第６位となった。これらに関連して、顧客業種別売上や主要費用項目に加え、四半期単体の変動要因についても開示しており、事業状況を把握しやすい点を評価する声が寄せられた。なお、買収したカタリナマーケティングジャパンに関する情報開示の更なる充実や、注力領域（コア事業・成長事業）における対象をより明確に絞り込んだ説明を望む声があった。このほか、AI 活用による効果や業績への貢献について、定量的な情報開示の充実を望む声や、自社主催の事業説明会の開催機会の拡充を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**の「四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認できること」は、満点評価となった。

⑤ **ESG 関連**においては、「目標とする経営指標等」および「ESG に関する情報の開示」は第３位となったほか、「資本政策、株主還元策の開示」は第４位に、「社外取締役との対話」は第５位となった。これらに関連して、資本政策（キャピタル・アロケーション）の計画や進捗状況を説明会資料に参考情報として掲載している点を評価する声が寄せられた。なお、社外取締役のコミットメントを確認できる直接的なコミュニケーションの機会を要望する声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」は、同得点第４位であった。これに関連して、M&A に関する情報について、迅速かつ十分な開示を望む声があった。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（ITサービス・ソフトウェア）

（単位：点）

順位	評価項目 ＼ 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 30点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目1（配点 15点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 5点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4307　野村総合研究所	88.6	26.6	1	17.6	1	15.0	1	25.1	1	4.3	1	1
2	3626　TISI	85.2	24.2	2	17.0	2	15.0	1	24.9	2	4.1	2	2
3	8056　ＢＩＰＲＯＧＹ	78.0	21.9	4	15.5	5	15.0	1	21.9	3	3.7	4	4
4	2327　日鉄ソリューションズ	77.3	22.3	3	15.7	4	15.0	1	20.7	4	3.6	7	5
5	4704　トレンドマイクロ	73.9	21.5	5	15.1	6	15.0	1	18.3	5	4.0	3	6
6	4733　オービックビジネスコンサルタント	61.4	19.9	6	16.1	3	7.0	7	14.7	7	3.7	4	8
7	4716　日本オラクル	55.3	13.6	9	12.1	9	15.0	1	11.3	9	3.3	9	―
8	4768　大塚商会	52.4	17.3	7	14.4	8	0.0	8	17.1	6	3.6	7	9
9	4684　オービック	50.3	17.0	8	14.9	7	0.0	8	14.7	7	3.7	4	10
	評価対象企業評価平均点	70.02	20.82		15.53		10.78		19.08		3.81		

2026年度の具体的評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス （30点）	**配点**	**委員のみ**
(1)経営陣のIR姿勢		
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**	
(2)IR部門の機能		
①経営陣がIR対応組織を整備し、IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	**10**	
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。 【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	**10**	
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**	**委員のみ**
①売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメントの分類は的確であり、変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	**10**	
②顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客の動向などが十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	**10**	
3．フェア・ディスクロージャー（15点）	**配点**	**委員のみ**
・四半期ごとに決算説明会を開催し、その状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャスト、またはテキストなどで確認ができますか。　[終了後同日中にできる：15点 後日できる：7点　できない：0点]	**15**	●
4．ESGに関連する情報の開示（30点）	**配点**	**委員のみ**
(1)目標とする経営指標等		
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE、資本コスト等）が、十分に説明されていますか。	**7**	
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策(キャピタルアロケーション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	**7**	
(3)ESGに関する情報の開示		
・非財務情報（人材戦略などのESG情報）を統合報告書、ESG説明会などで開示し、経営の長期的課題に対する取組みと目標値（KPI）、およびその進捗状況を投資家にわかりやすく伝えていますか。	**12**	
(4)社外取締役との対話		
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**4**	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（5点）	**配点**	**委員のみ**
・事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、不祥事、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	**5**	

（注）委員のみ記入の●は「調整・統一入力項目」

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部　会　長	上野　　真	大和証券
部会長代理	菊池　　悟	SMBC 日興証券
	大浦　裕太	第一生命保険
	黒木　文明	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	桜井　雄太	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	田中　　誓	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
	堀　　雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（17 名）

新井　光樹	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	桜井　雄太	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
井澤　宏之	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	田中　誓	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ証券
岩渕　啓介	岡三証券	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
上野　真	大和証券	根岸　慎太郎	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大浦　裕太	第一生命保険	原田　大輔	QUICK
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	堀　雄介	みずほ証券
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券	山科　拓	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
菊池　悟	SMBC 日興証券	渡辺　洋之	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
黒木　文明	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

広告･メディア･エンタテインメント

１．評価対象企業（24 社）

【広告･メディア】（11 社）

博報堂 DY ホールディングス、電通グループ、フジ･メディア･ホールディングス、
リクルートホールディングス、TBS ホールディングス、日本テレビホールディングス、
テレビ朝日ホールディングス、テレビ東京ホールディングス、KADOKAWA、東宝、東映

【エンタテインメント】（13 社）

ディー・エヌ・エー(新規)、コーエーテクモホールディングス、ネクソン、コロプラ、
オリエンタルランド、サイバーエージェント(新規)、セガサミーホールディングス、
バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、
スクウェア･エニックス･ホールディングス、カプコン、コナミグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	2	20
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	10
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	10
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 34 名（所属先 26 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

（1） **総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、新規に企業を加えたほか、一部の項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 69.6 点（昨年度 64.6 点）、総合評価点の標準偏差は 6.3 点（昨年度 8.1 点）となった。

② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（11 社）が 67.6 点（昨年度 64.0 点）、エンタテインメント（13 社）が 71.0 点（昨年度 65.2 点）となった。なお、個社で見ると、エイチ・アイ・エス（＋15.9）の上昇が目立った。

③　5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が70%（昨年度67%）、**説明会等**が71%（昨年度64%）、**フェア･ディスクロージャー**が76%（昨年度70%）、**ESG関連**が69%（昨年度65%）、**自主的情報開示**が60%（昨年度54%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて平均得点率が改善した。

④　評価項目（全11項目）について見ると、次の**フェア･ディスクロージャー**の中の1項目が80%以上の平均得点率となり、高水準であった。

・　「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率86%〔昨年度77%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：70%台3社・80%台13社・90%台8社）

⑤　一方、次の**自主的情報開示**の項目は、昨年度に比べ平均得点率が改善したものの、引き続き最も低い水準となった。下位評価企業には、さらなる改善努力を求めたい。

・　「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率60%〔昨年度54%〕）（得点率：20%台2社・30%台1社・40%台4社・50%台6社・60%台6社・70%台5社）

⑥　**ESG関連**の4項目は、次のとおりとなった。なお、(d)は昨年度に比べ平均得点率が改善したが、60%台にとどまった。

(a)　「統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。その中で、価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率75%〔昨年度69%〕）（得点率：50%台1社・60%台5社・70%台11社・80%台6社・90%台1社）

(b)　「環境保全（E）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか」（平均得点率72%〔昨年度68%〕）（得点率：50%台1社・60%台5社・70%台16社・80%台2社）

(c)　「社会（S）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか（例えば、人材戦略や給与の決定方針、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関する事項を定量的・積極的に開示していますか）」（平均得点率70%〔昨年度71%〕）（得点率：50%台1社・60%台11社・70%台9社・80%台3社）

(d)　「ガバナンス（G）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。不祥事等が発生した際に適切に対応し開示していますか。また、社外取締役の選定・役割が適切で、ガバナンスの有効性や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示・現預金保有の理由等）、株主還元策等が説明されていますか。これらの課題に関して、投資家の理解が深まるように、積極的に対話を進めていますか」（平均得点率63%〔昨年度56%〕）（得点率：40%台1社・50%台6社・60%台11社・70%台5社・80%台1社）

(2)　上位３企業の評価概要

第１位　バンダイナムコホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点77.7点〔昨年度比＋3.5点〕、昨年度第３位）

①　同社は、**経営陣のIR姿勢等**が第2位（得点率〈以下省略〉79%）、**ESG関連**（77%）、**自主的情報開示**（78%）が第3位、**説明会等**が第5位（77%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第8位（77%）となった。昨年度に比べて、5分野全てにおいて得点率が改善した。

②　**経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」が最も高い評価（80%）となったほか、「IR部門の機能、基本スタンス」は同得点第9位（77%）となった。これらに関連して、経営陣による積極的なIR活動として、CEOなどが四半期ごとの説明会や投資家面談、マネジメントミーティングを通じて経営戦略や資本政策に関する対話を積極的に行っていることに加え、IRへの高い意識と投資家との建設的なコミュニケーションを評価する声が寄せられた。また、IR部門には分析に必要な情報が十分に集約されており、IR担当者の専門性の高さや、定量データを交えた説明による有益なディスカッションが行われていることに加え、説明内容の信

頼性が高く、アナリスト・投資家のニーズに前向きに対応している点や、IR 部門と経営陣の連携の良さを評価する声があった。

③　**説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（76%）および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」（78%）は共に同得点第 5 位となった。これらに関連して、決算説明会やインタビューには各事業の責任者が参加し、説明が丁寧であることに加え、事業への理解を深められる点を評価する声が寄せられた。なお、説明会では定性的な説明が中心となることがあり、数値面の理解を深めるためのさらなる説明を望む声もあった。また、説明会資料や補足資料については、分析に必要な情報や数値が概ね充実しており、質・量ともに高い水準の開示が行われ、分析に役立つ点を評価する声が寄せられた。なお、IP（知的財産）別の業績データや主要ゲームタイトルの販売本数、トレーディングカード売上高など、業績予想や事業分析に有用な重要 KPI のさらなる開示充実を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 7 位（70%）、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 9 位（88%）となった。これらに関連して、経営陣および IR 部門が、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、投資家に対して公平な情報開示と対話機会の提供に努めている点を評価する声があった。

⑤　**ESG 関連**においては、「ガバナンス（G）に関する項目」が第 2 位（75%）、「社会（S）に関する項目」が第 4 位（78%）、「統合報告書等に関する項目」が同得点第 4 位（82%）、「環境保全（E）に関する項目」が同得点第 5 位（77%）であった。これらに関連して、ESG に関する情報開示については、統合報告書を通じて ESG 情報の発信に積極的に取り組んでいることに加え、業界内でも分かりやすく、企業の魅力が伝わる開示内容を評価する声が寄せられた。なお、最適な資本構成や余剰資金保有の必要性に関する説明の充実、ならびに女性活躍やプラスチックリサイクルなど主要 ESG 項目における目標値の開示を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 3 位（78%）となった。これに関連して、本社・工場見学会やホビーセンター見学会、大阪・関西万博のガンダムパビリオン視察など、事業や製品・サービスへの理解を深める投資家向けの説明機会が豊富に設けられており、有益な情報提供の場となっていることを評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　セガサミーホールディングス　（総合評価点 77.3 点〔昨年度比－1.1 点〕、昨年度第 1 位）

①　同社は、**説明会等**が第 1 位（得点率〈以下省略〉85%）、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 3 位（78%）、**自主的情報開示**が第 5 位（75%）、**ESG 関連**が第 6 位（73%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 10 位（76%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 3 位（77%）となり、「IR 部門の機能、基本スタンス」は同得点第 4 位（81%）となった。これらに関連して、経営陣は決算説明会や経営説明会などを通じて投資家・アナリストとの対話に積極的に取り組み、市場参加者の意見を経営に反映しようとする姿勢や、株主還元を含めた施策を着実に実行している点を評価する声が寄せられた。なお、オンラインカジノ事業の立て直しに向けた取り組みについては、市場の理解・共感を深めるための継続的な説明を望む声もあった。また、IR 部門には十分な情報が集積されており、細かなデータを含む幅広い情報提供が行われていることに加え、IR 担当者の高い専門性や事業への深い理解に基づく丁寧で分かりやすい説明により、有益なディスカッションが実現している点を評価する声が寄せられた。このほか、IR 部門と経営陣の連携が密接であることを評価する声が寄せられた。

③　**説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が最も高い評価（89%）となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は第 2 位（81%）となった。これらに関連して、説明会資料や開示資料は質・量ともに充実しており、細部にわたる情報開示が分析に有用である点を評価する声が寄せられた。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 9 位（88%）、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」が第 10 位（68%）となった。これらに関連し

て、遊技機の新タイトル発表をはじめとする適時・タイムリーな情報開示が行われており、フェア・ディスクロージャーへの配慮がなされている点を評価する声が寄せられた。

⑤　**ESG 関連**においては、「環境保全（E）に関する項目」が同得点第 3 位（78%）、「社会（S）に関する項目」は第 5 位（75%）、「統合報告書等に関する項目」が同得点第 8 位（77%）、「ガバナンス（G）に関する項目」は第 9 位（65%）となった。これらに関連して、統合報告書を通じて ESG 情報の開示に積極的に取り組んでいることに加え、最適資本構成など財務面の視点を取り入れた情報開示を評価する声が寄せられた。なお、ゲーミング事業への投資については資本市場の一部から懸念が示されており、事業ポートフォリオや資本配分の考え方に関するより丁寧な説明を望む声もあった。

⑥　**自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 5 位（75%）となった。充実していた投資家との対話機会として、マネジメントミーティングの定期的な開催を挙げる声が寄せられた。

第 3 位　東宝　（総合評価点 77.0 点〔昨年度比＋5.6 点〕、昨年度第 7 位）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が第 1 位（79%）、**自主的情報開示**が同得点第 1 位（79%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 2 位（83%）、**説明会等**が同得点第 3 位（79%）、**ESG 関連**が第 9 位（71%）となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善した。なかでも**自主的情報開示**の得点率が大きく改善した。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 2 位（78%）、「IR 部門の機能、基本スタンス」は第 3 位（83%）となった。これらに関連して、副社長兼 CFO を中心に経営陣が IR 活動に積極的に取り組み、説明会やマネジメントミーティングなどを通じて、経営戦略や資本政策に関する対話機会を充実させていることに加え、投資家の関心事項を踏まえた開示の拡充や IR 体制の整備を進めている点を評価する声が寄せられた。なお、社長との対話機会のさらなる充実を望む声もあった。また、IR 部門には十分な情報が集積されており、高い専門性に基づく丁寧な説明や、細かな定量データを含む積極的な情報開示を通じて、投資家との有益なディスカッションが行われていることに加え、現場見学会の開催や説明会動画・質疑応答の公開など、企業理解の促進とフェア・ディスクロージャーへの配慮を評価する声が寄せられた。また、企業価値向上に向けた対話や意見交換が以前より活発になっている点を評価する声があった。

③　**説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が同得点第 2 位（79%）、「説明会、インタビューにおける開示」は第 4 位（79%）となった。これらに関連して、説明会資料や開示資料は質・量ともに充実しており、アニメ関連を含む開示内容の拡充や、会社計画の前提となる映画興行収入・市場シェア想定の開示、丁寧で分かりやすい説明が投資判断に有用である点を評価する声が寄せられた。なお、業績予想の作成に必要なデータが複数の資料や階層に分散しており分かりにくいことに加え、アニメ事業に関する数値データについては遡及開示の充実を望む声もあった。また、決算説明会や質疑応答での対応には改善の余地があるが、取材等を通じた丁寧なフォローアップにより理解を深められる点や、海外事業・アニメ事業に関する説明の改善を評価する声が寄せられた。なお、会社のみが保有する作品情報などを前提とした説明は投資家に伝わりにくい面があり、説明会だけで決算内容を十分に理解できるよう、より分かりやすい説明を望む声もあった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 1 位（80%）、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 9 位（88%）となった。これらに関連して、経営陣および IR 部門は、投資判断や株式保有状況にかかわらず公平な情報開示と対話機会の提供に努めており、説明会関連資料のホームページでの公開などフェア・ディスクロージャーへの十分な配慮を評価する声が寄せられた。また、映画興行や営業成績の月次開示が現状把握や分析に有用である点を評価する声があった。

⑤　**ESG 関連**においては、「ガバナンス（G）に関する項目」が第 8 位（67%）、「社会（S）に関する項目」は同得点第 10 位（71%）、「環境保全（E）に関する項目」が同得点第 11 位（72%）、「統合報告書等に関する項目」は第 14 位（75%）であった。これらに関連して、アニメ事業などの成長力や経営陣の執行力に加え、統合報告書やサステナビリティに関する開示内容が充実しており、ESG 情報や基本方針が分かりやすく整理されている点を評価する声が寄せられた。また、近年の ESG 開示の進展や人材基盤の強化に向けた取り組みを評価する声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」が同得点第 1 位（79%）となった。これ

に関連して、スタジオ見学会や本社見学会、TOHO シネマズ大井町見学会、アニメ・IP 事業説明会など、事業やコンテンツへの理解を深める投資家向けの説明機会が豊富に設けられており、特に東宝スタジオや撮影所の見学会、業界動向の把握に役立つ「FACT BOOK」の提供が有益である点を評価する声が寄せられた。なお、スタジオ見学会の継続的な開催や参加機会の拡充を望む声があった。

(3) **上記以外の企業についての特記事項**

○ **エイチ・アイ・エス （ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 75.7 点〔昨年度比＋15.9 点、一昨年度比＋17.4 点〕、第 5 位〔昨年度第 15 位、一昨年度第 15 位〕）**

① 同社は、**フェア･ディスクロージャー**が第 1 位（86%）、**経営陣の IR 姿勢等**（78%）、**説明会等**（79%）が同得点第 3 位、**ESG 関連**（72%）、**自主的情報開示**（62%）が第 7 位となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善し、総合評価点が 15.9 点のアップとなった。なかでも、**経営陣の IR 姿勢等、説明会等**および**自主的情報開示**の得点率が著しく改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が最も高い評価（昨年度第 19 位）となった。これに関連して、IR 部門には十分な情報が集積されており、説明会資料等の開示においてもフェア・ディスクロージャーへの配慮がなされていることを評価する声が寄せられた。また、IR 担当者が質問に丁寧かつ柔軟に対応し、有益なディスカッションができていることを評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」は第 8 位（昨年度第 19 位）となった。これに関連して、経営陣の IR 姿勢は積極的であり、開示情報が充実していることを評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価（昨年度第 19 位）となり、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は同得点第 8 位（昨年度第 20 位）となった。これらに関連して、決算説明会における説明内容や質疑応答が総じて充実しており、質問に対して適切かつ的確な回答がなされていることを評価する声が寄せられた。また、事業内容が多岐にわたる中でも、必要な説明や情報提供が行われていることを評価する声があった。なお、説明資料等について、国内・海外旅行事業の内訳開示を望む声があった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となったほか、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、ホームページでの説明会関連資料の開示など、フェア・ディスクロージャーへの取り組みが十分に行われていることや、IR 担当者が投資家との窓口として十分に機能していることを評価する声が寄せられた。また、月次資料を継続的に公開しており、事業動向を把握しやすい情報開示がなされていることを評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「統合報告書等に関する項目」が同得点第 2 位（昨年度同得点第 6 位）となったほか、「ガバナンス（G）に関する項目」は第 6 位（昨年度同得点第 16 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これらに関連して、ESG 関連の開示が充実しており、事例紹介を含めた情報発信が行われていることを評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は、第 7 位（昨年度第 16 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。有益なイベントとして、ホテル事業説明会・見学会を挙げる声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

以 上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（広告・メディア・エンタテインメント）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス　評価項目2（配点 30点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示　評価項目2（配点 20点）		3．フェア・ディスクロージャー　評価項目2（配点 10点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示　評価項目4（配点 30点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示　評価項目1（配点 10点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7832　バンダイナムコホールディングス	77.7	23.6	2	15.4	5	7.7	8	23.2	3	7.8	3	3
2	6460　セガサミーホールディングス	77.3	23.4	3	17.0	1	7.6	10	21.8	6	7.5	5	1
3	9602　東宝	77.0	23.8	1	15.8	3	8.3	2	21.2	9	7.9	1	7
4	9697　カプコン	76.7	23.4	3	15.9	2	8.2	3	23.5	2	5.7	13	4
5	9603　エイチ・アイ・エス	75.7	23.4	3	15.8	3	8.6	1	21.7	7	6.2	7	15
6	3635　コーエーテクモホールディングス	75.2	22.9	6	15.2	6	8.1	4	22.9	4	6.1	8	11
7	6098　リクルートホールディングス	74.3	21.8	8	14.2	12	7.3	17	24.9	1	6.1	8	5
8	4661　オリエンタルランド	71.2	21.6	9	14.5	9	7.5	12	19.7	18	7.9	1	8
9	7974　任天堂	69.4	21.2	15	14.4	10	7.9	6	19.5	19	6.4	6	6
10	3668　コロプラ	68.7	20.8	16	14.2	12	7.2	19	22.2	5	4.3	21	16
10	4751　サイバーエージェント	68.7	20.3	18	13.1	18	7.2	19	20.5	12	7.6	4	－
12	4324　電通グループ	68.5	21.3	14	13.7	15	7.4	13	21.3	8	4.8	18	9
13	2432　ディー・エヌ・エー	68.2	21.6	9	12.7	19	7.3	17	21.1	10	5.5	14	－
14	4676　フジ・メディア・ホールディングス	68.1	21.5	11	14.1	14	7.1	23	20.0	15	5.4	15	18
15	9401　TBSホールディングス	68.0	22.8	7	14.3	11	7.2	19	20.1	14	3.6	22	10
16	9468　ＫＡＤＯＫＡＷＡ	67.6	20.1	19	14.6	8	7.6	10	20.0	15	5.3	16	2
17	2433　博報堂DYホールディングス	66.8	19.6	21	12.7	19	7.4	13	21.1	10	6.0	10	13
18	3659　ネクソン	66.6	21.5	11	15.0	7	7.2	19	16.9	23	6.0	10	13
19	9605　東映	66.5	20.6	17	12.6	21	7.7	8	19.8	17	5.8	12	19
19	9766　コナミグループ	66.5	21.5	11	13.5	17	7.8	7	18.5	22	5.2	17	12
21	9413　テレビ東京ホールディングス	63.9	20.1	19	13.6	16	8.0	5	19.4	20	2.8	23	－
22	9684　スクウェア・エニックス・ホールディングス	60.5	16.7	22	12.1	22	6.6	24	20.4	13	4.7	19	20
23	9409　テレビ朝日ホールディングス	56.7	14.2	24	11.8	23	7.4	13	18.7	21	4.6	20	21
24	9404　日本テレビホールディングス	53.5	15.3	23	11.2	24	7.4	13	16.8	24	2.8	23	17
	評価対象企業評価平均点	69.59	21.13		14.17		7.56		20.74		5.99		

2026年度の具体的評価項目および配点（広告・メディア・エンタテインメント）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かし、株主価値向上に努めていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**20**
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	**配点**
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、 ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	**10**
3．フェア・ディスクロージャー（10点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**4**
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響、会社にとって不都合な事象等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	**6**
4．ESGに関連する情報の開示（30点）	**配点**
①統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。その中で、価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	**6**
②環境保全（E）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。	**6**
③社会（S）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか（例えば、人材戦略や給与の決定方針、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関する事項を定量的・積極的に開示していますか）。	**8**
④ガバナンス（G）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。不祥事等が発生した際に適切に対応し開示していますか。また、社外取締役の選定・役割が適切で、ガバナンスの有効性や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示・現預金保有の理由等）、株主還元策等が説明されていますか。 これらの課題に関して、投資家の理解が深まるように、積極的に対話を進めていますか。	**10**
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください（新たな追加項目で企業も関心が高い項目なので、積極的にコメントしてください）】	
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	**配点**
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。［過去1年間を目安に評価］ 【充実していたサービスないし施設・設備・事業名をコメント欄に記入して下さい】	**10**

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部　会　長	前田　栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸　謙治	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
	大場　剛平	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	岸本　晃知	みずほ証券
	森　はるか	ゆうちょ銀行
	山村　淳子	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券

評価実施アナリスト（34 名）

安部　将行	大和証券	長尾　衛	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
井澤　宏之	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石橋　剛	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	原畑　亮平	野村證券
板倉　充知	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	久田　有貴	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	福井　悠香	第一生命保険
大場　剛平	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	藤原　重良	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
奥村　裕介	岡三証券	宝水　裕圭里	SBI 証券
尾坂　拓也	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	前田　栄二	SMBC 日興証券
嚴　智用	野村證券	三木　成人	野村證券
河内　亮	丸三証券	森田　正司	岡三証券
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券	森　はるか	ゆうちょ銀行
岸本　晃知	みずほ証券	安田　秀樹	東洋ﾘｻｰﾁｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
城戸　謙治	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	山科　拓	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
熊澤　伸悟	大和証券	山村　淳子	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
高　英詞	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山本　将	三菱 UFJ 信託銀行
阪口　和輝	大和証券	米島　慶一	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ 証券
佐竹　一仁	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	渡辺　洋之	三井住友 DS ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

新興市場銘柄

１．評価対象企業（29 社）

トライアルホールディングス、ソラコム、タイミー（新規）、Ｈｅａｒｔｓｅｅｄ（新規）、Ai ロボティクス（新規）、ユカリア（新規）、Ｓｙｎｓｐｅｃｔｉｖｅ（新規）、クラシル（新規）、ＴＥＮＴＩＡＬ（新規）、トヨコー（新規）、ジーエヌアイグループ（新規）、ＴＫＰ（注）、ＧＡ ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓ、ＦＦＲＩセキュリティ（再開）、網屋（新規）、エクサウィザーズ（再開）、セーフィー（再開）、Ｆｉｎａｔｅｘｔホールディングス（新規）、スマレジ、ｅＷｅＬＬ、カバー（再開）、ＡｅｒｏＥｄｇｅ（新規）、ＢｕｙＳｅｌｌ Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓ、シーユーシー、ＧＥＮＤＡ、ライズ・コンサルティング・グループ（新規）、ｉｓｐａｃｅ、アルファポリス、ＩＮＴＬＯＯＰ（再開）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）ティーケーピーが商号を変更（2026 年 6 月）

２．対象企業の選定方法および評価方法

(1) 対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、グロース、ネクスト、Q-Board およびアンビシャスの 4 つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額が上位（注 2）であって、かつ、その企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定数以上の 29 社（昨年度 26 社）とした。なお、29 社のうち、継続評価企業が 11 社、新規評価企業が 13 社、再評価企業（2 年以上前に評価対象としたことがある企業）が 5 社となっている。

(注 1) 本年 3 月末時点で、上場後 1 年未満の企業は除外した。
(注 2) 昨年 11 月末時点の時価総額を基準とした。
(注 3) 本年 1 月に当協会が証券会社等に対して、新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

(2) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	3	25
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	15
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	5
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(3) 評価実施アナリストは 44 名（所属先 26 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

(1) **総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、新規評価（13 社）および再評価（5 社）の企業もあるため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.1 点（昨年度 65.8 点）、総合評価点の標準偏差は 6.6 点（昨年度 7.6 点）であった。

② 総合評価点については、昨年度は 80 点台以上がなかったが、本年度は 80 点台が 2 社、70 点台が 10 社（昨年度 9 社）、60 点台が 15 社（昨年度 11 社）、50 点台が 2 社（昨年度 6 社）となった。

③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 77%（昨年度 70%）、**説明会等**が 70%（昨年度 66%）、**フェア･ディスクロージャー**が 74%（昨年度 71%）、**ESG 関連**が 61%（昨年度 55%）、**自主的情報開示**が 66%（昨年度 62%）となった。

④ 全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 79%（2 項目）、最低で 59%となった。最低となった項目（**ESG 関連**の中の 1 項目）は次のとおりであった。

・「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 59%）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：40%台 6 社・50%台 9 社・60%台 10 社・70%台 4 社）

⑤ **ESG 関連**の 3 項目（上記④および（a）（b））それぞれの平均得点率を見ると、いずれも 60%台前半以下となり、低水準であった。

(a) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」
（平均得点率 63%）（得点率：40%台 3 社・50%台 8 社・60%台 12 社・70%台 5 社・80%台 1 社）

(b) 「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか」
（平均得点率 62%）（得点率：40%台 3 社・50%台 7 社・60%台 15 社・70%台 3 社・80%台 1 社）

(2) 優良企業（上位３企業）の評価概要

第 1 位 BuySell Technologies（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 3 回目〕、総合評価点 83.2 点〔昨年度比＋6.1 点〕）

① 同社（事業内容：着物・ブランド品等リユース事業を中心に展開。市場：グロース（2019 年 12 月マザーズ上場）、継続評価企業）は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉89%）、**説明会等**（83%）、**ESG 関連**（76%）が第 1 位、**フェア･ディスクロージャー**が第 3 位（86%）、**自主的情報開示**が同得点第 12 位（70%）となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が最も高い評価となった。これに関連して、ネガティブな情報についても適切な説明を行う姿勢に加え、KPI や各セグメントの状況を四半期ごとに詳細に開示しており、透明性の高い情報開示を実践している点を評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能」は第 2 位となった。これに関連して、IR 部門が CFO をはじめとする経営陣と密接に連携し、十分な情報共有のもとで経営陣の代弁者として機能している点を評価する声があった。「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も第 2 位となった。これに関連して、市場参加者が業績等の動向をより正確に把握できるよう、開示項目を適宜調整しながら情報開示を行っている点を評価する声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」は第 3 位となった。これに関連して、社長や CFO が IR ミーティングや決算説明会において、事業の方向性、成長戦略、財務状況を自ら丁寧かつ詳細に説明し、投資家との認識共有に努めている点を評価する声があった。また、経営陣が先頭に立って IR 活動を推進するとともに、マネジメント層も積極的に投資家対応を行っている点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が同得点第 1 位となった。これに関連して、財務分析に必要なデータが十分記載されている点を評価する声があった。「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること。また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、今期業績計画について十分に説明が行われている点を評価する声が寄せられた。「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」も同得点第 2 位となった。これらに関連して、中長期の見通しや戦略について説明が行われており、市場開拓が必要な事業環境の中でも成長見通しに関する説明を尽くし、詳細開示に限りがある中

で積極的な情報開示に努めている点を評価する声が寄せられた。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が第 2 位となった。これに関連して、開示は迅速に行われており、開示可否のラインについてもしっかり管理されるなど、不公平や混乱が生じないよう十分な注意が払われている点を評価する声があった。「ウェブサイトにおける情報提供」は第 4 位となった。これに関連して、説明会スクリプトに至るまで英訳されるなど、ウェブサイトを通じた情報提供が充実している点を評価する声が寄せられた。

⑤　**ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策等の開示」が第 2 位となった。これに関連して、中期経営計画等を通じて、資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標について十分に説明している点を評価する声があった。「経営機構、経営資源および内部統制について」も第 2 位となった。これらに関連して、決算説明資料やコーポレートガバナンス報告書、内部統制報告書の提出等を通じて、経営機構や内部統制に関する必要な説明が行われている点を評価する声が寄せられた。また、説明会資料において、社外取締役の役割などに関する開示が十分に行われている点を評価する声があった。「ESG に関する情報の開示」は同得点第 2 位となった。これに関連して、決算説明資料やホームページ等を通じて、人事制度を通じた組織基盤の強化などの人的資本に関する取り組みや、コンプライアンス・ガバナンスに関する方針、サステナビリティの取り組みについて開示が行われている点を評価する声が寄せられた。

⑥　**自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は同得点第 12 位となった。これに関連して、月次開示を行うとともに、物流センターの見学を実施するなど、決算説明会以外の情報開示や投資家向け施策に取り組んでいる点を評価する声があった。

第 2 位　Finatext ホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 81.0 点）

①　同社（事業内容：フィンテックシフト事業、データ AI 事業、 金融インフラストラクチャ事業を中心に展開。市場：グロース（2021 年 12 月マザーズ上場）、新規評価企業）は、**説明会等**が同得点第 1 位（83%）、**ESG 関連**が第 2 位（74%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（85%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 4 位（82%）、**自主的情報開示**が同得点第 12 位（70%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、社長自らが説明会や IR の場に出てしっかりと説明を行うとともに、事業進捗や見通しについて熱意をもって説明している点を評価する声が寄せられた。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、都合の悪い情報であってもフェアに情報開示を行うとともに、事業進捗が低調な局面においてもその背景や今後の見通し・戦略、方針について明確かつ適切に説明している点を評価する声があった。「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 3 位となった。これに関連して、情報発信を逐一行うとともに、適切な情報開示を継続し、積極的な情報公開に取り組んでいる点を評価する声が寄せられた。

③　**説明会等**においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること。また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が最も高い評価となった。これに関連して、今期業績計画について適切な説明が行われているほか、通期計画に対する進捗や上振れ・下振れ要因についても丁寧に説明している点を評価する声があった。「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は同得点第 1 位となった。これに関連して、受注状況などの開示が豊富で、収益および財務分析に必要なデータが十分に開示されている点を評価する声が寄せられた。また、分析に用いるデータが豊富であり、不足する情報については次回以降の開示で追加対応している点を評価する声があった。「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」は第 5 位となった。これに関連して、中長期の成長目線を共有するとともに、顧客数見通しや市場見通しを踏まえて財務目標を示している点を評価する声が寄せられた。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 4 位となった。これに関連して、投資家にとって重要な事項について、迅速かつ公平な情報開示を行っている点を評価する声があった。「ウェブサイトにおける情報提供」は同得点第 5 位となった。これに関連して、ウェブサイトに加え SNS も活用しながらタイムリーな情報提供を行うとともに、英文による情報提供を実施している点を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「経営機構、経営資源および内部統制について」が最も高い評価となった。これに関連して、経営機構、経営資源および内部統制について十分に説明されている点を評価する声があった。「ESG に関する情報の開示」は同得点第 2 位となった。これに関連して、決算説明資料等における非財務情報の充実を望む声があった。「資本政策、株主還元策等の開示」は同得点第 5 位であった。これに関連して、資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について、説明資料等を通じて十分に説明されている点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第 12 位であった。

第 3 位　Heartseed（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 78.2 点）

① 同社（事業内容：iPS 細胞を用いた心筋再生医療事業を中心に展開。市場：グロース（2024 年 7 月グロース上場）、新規評価企業）は、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 1 位（87%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（86%）、ESG **関連**が第 5 位（69%）、**自主的情報開示**が同得点第 8 位（74%）、**説明会等**が第 13 位（71%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、小規模会社でトップとの距離が近く、IR スペシャリストが丁寧かつ客観的な説明を行うとともに、投資家が確認したい内容を踏まえた開示資料を提供している点を評価する声が寄せられた。「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も最も高い評価となった。これに関連して、データの発表など積極的な情報開示を行うとともに、不慮のイベント発生時には連日・複数回にわたり IR リリースを実施するなど、適切な情報開示に努めている点を評価する声が寄せられた。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」は同得点第 8 位となった。これに関連して、リードパイプラインが返還された際に、その理由や今後の開発計画の考え方を説明するなど、自社の状況を適切に開示している点を評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 9 位であった。これに関連して、社長自らミーティングに参加し、医師としての観点も踏まえた技術的な優位性を説明するとともに、事業進捗や見通しについて納得感の高い説明を行っている点を評価する声があった。

③ **説明会等**においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が同得点第 9 位となった。これに関連して、中・長期の成長見通しについて納得感のある説明が行われており、バイオテック企業として平均的な情報開示がなされているとの声があった。なお、中長期の成長性に関するリスクの記載や、開示資料における説明内容の充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、投資家にとって重要な事項について迅速な情報開示を行うとともに、リスク条項についても十分な記載がなされている点を評価する声が寄せられた。「ウェブサイトにおける情報提供」は同得点第 5 位となった。これに関連して、資料を英語でも準備しているほか、不定期に配信される社長メッセージが会社の状況を理解するうえで有意義な情報提供となっている点を評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策等の開示」が最も高い評価となった。これに関連して、成長投資の必要性について説明が行われている点を評価する声が寄せられた。「経営機構、経営資源および内部統制について」は同得点第 9 位となった。これに関連して、小規模な組織であることから運営が属人的に見える面もあり、経営機構や内部統制に関する説明の充実を望む声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は同得点第 8 位となった。これに関連して、セルサイド主催のスモールミィーテングにおいて、1on1 ミーティング以上に事業理解を深める機会を提供している点を評価する声が寄せられた。

上記の **BuySell Technologies、Finatext ホールディングス、Heartseed** の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（新興市場銘柄）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目3（配点 25点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 15点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 20点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 5点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7685　BuySell　Technologies	83.2	31.0	1	20.7	1	12.9	3	15.1	1	3.5	12	1
2	4419　Finatextホールディングス	81.0	29.8	3	20.7	1	12.3	4	14.7	2	3.5	12	－
3	219A　Heartseed	78.2	30.1	2	17.7	13	13.0	1	13.7	5	3.7	8	－
4	4431　スマレジ	76.6	28.0	7	19.4	5	11.8	6	13.6	6	3.8	5	4
5	215A　タイミー	76.3	28.2	6	19.5	4	11.7	8	13.8	4	3.1	19	－
6	290A　Synspective	75.9	28.6	5	19.4	5	11.6	9	12.3	14	4.0	1	－
7	4258　網屋	75.0	29.6	4	18.4	10	11.8	6	12.2	15	3.0	20	－
8	3479　TKP	74.7	27.9	8	18.9	9	11.2	11	12.7	9	4.0	1	3
9	341A　トヨコー	73.5	24.5	23	20.5	3	11.0	14	14.0	3	3.5	12	－
10	147A　ソラコム	73.0	26.7	15	19.3	8	10.8	16	12.6	12	3.6	11	13
11	9348　ispace	72.6	26.9	13	16.8	16	12.0	5	13.1	8	3.8	5	15
12	9556　INTLOOP	71.1	26.0	18	17.9	11	10.6	18	13.3	7	3.3	16	－
13	9166　GENDA	69.7	27.0	10	15.4	22	11.3	10	12.7	9	3.3	16	26
14	3491　GA　technologies	69.6	27.0	10	17.0	15	11.2	11	11.8	16	2.6	24	22
15	141A　トライアルホールディングス	69.4	26.4	17	17.8	12	10.3	20	11.1	19	3.8	5	2
15	5038　ｅＷｅＬＬ	69.4	25.6	20	19.4	5	10.8	16	11.1	19	2.5	26	6
17	299A　クラシル	68.2	26.5	16	16.8	16	11.1	13	11.0	21	2.8	23	－
17	9467　アルファポリス	68.2	26.8	14	17.6	14	10.2	22	10.6	22	3.0	20	20
19	247A　Ai ロボティクス	67.3	27.1	9	14.4	27	11.0	14	11.3	18	3.5	12	－
20	2160　ジーエヌアイグループ	66.9	27.0	10	14.7	24	13.0	1	9.9	27	2.3	27	－
21	7409　AeroEdge	65.5	26.0	18	15.7	18	10.0	24	10.1	26	3.7	8	－
22	4259　エクサウィザーズ	65.4	25.0	21	15.2	23	10.4	19	11.6	17	3.2	18	－
23	286A　ユカリア	64.9	24.1	26	14.7	24	9.7	25	12.7	9	3.7	8	－
24	5253　カバー	63.7	24.2	25	15.5	21	9.7	25	10.4	23	3.9	4	－
25	9168　ライズ・コンサルティング・グループ	63.3	23.0	27	15.7	18	9.0	27	12.6	12	3.0	20	－
26	325A　TENTIAL	62.8	25.0	21	15.6	20	10.2	22	9.4	29	2.6	24	－
27	4375　セーフィー	62.7	24.3	24	13.7	28	10.3	20	10.4	23	4.0	1	－
28	3692　FFRIセキュリティ	56.7	22.4	28	13.0	29	8.7	28	10.3	25	2.3	27	－
29	9158　シーユーシー	55.7	21.7	29	14.7	24	7.7	29	9.6	28	2.0	29	18
	評価対象企業評価平均点	71.14	26.98		17.52		11.08		12.24		3.32		

2026年度の具体的評価項目および配点（新興市場銘柄）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス （３５点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 （２５点）	**配点**
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。[1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。[1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
3．フェア・ディスクロージャー（１５点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
4．ESGに関連する情報の開示 （２０点）	**配点**
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。[1点～8点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**8**
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。[1点～7点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**7**
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（５点）	**配点**
・ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間） [1点～5点の整数で評価] 【 評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**

新興市場銘柄専門部会委員

部　会　長	古島　次郎	大和証券
部会長代理	渡辺　真理子	UBS 証券
	新井　勝己	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	岩本　誠一郎	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
	添島　健史	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	高　　祥太郎	ｱﾓｰｳﾞｧ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	納　　博司	いちよし経済研究所
	東田　　曉	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	宮崎　裕次	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（44 名）

姉川　俊幸	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	関根　哲	大和証券
新井　勝己	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	添島　健史	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券	高　祥太郎	ｱﾓｰヴァ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石田　優理子	みずほ証券	高梨　裕	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
井尻　雅大	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	得永　一樹	大和証券
入沢　健	立花証券	富田　展昭	極東証券経済研究所
岩本　誠一郎	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大山　光司	第一生命保険	納　博司	いちよし経済研究所
小澤　公樹	SBI 証券	野島　亮太	立花証券
小山　真里菜	大和証券	原田　大輔	QUICK
加納　輝一	三菱 UFJ 信託銀行	東田　曉	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鎌田　重俊	立花証券	藤根　靖晃	ﾃｨｰ・ｱｲ・ﾀﾞｳﾞﾘｭ
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券	藤原　重良	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岸本　晃知	みずほ証券	前田　晃太	野村證券
古島　次郎	大和証券	増野　大作	野村證券
榮　哲史	野村證券	三浦　勇介	大和証券
阪口　和輝	大和証券	三木　成人	野村證券
醒井　周太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	宮崎　裕次	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
重岡　絵美里	大和証券	村上　秀樹	丸三証券
清水　康之	QUICK	柳本　和紀	三菱 UFJ 信託銀行
杉浦　徹	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山科　拓	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
須藤　翼	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	渡辺　真理子	UBS 証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。

個人投資家向け情報提供

１．評価対象企業（30 社）

INPEX、Heartseed、味の素、三越伊勢丹ホールディングス、旭化成、三井化学、野村総合研究所、Finatext ホールディングス、中外製薬、コスモエネルギーホールディングス、日本製鉄、ＵＡＣＪ、小松製作所、荏原製作所、セガサミーホールディングス、ミネベアミツミ、ＴＤＫ、いすゞ自動車、良品計画、BuySell Technologies、朝日インテック、アシックス、伊藤忠商事、三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ、三井住友フィナンシャルグループ、東京海上ホールディングス、三菱地所、東日本旅客鉄道、九州旅客鉄道、ソフトバンク

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法等

(1)　評価対象企業の選定

優良企業選定の評価対象企業は、本年度の各業種（18 業種）および新興市場銘柄についての評価結果において、それぞれ上位 1 割（評価対象企業の数を 10 で割った数（小数点第 1 位を切上げ））に入った企業のうち、2025 年 7 月から 2026 年 6 月までの間において、個人投資家向け会社説明会を開催した 30 社とした。

(2)　評価分野の構成

評価分野	本文中の略称	評価 項目(注 1)数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	**個人投資家向け会社説明会**	4	16
②ウェブサイトにおける開示等	**ウェブサイト**	4	32
③各種説明会資料	**説明会資料**	4	32
④事業報告書等（注 2）の内容	**事業報告書等**	3	20
		15	100

（注 1）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。
（注 2）直近事業年度について、個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、わかりやすい解説を行っている IR 関連資料（事業報告書、株主通信、アニュアルレポート、統合報告書等）の中で、会社側から提示されたいずれか 1 種類。

(3)　評価方法

評価項目（15 項目）のうち、**個人投資家向け会社説明会**（3(2)①）の 3 項目、**ウェブサイト**（3(2)②）の中の 1 項目および**説明会資料**（3(2)③）の中の 1 項目の評価については、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に評点を付した。残りの 10 項目の評価は、ディスクロージャー研究会「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員（14 名）が行い、最終評価は両者の評点を合算して行った。

３．評価結果

(1)　**総括**（「個人投資家向け情報提供における評価比較総括表」は後掲）

本年度の評価対象企業は、上記 2. (1)のとおり選定しており、昨年度から相当程度入れ替わっている。また、

項目数・内容、配点を昨年度から見直している。このため、昨年度（評価対象企業 30 社）と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 79.1 点（昨年度同点）となった。その内訳は、評価点 80 点台が 19 社（昨年度 16 社）、70 点台が 8 社（昨年度 11 社）、70 点未満 3 社（昨年度同数）となった。

4 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**個人投資家向け会社説明会**が 74%（昨年度同率）、**ウェブサイト**が 76%（昨年度との比較不可）、**説明会資料**が 82%（昨年度との比較不可）、**事業報告書等**が 83%（昨年度 84%）となった。

(2) 評価対象企業に対するアンケート結果を基にした評価

① **個人投資家向け会社説明会**については、昨年 7 月から本年 6 月までの 1 年間の開催回数は、4 回以上が 15 社、2～3 回が 7 社、1 回が 8 社であった。リアル（対面）形式とオンライン形式の両方で行っている企業は 20 社（67%）で、その割合は昨年度（50%）を大きく上回った。また、経営トップが説明を行っている企業は 19 社（63%）で、その割合は昨年度（67%）をやや下回った。

② **ウェブサイト**については、IR 情報のメール配信サービスまたは SNS 配信サービスなどの付加サービス機能を提供している企業は、23 社（77%）であった。

③ **説明会資料**について、各種説明会（個人投資家向け会社説明会を除く）の内容はウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できる企業は 28 社（93%）で、その割合は昨年度（87%）を上回った。

(3) 専門部会委員による評価

専門部会委員は、ウェブサイト等における開示内容が一般投資家に理解できるように具体的にわかりやすく説明、記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から、10 項目について評価を実施した。

【個人投資家向け会社説明会】

(a) 「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか」（平均得点率 74%〔昨年度 72%〕）

【ウェブサイト】

(b) 「IR に関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して充実した内容であり、利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていますか。」（平均得点率 77%〔昨年度 85%〕）

(c) 「事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。また、不祥事等があった際に、適切な情報開示や具体的な対応策を掲載していますか。」（平均得点率 82%〔昨年度同率〕）

(d) 「資本コストを意識した経営の実現に向けた対応を開示し、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。」（平均得点率 68%〔昨年度 69%〕）

【説明会資料】

(e) 「業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率 84%〔昨年度 83%〕）

(f) 「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的に、かつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか」（平均得点率 85%〔昨年度 83%〕）

(g) 「ESG（人的資本、人権を含む）、社外取締役との対話について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。（平均得点率 75%〔昨年度 77%〕）

【事業報告書等】

(h) 「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ、理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか」（平均得点率 86%〔昨年度同率〕）
(i) 「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESG や人的資本に関する情報や取組みも含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。」（平均得点率 81%〔昨年度 82%〕）
(j) 「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていますか」（平均得点率 84%〔昨年度 87%〕）

(4) 上位３企業の評価概要

第１位　味の素（ディスクロージャー優良企業〔5 回目〕、総合評価点 89.0 点）

① 同社は、**ウェブサイト**が第 1 位（得点率〈以下省略〉87%）、**説明会資料**が同得点第 1 位（88%）、**個人投資家向け会社説明会**が第 2 位（94%）、**事業報告書等**（ASV レポート（統合報告書））が第 7 位（89%）となった。
② **個人投資家向け会社説明会**においては、評価対象企業に対するアンケート項目（全 3 項目）全てが満点評価となった。また、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」は第 5 位（90%）となった。これに関連して、社長や社員による分かりやすく充実した説明に加え、事業概要や成長戦略、事業構成やビジョンについて要点を絞って説明しており、会社の特徴や強みを理解しやすい点を評価する声が寄せられた。また、具体的な事例やブランド名、製品例を交えながら説明するとともに、図表を中心とした資料構成により、事業内容や収益性、成長戦略の全体像をイメージしやすい点を評価する声があった。
③ **ウェブサイト**においては、「事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること。また、不祥事等があった際に、適切な情報開示や具体的な対応策を掲載していること」が最も高い評価となった。これに関連して、食品事業やアミノサイエンス事業、バイオ&ファインケミカル事業、ASV 経営について整理された説明が行われており、一般投資家が事業の全体像や特徴を理解しやすい点を評価する声が寄せられた。また、「IR に関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して充実した内容であり、利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていること」および「IR 情報のメール配信サービスまたは SNS 配信サービスなどの付加サービス機能を提供していること（評価対象企業に対するアンケート項目）」は共に同得点第 1 位となった。これらに関連して、各項目が分かりやすく整理・リンクされているほか、見出しと詳細項目のバランスが良く、必要な資料や説明会情報を探しやすい点を評価する声が寄せられた。イラストや写真、アイキャッチを活用した見やすいレイアウトに加え、「3 分読解 早わかり味の素グループ」など初心者向けコンテンツを通じて、経営戦略・事業紹介・財務情報を分かりやすく提供している点を評価する声があった。
④ **説明会資料**においては、「各種説明会（個人投資家向け会社説明会を除く）の内容はウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できること（評価対象企業に対するアンケート項目）」が同得点第 1 位（満点）となった。また、「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的に、かつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」同得点第 3 位となった。これに関連して、食品事業・アミノサイエンス事業における強みを軸に、事業ポートフォリオ改革や ROIC 経営の考え方、中長期目標、重点施策、投資計画まで体系的に説明している点を評価する声が寄せられた。このほか、「ESG（人的資本、人権を含む）、社外取締役との対話について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」も同得点第 3 位となった。これに関連して、「人的資本」や「サステナビリティ」において ESG 情報インデックスを掲載するほか、人的資本、人権、環境に関する取り組みや KPI を分かりやすく整理し、企業価値とのつながりまで説明している点を評価する声が寄せられた。また、社外取締役へのインタビュー資料やガバナンス対談を通じて、各社外取締役の考え方や監督機能への理解を深める機会を提供している点を評価する声があった。
⑤ **事業報告書等**においては、「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていこと」が同得点第 1 位となった。これに関連して、ASV レポート（統合報告書）は、コーポレートカラーを効果的に活用した見やすい構成となってお

り、デザイン性にも優れている点を評価する声が寄せられた。図表、イラスト、写真、グラフを効果的に活用するとともに、図と文章の量や文字サイズ、余白のバランスが良く、視認性や読みやすさに優れている点を評価する声があった。また、「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていること」は同得点第7位となった。これに関連して、主力事業別の増減要因や地域別動向、セグメントごとの収益変動要因が分析されており、業績の動きを理解しやすい点を評価する声が寄せられた。なお、原材料価格や為替変動が業績に与える影響について、一般投資家にも直感的に理解できる説明の充実を望む声もあった。

第2位　ソフトバンク（ディスクロージャー優良企業〔2回連続2回目〕、総合評価点88.5点）

① 同社は、**個人投資家向け会社説明会**（95%）、**事業報告書等**（「統合報告書 2025」）（92%）が第1位、**ウェブサイト**が同得点第2位（86%）、**説明会資料**が同得点第11位（85%）となった。

② **個人投資家向け会社説明会**においては、評価対象企業に対するアンケート項目（全3項目）全てが満点評価となった。また、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」が同得点第2位（92%）となり、この分野で第1位となった。これに関連して、個人投資家向け説明会ページにおいて、動画、説明会要旨、Q&Aを掲載するとともに、図表や説得力のある数値を活用し、子会社・関連会社を含めたグループ全体像を分かりやすく整理している点を評価する声が寄せられた。また、個人投資家向け説明会を開催し、投資家との接点確保に非常に積極的であるとの声があった。

③ **ウェブサイト**においては、「IR情報のメール配信サービスまたはSNS配信サービスなどの付加サービス機能を提供していること（評価対象企業に対するアンケート項目）」が同得点第1位（満点）となった。また、「事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること。また、不祥事等があった際に、適切な情報開示や具体的な対応策を掲載していること」が同得点第3位となった。これに関連して、主なグループ会社の紹介に加え、事業内容や事業構成比率、顧客層、収益源などを図表や具体例を用いて分かりやすく説明している点を評価する声が寄せられた。「IRに関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して充実した内容であり、利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていること」が同得点第4位となった。これに関連して、IRトップページ、IRライブラリー、FAQ、用語集、個人投資家向けページなどが分かりやすく整理されており、資料や情報を探しやすく利用しやすい点を評価する声があった。

④ **説明会資料**においては、「各種説明会（個人投資家向け会社説明会を除く）の内容はウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できること（評価対象企業に対するアンケート項目）」が同得点第1位（満点）となった。また、「経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的に、かつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」は同得点第8位であった。これに関連して、通信事業の安定基盤に加え、法人、メディア・EC、金融、AIなどの成長領域への展開について、各事業の役割や成長ドライバー、差別化要因を整理しながら説明している点を評価する声が寄せられた。一方、資料のみでは理解しにくい部分や抽象的な表現も見られることから、より分かりやすい説明を望む声があった。

⑤ **事業報告書等**においては、「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESGや人的資本に関する情報や取組みも含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていること」が同得点第1位となった。これに関連して、通信事業の安定基盤と成長領域、サステナビリティや人的資本を含む非財務施策とのつながりを明確に示し、一般投資家にも理解しやすい構成となっている点を評価する声が寄せられた。また、「業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていること」も同得点第1位となった。これに関連して、定量情報と定性情報のバランスが取れているほか、事業別の増減要因や非通信分野・投資先の寄与についても平易に説明しており、業績の動きを理解しやすい点を評価する声があった。

第3位　三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ
（ディスクロージャー優良企業〔2回連続6回目〕、総合評価点87.8点）

① 同社は、**事業報告書等**（MUFG Report 2026（統合報告書））が第3位（91%）、**説明会資料**が同得点第3

位（88%）、**個人投資家向け会社説明会**が第 4 位（93%）、**ウェブサイト**が同得点第 5 位（84%）となった。

② **個人投資家向け会社説明会**においては、評価対象企業に対するアンケート項目（全 3 項目）全てが満点評価となった。また、「ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していること」は第 8 位（88%）であった。これに関連して、事業概要や企業の強み、成長戦略を説明するとともに、具体的なデータや図表を豊富に用い、ビジネスモデルやサービス内容を顧客事例も交えながら解説している点を評価する声が寄せられた。また、対談形式の動画や個人投資家向けセミナーの実施、説明会資料の公開など、継続的かつ多面的な情報発信を行っている点を評価する声があった。一方、情報量は充実しているものの理解のハードルがやや高く、内容の整理や構成の工夫を求める声があった。

③ **ウェブサイト**においては、「IR 情報のメール配信サービスまたは SNS 配信サービスなどの付加サービス機能を提供していること（評価対象企業に対するアンケート項目）」が同得点第 1 位（満点）となった。また、「IR に関するウェブサイトは、探しやすさ・画面構成等にも配慮して充実した内容であり、利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていること」は同得点第 4 位（86%）となった。これに関連して、各種コンテンツが整理され、シンプルで見やすい画面構成や大きなアイコンの採用により、必要な情報を探しやすい点を評価する声が寄せられた。「資本コストを意識した経営の実現に向けた対応を開示し、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」は同得点第 8 位（79%）であった。これらに関連して、統合報告書や経営戦略ページにおいて、資本政策、株主還元、事業ポートフォリオ戦略、ROE 目標などを示し、企業価値向上に向けた取組みを図表やデータを用いて分かりやすく説明している点を評価する声があった。

④ **説明会資料**においては、「業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていること」が最も高い評価（90%）となった。これに関連して、IR サイトの財務情報や決算説明資料において、長期間にわたる業績データを蓄積・開示するとともに、豊富なデータやグラフを活用し、業績推移を分かりやすく説明している点を評価する声が寄せられた。また、「各種説明会（個人投資家向け会社説明会を除く）の内容はウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できること」が同得点第 1 位（満点）となった。

⑤ **事業報告書等**においては、「全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていこと」が同得点第 1 位（96%）となった。これに関連して、写真や図表、グラフを効果的に活用するとともに、文字の大きさや情報量のバランス、メリハリのある色使いにも配慮されており、視認性が高く理解しやすい構成となっている点を評価する声が寄せられた。その他に文字数やページ数を抑えながら要点を分かりやすく整理するなど、読みやすさの向上に向けた改善が継続的に図られている点を評価する声があった。また、「経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESG や人的資本に関する情報や取組みも含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていること」も同得点第 1 位（91%）となった。これらに関連して、「企業価値向上のための戦略」の中で、成長戦略、ESG、人的資本、資本政策を関連付けて体系的に説明し、企業価値向上に向けた方向性を分かりやすく示している点を評価する声が寄せられた。また、ESG や人的資本の取組みを定量的に示すとともに、ROE 向上策や各事業の課題・方向性を具体的に説明している点を評価する声があった。一方、重要論点を簡潔に整理した要約の充実を望む声もあった。

上記の**味の素、ソフトバンク、三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ**の 3 社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の個人投資家向け情報提供における優良企業として選定した。

以　上

2026年度　個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．個人投資家向け会社説明会の開催等 開催回数、経営トップによる説明の有無等4項目（配点 16点）		2．ウェブサイトにおける開示等 個人投資家向けサイトの構成、事業内容、資本コストを意識した経営の説明等4項目（配点 32点）		3．各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）における開示等 業績の動き、経営目標・経営戦略、ESG等の説明資料、および各種説明会動画の掲載等4項目（配点 32点）		3．事業報告書等の内容 経営方針、中・長期経営ビジョンや業績動向の説明の分かりやすさ等3項目（配点 20点）	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	2802　味の素	89.0	15.0	2	27.9	1	28.3	1	17.8	7
2	9434　ソフトバンク	88.5	15.2	1	27.6	2	27.3	11	18.4	1
3	8306　三菱UFJフィナンシャル・グループ	87.8	14.8	4	26.8	5	28.1	3	18.1	3
	評価対象企業(30社) 評価平均点	79.14	11.91		24.39		26.19		16.65	

2026年度の具体的評価項目および配点（個人投資家向け情報提供）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．個人投資家向け会社説明会の開催等 （16点）	**配点**
(1)過去1年間（前年7月から本年6月までの間）に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 ［A.4回以上：3点、B.2～3回：2点、C.1回：1点］	**3**
(2)個人投資家向け会社説明会は、リアル（対面）形式と、オンライン形式の両方で行っていますか。［A.両方で行った：1点、B.リアル（対面）形式のみ：0点、オンライン形式のみ：0点］	**1**
(3)個人投資家向け会社説明会は、経営トップが説明を行いましたか。 ［A.経営トップが行った：2点、B.経営トップ以外が行った：1点］	**2**
(4)ウェブサイトに掲載されている個人投資家向け会社説明会の内容は、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）、かつ充実していますか。 【個人投資家向け会社説明会に限定して評価】 ［1点～10点の整数で評価。掲載なし：0点］	**10**
2．ウェブサイト（HTML上の記載に限る）における開示等（32点）	**配点**
(1)IRに関するウェブサイトは、個人投資家向けサイト含め、探しやすさ・画面構成等にも配慮して充実した内容であり、利用しやすく、かつ、わかりやすく工夫されていますか。 [1点～12点の整数で評価]	**12**
(2)IR情報のメール配信サービスまたはSNS配信サービスなどの付加サービス機能を提供していますか。 ［A.配信サービスあり：2点、B.配信サービスなし：0点］	**2**
(3)事業内容（主力商品、主力サービス等）が具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。また、不祥事等があった際に、適切な情報開示や具体的な対応策を掲載していますか。［1点～10点の整数で評価］	**10**
(4)資本コストを意識した経営の実現に向けた対応を開示し、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。［1点～8点の整数で評価］	**8**
3．各種説明会資料（個人投資家向け会社説明会資料およびその他掲載資料を含む）**における開示等（32点）**	**配点**
(1) 業績の動きが、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 ［1点～10点の整数で評価］	**10**
(2) 経営目標・経営戦略が、会社の強み（業界シェアや他社との差別化等を含む）や課題等を踏まえて、具体的に、かつ、わかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 ［1点～10点の整数で評価］	**10**
(3) ESG（人的資本、人権を含む）、社外取締役との対話について、具体的にわかりやすく（一般投資家に理解できるように）説明されていますか。 ［1点～10点の整数で評価］	**10**
(4)各種説明会（個人投資家向け会社説明会を除く）の内容はウェブサイトに掲載されて誰でも動画で視聴できますか。 ［A.できる：2点、B.できない：0点］	**2**
4．事業報告書等の内容（注）**（20点）**	**配点**
(1)全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解しやすいように十分な工夫がなされて作成されていますか。 ［1点～5点の整数で評価］	**5**
(2)経営方針、中・長期経営ビジョンが、ESGや人的資本に関する情報や取組みも含めて、わかりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。［1点～10点の整数で評価］	**10**
(3)業績の動きがわかりやすく（読み手が理解しやすいように）説明されていますか。［1点～5点の整数で評価］	**5**

網掛けの項目は、評価対象企業へのアンケート結果をもとに評点

（注）直近事業年度について、個人投資家が容易に取得可能な、事業・業績の概況について、わかりやすい解説を行っているIR関連資料（事業報告書、株主通信、アニュアルレポート、統合報告書等）の中で、会社側から提供のあったいずれか一種類を評価対象とする。

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部　会　長	林　　健太郎	野村證券
部会長代理	宇田川　克己	いちよし証券
	岩崎　利昭	水戸証券
	大坂　隼矢	野村證券
	菅　あずさ	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	小松崎　直樹	丸三証券
	澤田　遼太郎	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ
	柴田　光浩	大和証券
	嶋田　和昭	岩井ｺｽﾓ証券
	鈴木　英之	SBI 証券
	髙取　千誉	大和証券
	高山　裕介	SMBC 日興証券
	二宮　雅之	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ証券
	山本　信一	岡三証券

本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定
（2026 年度）

2026 年 10 月発行

編集兼発行所　公益社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町 2-1
東京証券取引所ビル　5 階
http://www.saa.or.jp